



# リモートルータ **RT60w**

## ユーザーズマニュアル

**本機を活用したいときにお読みください**

本機の機能や便利な使いかたを知りたいときは、本書をよく読んで設定を行ってください。  
本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

## マニュアルのご案内

RT60wの機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。🌀マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。(ユーザーズマニュアル 付録)



### スタートマニュアル

RT60wを使い始めるときに読むマニュアルです。  
設置のしかたや設定のしかた、基本的な使いかたについて説明しています。



### ユーザーズマニュアル(本書)

RT60wの機能をもっと活用したくなるときに読むマニュアルです。  
電話、FAX、ルータとしての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。また、困ったときの対処方法についてもまとめて説明しています。



### コマンドリファレンス(PDF形式)

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。  
RT60wのコンソールコマンドについて解説しています。

- ・ 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- ・ 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

## 重要なお知らせ

### プロバイダ契約について

RT60wをダイヤルアップルータとしてご使用になる前、もしくは新たにプロバイダ契約を行う前に、必ずプロバイダの契約上ダイヤルアップルータによる複数台のパソコン接続が可能であることを確認してください。プロバイダによっては禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。 使用できない場合は、必要な契約を行うか、使用可能な他のプロバイダと契約してください。

### 通信料金について

RT60wをダイヤルアップルータとしてご使用になる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。ダイヤルアップルータをパソコンやLANに接続した場合、ダイヤルアップルータはパソコンのアプリケーション（メールソフト、ブラウザなど）が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、LAN外の宛先があると本体に設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。そのため設定間違い、回線切断忘れ、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダ接続料金がかかる場合があります。 ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかにご注意ください。また設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、ときどきNetVolanteシリーズのホームページ(<http://NetVolante.rtrpro.yamaha.co.jp/>)を見ることを強く推奨します。

次のようなケースでは、予想外の通信料金がかかっている場合があります。

- 本機を使い始めた時
- 本機のプロバイダ接続設定を変更した時
- MP 接続を設定した時
- 無線 LAN の設定を変更した時
- 機器間アナログ通話機能の設定を変更した時
- LAN-TA機能を利用時にパソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時
- Real Player をインストールした時
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時
- 本機のファームウェアをリビジョンアップした時
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など



注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（LAN-TA 接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。

## 無線LANの電波に関する注意

本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は日本国内でのみ使用できます。

心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。

医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。

電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。

本製品を分解 / 改造すること

本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

本製品の無線チャンネルを工場出荷時以外に設定して使用する場合は、以下の事項に注意してください。但し、本製品の無線チャンネルが工場出荷状態の場合は、移動体識別用の無線局と電波干渉をすることはありません。

この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉を回避してください。

その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社ネットボランチャコールセンターへお問い合わせください。

使用周波数帯域	2 . 4 GHz
変調方式	DS - SS方式
想定干渉距離	40 m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

#### 電波障害規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# 目次

マニュアルのご案内 .....	表紙裏
重要なお知らせ .....	1
本書の表記について .....	7
商標について .....	7
安全にお使いいただくために .....	8
各部の名称と機能 .....	10
前面 .....	10
背面 .....	11
ディスプレイ .....	12

## 第 1 章 ルータについて

1-1 インターネットとルータ .....	14
1-2 IP アドレスについて .....	16
1-3 ルータとTAの違い .....	19
1-4 ISDN の付加サービスについて .....	20
1-5 RT60w の特長 .....	21

## 第 2 章 設定のしかた

2-1 設定方法の種類について .....	24
2-2 電話機で設定する .....	25
設定のしかた .....	25
電話機設定機能一覧表 .....	29
2-3 ボタンで設定する .....	32
インターネット接続操作 .....	32
設定のしかた .....	33
ボタン設定機能一覧表 .....	36
2-4 ブラウザで設定する .....	37
設定のしかた .....	37
ブラウザ設定ページ項目一覧表 .....	43
2-5 コンソールコマンドで設定する .....	46
コンソールコマンドとは .....	46
設定のしかた .....	46
2-6 離れた場所のルータを設定する .....	48

## 第 3 章 電話の使いかた

3-1	電話をかける	52
3-2	電話を受ける	54
3-3	内線電話をかける	55
3-4	外線通話を他の内線へ転送する	56
3-5	通話中に他の着信を受ける	59
3-6	通話を別の外線へ転送する	64
3-7	三人で通話する	68
3-8	外線の着信を転送する	73
3-9	電話番号を登録する	79
3-10	着信ベルを設定する	81
3-11	ナンバー・ディスプレイを利用する	83
3-12	着信拒否を設定する	85
3-13	擬似ナンバー・リクエストを設定する	87
3-14	TEL ポート毎に使い分ける	89
	i・ナンバーサービスの設定例	89
	ダイヤルインサービスの設定例	91
	TEL ポート毎の設定例	92

## 第 4 章 FAX の使いかた

4-1	FAX 機器を使う	96
4-2	FAX モデムを使う	97
4-3	RVS-COM ソフトを使う	98
	RVS-COM ソフトについて	98
	RVS-COM の設定	101
	パソコンからの FAX 送信手順	104
	パソコンからの FAX 受信手順	104

## 第 5 章 メール着信の使いかた

5-1	メール着信確認機能について	106
5-2	メールアドレスを登録する	107
5-3	メールの着信を確認する	110
5-4	メール着信転送を設定する	113

## 第 6 章 無線 LAN の使いかた

6-1	無線 LAN について	120
6-2	無線 LAN の利用例	121
6-3	無線 LAN のセキュリティを強化する	123
6-4	複数台の RT60w を接続する	126
6-5	複数ルータ間で通話する	136

## 第 7 章 ルータの活用例

7-1	プロバイダ接続を制限する .....	144
	プロバイダ接続制限を設定する .....	144
	プロバイダ接続制限を解除する .....	147
7-2	自動切断を制限する .....	149
7-3	128kbit/s で接続する .....	151
7-4	複数の接続先を使い分ける .....	154
	メール専用の接続先を使い分ける .....	155
	パソコン毎に接続先を使い分ける .....	157
7-5	ルータの IP アドレスを変更する .....	162
7-6	LAN と LAN を接続する .....	164
	TCP/IP プロトコルのファイル共有設定例 .....	165
	Windows 95/98 におけるファイル共有設定例 ...	173
7-7	外出先からリモートアクセスする .....	178
7-8	外部にサーバを公開する .....	191
7-9	ネットワークゲーム用に設定する .....	196
7-10	LAN-TA を使って接続する .....	198

## 第 8 章 困ったときは

8-1	電話が繋がらないときは .....	208
8-2	インターネットに接続できないときは .....	211
8-3	通信料金に異常があるときは .....	216
	通信記録の見かた .....	217
	原因になりやすい設定項目 .....	219
8-4	本機の設定を工場出荷設定にもどすには .....	225
8-5	パソコンの IP アドレスをリセットするには .....	226
	Windows 95/98 の場合 .....	226
	Macintosh の場合 .....	227
8-6	最新情報を入手するには .....	228
8-7	最新機能を使うには .....	229
8-8	製品のサポートとサービスについて .....	231
	本機の保証サービスについて .....	231
	ご質問・お問い合わせについて .....	231

## 付録

Acrobat Reader について .....	234
Acrobat Reader のインストール .....	234
Acrobat Reader の使いかた .....	235
仕様 .....	236
切断コード一覧表 .....	237
用語集 .....	244
索引 .....	251
製品サポートのご案内 .....	表紙裏

## 本書の表記について

### ■ マークの意味

本書では、安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示しています。必ずお読みください。

 **警告** ・人体に危険を及ぼしたり、装置に大きなダメージを与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

 **注意** ・機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

MEMO ・操作や運用上に関連した情報です。参考にお読みください。

### ■ 略称について

本書では、YAMAHA RT60w のことを本機、Microsoft® Windows® 98 を Windows98、Microsoft® Windows® 95 を Windows95、Microsoft® Windows NT® を WindowsNT、Microsoft® Windows® 2000 を Windows2000、INS ネット 64 のことを ISDN、10BASE-T ケーブルのことを LAN ケーブルと記述しています。

### ■ 設定例について

本書に記載されている IP アドレスやドメイン名、URL アドレスなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

## 商標について

- ・ イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- ・ Apple、Macintosh、MacOS は米国 Apple 社の登録商標および商標です。
- ・ Microsoft、Windows は米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Adobe、Acrobat は米国 AdobeSystems 社の登録商標です。
- ・ INS ネット 64 は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- ・ Stac LZS は米国 Hi/fn 社の登録商標です。

## 安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために下記をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。



### 警告

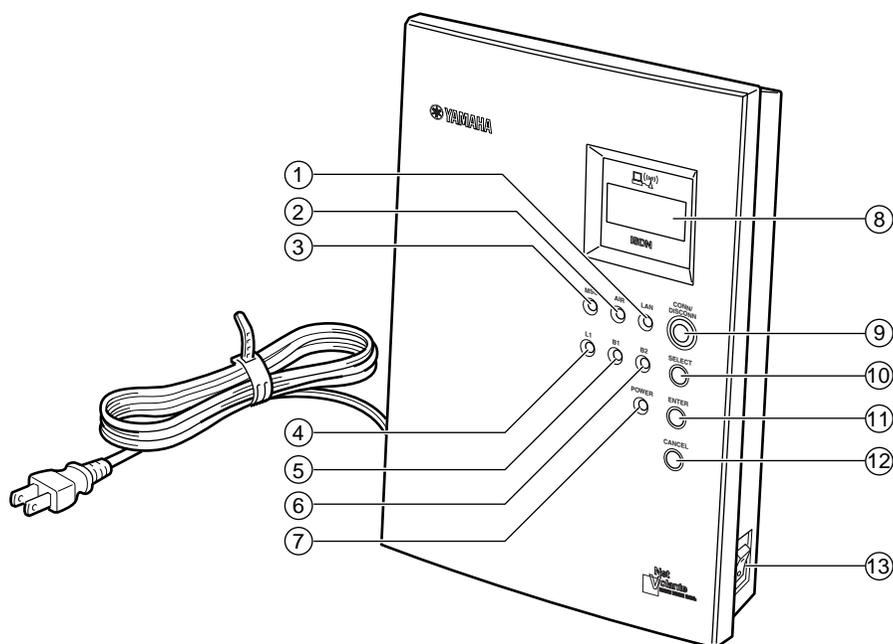
- ・本機は一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するには設計されていません。誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- ・自動接続が設定されている場合、「かんたん設定ページ」の[ ネットボランチホームページ ]を押すとインターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- ・本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、および電源ケーブルが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電の恐れがあります。
- ・濡れた手で電源ケーブルを触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- ・電源ケーブルを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ・本機は日本国内用AC100V(50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- ・本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機の換気口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- ・乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショートさせたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。
- ・アナログポートやISDNポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。

 注意

- ・直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、電源コードを抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ・ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- ・近くに雷が発生したときは、電源コードやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機のアースは必ずとってください。落雷時のダメージを軽減したり、感電防止やノイズ防止の効果があります。
- ・本機のアナログポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- ・無線 LAN を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線 LAN 装置の近くへの設置を避けるようにしてください。また、遮蔽物があると、通信距離が短くなる場合があります。
- ・無線を使った第三者による ISDN 回線の不正使用を防ぐため、WEP 機能を ON にして使用することを強くお勧めします。
- ・本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。

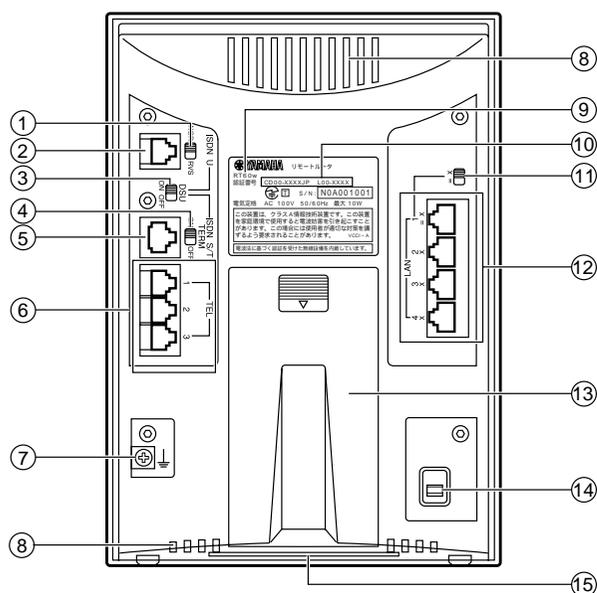
## 各部の名称と機能

### 前面



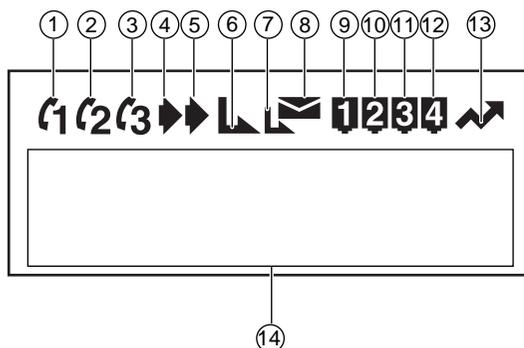
- ① LAN ランプ  
LAN ポートの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- ② AIR ランプ  
無線 LAN の使用状態を表わすランプです。通信可能な状態のときは点灯、通信中は点滅します。
- ③ MSG ランプ  
登録したメールアドレスへメールが着信しているときに、点滅します。( P.110 )
- ④ L1 ランプ  
ISDN の回線状態を表わすランプです。回線が使用可能なときに点灯します。
- ⑤ B1 ランプ  
ISDN B1チャンネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- ⑥ B2 ランプ  
ISDN B2チャンネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。
- ⑦ POWER ランプ  
電源の状態を表わすランプです。電源がオンのときは点灯、停電でバックアップ電源(電池)により動作しているときは点滅します。
- ⑧ ディスプレイ  
ルータの状態やメッセージが表示されます。( P.12 )
- ⑨ CONN/DISCONN ボタン  
プロバイダへのルータ接続を手動で切断したり、接続するときに押します。( P.32 )
- ⑩ SELECT ボタン  
本機のメニュー項目や設定項目を選択するときに押します。( P.33 )
- ⑪ ENTER ボタン  
選択したメニューや項目を決定するときに押します。( P.33 )
- ⑫ CANCEL ボタン  
メニュー階層をもどるときに押します。( P.34 )
- ⑬ POWER スイッチ  
電源をオン/オフするスイッチです。

## 背面



- ① 極性反転スイッチ  
ISDN Uポートの極性を反転させるスイッチです。
- ② ISDN Uポート  
NTTのISDN回線とモジュラーケーブルで接続します。
- ③ DSUスイッチ  
内蔵のDSUを切り離すスイッチです。内蔵のDSUを使うときはON側、使わないときはOFF側にします。
- ④ ターミネータスイッチ  
ISDN機器のターミネータ(終端抵抗)をオン/オフするスイッチです。ISDN S/Tポートに何も接続していないときはON側、他のISDN機器を接続しているときは、終端の機器のターミネータを1つだけONにし、その他の機器はすべてOFFにします。
- ⑤ ISDN S/Tポート  
ISDN機器を接続するポートです。内蔵のDSUを使わない場合は、このポートとDSUまたはISDN機器をISDNケーブルで接続します。
- ⑥ TELポート  
アナログの電話機やFAX、モデムを3台まで接続できます。停電時はバックアップ電源により、TEL1ポートのみ使用可能となります。
- ⑦ アース端子  
アースコードを接続します。必ず接続してください。
- ⑧ 換気口  
内部の熱を逃がすための穴です。
- ⑨ 機器名  
ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている機器名を記入します。
- ⑩ 認証番号  
ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている認証番号を記入します。2つ両方を記入してください。
- ⑪ LANスイッチ  
LAN1ポートの極性を切り替えるスイッチです。パソコンやHUBのUPLINKポートと接続するときは×側、HUBのUPLINK以外のポートと接続するときは=側にします。
- ⑫ LANポート  
パソコンのLANポートまたはHUBのポートとLANケーブルで接続します。
- ⑬ 電池ボックス  
停電時のバックアップ電源用電池を入れます。停電中でもTEL1ポートに接続したアナログ電話機が使用可能になります。
- ⑭ 電源コード  
AC100V、50/60Hzのコンセントに接続します。
- ⑮ MACアドレス(底面)  
機器固有のネットワーク機器識別番号です。下6桁がESS-IDの初期値に設定されています。

## ディスプレイ



- ① TEL1 ポート表示  
TEL 1 ポートの使用状態を表わします。TEL 1 ポートに接続したアナログ機器を使用中に点灯します。
- ② TEL2 ポート表示  
TEL2 ポートの使用状態を表わします。TEL 2 ポートに接続したアナログ機器を使用中に点灯します。
- ③ TEL3 ポート表示  
TEL 3 ポートの使用状態を表わします。TEL 3 ポートに接続したアナログ機器を使用中に点灯します。
- ④ B1 チャンネル表示  
B1チャンネルがデータ通信で使用されているときに点灯します。
- ⑤ B2 チャンネル表示  
B2チャンネルがデータ通信で使用されているときに点灯します。
- ⑥ 着信転送表示  
着信転送が設定されている場合に点灯します。  
( P.73 )
- ⑦ メール転送表示  
メール転送が設定されている場合に点灯します。  
( P.113 )
- ⑧ メール着信表示  
メール着信機能が設定されている場合に点灯します。  
( P.110 )
- ⑨ LAN1 ポート表示  
LAN1 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑩ LAN2 ポート表示  
LAN2 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑪ LAN3 ポート表示  
LAN3 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑫ LAN4 ポート表示  
LAN4 ポートに機器が接続されている場合に点灯します。
- ⑬ 自動接続表示  
プロバイダ自動接続が設定されている場合に点灯します。
- ⑭ メッセージ表示  
ルータの動作状態や各種情報、メニューが表示されます。ISDN 回線の場合、通常は日付と時刻が表示されています。

# 第 1 章

## ルータについて

この章では、インターネットのしくみや基礎知識について解説しています。ルータを使いこなすためやトラブルを避けるために、必ずご一読ください。

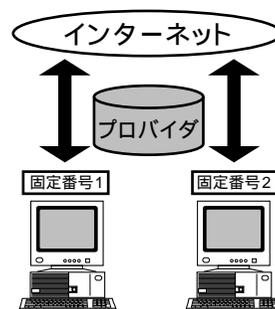
1-1	インターネットとルータ .....	14
1-2	IP アドレスについて .....	16
1-3	ルータと TA の違い .....	19
1-4	ISDN の付加サービスについて .....	20
1-5	RT60w の特長 .....	21



IPアドレスの入手方法は、インターネットへの接続方法によって違います。

モデムやTAで接続する「端末型ダイヤルアップ接続」の場合は、プロバイダに電話をかける度にプロバイダのホストコンピュータが持っているIPアドレスの中からそのとき限りのIPアドレスが割り当てられます。このIPアドレスは、電話（接続）を切るまで有効です。次に電話をかけたときは、また違うIPアドレスが割り当てられます。

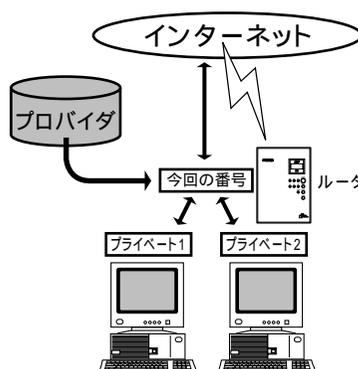
「専用線接続」や「LAN型ダイヤルアップ接続」の場合は、プロバイダとの契約時に予め決められたIPアドレスを必要な数だけ割り当ててもらいます。そのIPアドレスを個々のパソコンに設定することで、インターネットへ接続できるようになります。



RT60wのようなアドレス変換機能を持ったダイヤルアップルータで接続する場合は、ルータからLAN内専用のプライベートIPアドレスが各パソコンに割り当てられます。

インターネットに接続するときは、ルータが個々のプライベートIPアドレスをプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスに変換してインターネットへ送ります。もどってきたデータは、元のプライベートIPアドレスに変換してLAN内のパソコンへ送ります。

この変換機能を「NAT機能」と「IPマスカレード機能」といい、この機能によって端末型ダイヤルアップ契約でも複数のパソコンからインターネットが使えるようになっています。



プロバイダとの契約やルータの設定をするときは、必ずIPアドレスの情報が出てきますが、重要な情報なので必ず確認し、大切に保管してください。

## 1-2 IP アドレスについて

1

ルータについて

### ■ IP アドレスとは

IP アドレスは、"192.168.0.250" のような 4 つの数字からなる識別番号です。インターネットでは、世界中のコンピュータから 1 台のコンピュータを識別するために、「IP アドレス」を使っています。IP アドレスには、世界中のインターネット上で通用する「グローバル IP アドレス」と、自分の LAN 内だけで通用する「プライベート IP アドレス」の 2 種類があります。

### ■ グローバル IP アドレス

グローバル IP アドレスは、インターネットで世界中につながっているコンピュータの中から 1 つのコンピュータを特定するための IP アドレスです。グローバル IP アドレスは重複することができませんので、正式な手続きを経て取得する必要があります。専用線接続や LAN 型ダイヤルアップ接続の契約を申し込むと、グローバル IP アドレスが割り当てられます。端末型ダイヤルアップ接続の契約では、電話をかける度にプロバイダが取得したグローバル IP アドレスを一時的に借りてインターネットに接続しています。

### ■ プライベート IP アドレス

プライベート IP アドレスは、自分の LAN 内に限って使用が許されている IP アドレスです。約 43 億通りの IP アドレスのうち、次の範囲の IP アドレスを使用することができます。本機の初期設定値は、"192.168.0.1" に設定されています。

10.0.0.0 ~ 10.255.255.255

172.16.0.0 ~ 172.31.255.255

192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

### ■ ネットマスク

ネットワークの IP アドレス範囲を表わす数値を「ネットマスク」といいます。ネットマスクの仕掛けは、次のようになっています。

ネットワーク番号 192.168.11.0/26 を使う場合

192.168.11.0 を 2 進数で表わすと、32 桁になります。左からネットマスクの個数分 1 を並べ、残りに 0 を並べます。1 の範囲がそのネットワークを示す識別番号となり、0 の範囲がネットワーク内の各機器を示す識別する番号となります。

ネットワーク番号 (10 進数表示): 192.168.11.0

(2 進数表示): 11000000.10101000.00001011.00000000

ネットマスク (2 進数表示): 11111111.11111111.11111111.11000000

IP アドレスの範囲を具体的に使う 10 進数で表わすと、次のようになります。

IP アドレスの最初 (10 進数表示): 192.168.11.0

IP アドレスの最後 (10 進数表示): 192.168.11.63

ネットマスクは、"192.168.11.0/26" の他に "26 ビット" や "255.255.255.0" と表記されることもあります。本機の工場出荷値は "192.168.0.0/24" に設定されています。

## ■ ルータの NAT 機能とは

プライベートIPアドレスでは、インターネットに接続することはできません。本機では、内蔵の「NAT ( Network Address Translator )」機能で、プライベートIPアドレスを端末型ダイヤルアップ接続で取得したグローバルIPアドレスに変換することにより、LAN内のパソコンからインターネットへの接続を可能にしています。さらに本機の「IP マスカレード」機能により、複数のパソコンのプライベートIPアドレスを1つのグローバルIPアドレスに自動変換することで、端末型ダイヤルアップ接続でも、複数のパソコンからインターネット接続することを可能にしています。

また、専用線接続でグローバルIPアドレスが割り当てられているけれど数が足りないというときは、NAT機能とIPマスカレード機能を使うことで、より多くのパソコンを接続することができるようになります。

## ■ IP アドレスのルール

専用線契約でプロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレス範囲やプライベートIPアドレスとして設定した範囲のうち、始めの番号を「ネットワークアドレス」、最後の番号を「ブロードキャストアドレス」に割り当てる決まりになっていて、使うことができません。

例えば、"172.16.128.112/28" のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は "172.16.128.112" ~ "172.16.128.127" の16個ですが、

IP アドレス範囲最初	172.16.128.112 = ネットワークアドレス
	172.16.128.113 = ルータ
	172.16.128.114 = サーバ A
	172.16.128.115 = パソコン 1
	172.16.128.116 = サーバ B
	172.16.128.117 = パソコン 2
	172.16.128.118 = パソコン 3
	172.16.128.119 :
自由に使える範囲	172.16.128.120
	172.16.128.121
	172.16.128.122
	172.16.128.123
	172.16.128.124
	172.16.128.125
	172.16.128.126
IP アドレス範囲最後	172.16.128.127 = ブロードキャストアドレス

となり、実際にルータやパソコンなどに使える番号は、"172.16.128.113" ~ "172.16.128.126" の14個となります。

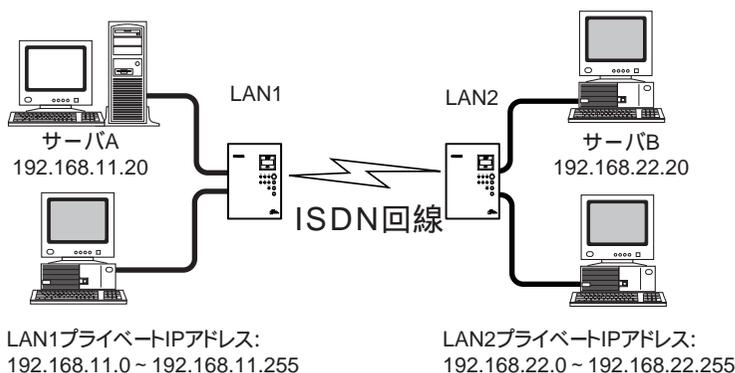
このルールは自分のLANにプライベートIPアドレスを設定して使うときも同じです。

## LAN と LAN をつなぐには

本機のダイヤルアップルータ機能を使うと、インターネット以外にも特定の LAN と LAN をダイヤルアップで接続することが可能です。お互いのルータに電話番号やユーザ ID、パスワード、接続条件などを設定することで、離れた場所の LAN と LAN を ISDN 回線経由や専用線経由でつなぐことができます。これを「LAN 間接続」といいます。

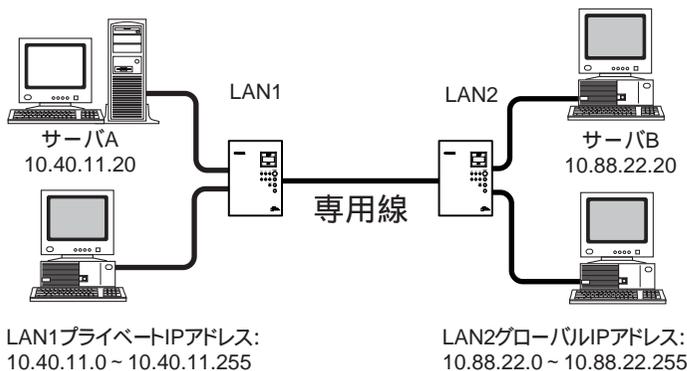
### ISDN 回線経由の LAN 間接続

ISDN 回線の場合は、接続相手を複数登録して必要なときに必要な相手と接続することができます。



### 専用線経由の LAN 間接続

専用線接続の場合は、特定の LAN とつなげることができます。



しかし、LAN どうしをつなぐときは注意が必要です。プライベート IP アドレスも重複することはできませんので、あらかじめお互いの LAN のプライベート IP アドレスが重複しないように IP アドレスの範囲を変えておく必要があります。また、相手のサーバを特定するために、それぞれのサーバのプライベート IP アドレスを固定するなどの設定作業も必要になります。

### 注意

- LAN 間接続を行うときは、データ保全のために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定を行わないと双方の LAN に接続されたコンピュータが、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭う可能性があります。

## 1-3 ルータとTAの違い

ISDN回線を利用してインターネットへ接続するための装置として、TAとルータの2種類があります。それぞれ特徴が違います。

### ■ TAの機能

TAは、パソコンの通信データをISDN回線用のデジタル信号に変換する装置です。ISDN回線用のモデムに相当し、モデムと同様に使うことができます。TAの場合は、パソコン1台につき1つのTAと回線が必要です。またプロバイダ接続情報をパソコンに設定して使うので、パソコン毎に設定作業が必要です。TAでインターネットへ端末型ダイヤルアップ接続すると、プロバイダのグローバルIPアドレスが割り当てられますので、ネットワークゲームやICQなど、グローバルIPアドレスを利用したサービスを利用することが可能です。また、パソコンでWindowsのダイヤルアップサーバやMacintoshのARA(アップル・リモート・アクセス)サーバを利用したいときは、TAが必要です。

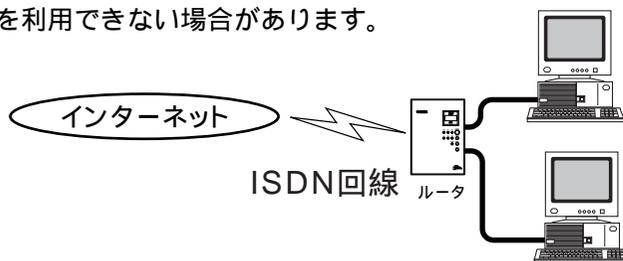


### ■ ルータの機能

ルータは、LAN内のデータの宛て先を監視して、データの流れを制御(ルーティング)する装置です。ダイヤルアップルータは、LAN内のデータにインターネット宛てを見つけると、ルータが自動的にプロバイダへ電話をかけてインターネットに接続します。パソコンのダイヤルアップ操作が不要で、あたかも専用線で接続しているような快適さでインターネットを利用できます。

ルータの場合は、1つの回線で接続するため、1つのプロバイダ接続契約でLAN内の複数のパソコンから同時に使用することができます。またプロバイダ接続情報はルータに設定するので、パソコンが何台増えてもルータ1箇所を管理するだけで運用できます。

ただし、ルータでは、LAN内のプライベートIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換して接続するため、グローバルIPアドレスを利用したソフトウェアやサービスを利用できない場合があります。



## 1-4 ISDN の付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。その他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

- 発信者番号通知： 発信者の番号を相手に通知できます。
- サブアドレス通知： ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続した機器を指定して着信させることができます。
- i・ナンバー（有料）： 電話番号を最大2つまで増設できます。アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。
- ダイヤルイン（有料）： 電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。
- 料金情報通知： 通話にかかった料金が通知されるサービスです。
- 通信中着信通知サービス： 通話中に新たな着信を知らせるサービスです。
- [フレックスホン]
- INSキャッチホン（有料）： 通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信相手と話せるキャッチホンサービスです。
- 三者通話（有料）： 通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
- 通信中転送（有料）： 通話中の通信を第三者へ転送できます。
- 着信転送（有料）： 着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

### MEMO

- ・本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現することができます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。
- ・NTTのフレックスホンでは交換機がサービスを行うので、回線の状態にかかわらず利用することができます。
- ・擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2本同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。したがって、擬似フレックスホン機能が働いている時は、2回線共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。

## 1-5 RT60w の特長

### ■ オールマイティルータ

RT60wは、"ダイヤルアップルータ"、"無線LANアクセスポイント"、"HUB"、"アナログポート"、"DSU"をすべて内蔵しているので、ダイヤルアップ接続から専用線接続までさまざまなインターネット接続方法に対応可能です。接続方法のステップアップにも、RT60wはそのまま設定変更のみで使用できます。

本機には、シリアルポート接続のTA機能はありません。

### ■ 無線LAN & 有線LAN (10BASE-T) 両対応

RT60wはIEEE802.11b準拠の11Mbit/s無線LANアクセスポイントを内蔵しており、配線なしでインターネット接続とLAN接続が可能です。また、10BASE-Tの4ポートHUBを内蔵しており、内蔵のブリッジ機能により相互のLAN接続やインターネット接続も簡単です。無線LANには約32台まで接続可能(同時使用可能な無線端末数は、使用環境により減る場合があります)、有線LANにもHUBを増設できるので、パソコンが増えても安心です。

さらに複数のRT60wを使うと、離れたLANどうしをつなげるブリッジ機能や、移動しても無線アクセスポイントを自動切り替えできるローミング機能にも対応しています。

### ■ 充実のアナログ機能

TELポートは3ポート装備しているので、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。もちろん、サブアドレスやフレックスホン、ナンバーディスプレイ、i・ナンバー、ダイヤルインなどのISDNサービスにも対応しています。また、複数のRT60wとTELポートを一括管理する「機器間アナログ通話機能」を搭載。簡易ホームテレホンとして各機のTELポートで外線や内線を利用可能です。

### ■ 簡単設定

付属のユーティリティソフト「RT60wパソコンセットアップユーティリティ」で面倒なパソコンのネットワーク設定を自動的に行えます。また、RT60wは設定のためのホームページ「RT60wかんたん設定ページ」を内蔵しており、ブラウザで基本的な設定が可能です。

### ■ 簡単操作

前面のボタンにより、インターネットの手動切断も簡単です。ディスプレイにはルータの動作状態や料金情報が表示され、ボタン操作で簡単に各種情報を確認できます。

### ■ 停電対応

停電時には、乾電池によるバックアップ電源でTEL1ポートを使用でき、ライフラインとしての電話回線を確保できます。

## ■ メール着信確認 / メール着信転送機能

登録したメールアドレスへのメール着信を通知する「メール着信確認機能」を搭載しており、パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無が確認できます。また「メール着信確認」の際にそのメールを他のメールアドレス(携帯電話やPHSのEメールサービスも含む)に転送する「メール着信転送機能」も搭載しています。

## ■ LAN-TA 機能搭載 (Windows のみ)

Windows98/2000の「仮想プライベートネットワーク」機能に対応しており、LAN上のWindowsパソコンから本機を仮想TAとして使うことができます。

## ■ RVS-COM 2000 対応 (Windows のみ)

LAN上のパソコンからFAXモデムなしでFAXの送受信が行えるWindows用FAXソフト「RVS-COM 2000」に対応しています。(利用するには別途「RVS-COM 2000」が必要です。)

## ■ PIAFS 対応

64kbit/s および 32kbit/s のPIAFS対応ダイヤルアップサーバ機能を搭載しており、PHS電話機で外出先からLANに高速アクセスが可能です。(PIAFS 32k、64kbit/sに対応。64kbit/sはギャランティーモードとベストエフォートモードの両方に対応)

## ■ 簡単バージョンアップ

ご購入後に新しい機能が追加されても、リビジョンアップ(バージョンアップ)を行うことで、最新の機能が利用可能になります。リビジョンアップは、NetVolanteシリーズのホームページ(<http://NetVolante.rpro.yamaha.co.jp/>)からリビジョンアッププログラムをダウンロードし、プログラムを実行するだけの簡単操作で行えます。

## ■ 充実の NetVolante ホームページ

NetVolanteシリーズのホームページ(<http://NetVolante.rpro.yamaha.co.jp/>)では、NetVolanteシリーズの最新情報や機能の設定方法、FAQ、リビジョンアッププログラムなど、NetVolanteを活用するための情報を満載しています。本機の「かんたん設定ページ」からは、右上の[ネットポランチホームページ]ボタンで簡単にアクセスできます。

また、ヤマハルータRTシリーズホームページ(<http://www.rpro.yamaha.co.jp/>)では、RTシリーズルータを使った高度な活用例や詳しい解説がご覧いただけます。

## ■ 信頼と実績のルータ機能

多くのLANシステムで採用されてきたYAMAHA RTシリーズリモートルータの信頼と実績を継承しており、SOHOやLAN、WANなどさまざまなネットワークシステムで安定したルータ機能を発揮します。

# 第 2 章

## 設定のしかた

この章では、本機の機能やいくつかの設定方法について紹介しています。一番操作しやすい方法でお使いください。

2-1	<b>設定方法の種類について</b> .....	24
2-2	<b>電話機で設定する</b> .....	25
	設定のしかた .....	25
	電話機設定機能一覧表 .....	29
2-3	<b>ボタンで設定する</b> .....	32
	インターネット接続操作 .....	32
	設定のしかた .....	33
	ボタン設定機能一覧表 .....	36
2-4	<b>ブラウザで設定する</b> .....	37
	設定のしかた .....	37
	ブラウザ設定ページ項目一覧表 .....	43
2-5	<b>コンソールコマンドで設定する</b> .....	46
	コンソールコマンドとは .....	46
	設定のしかた .....	46
2-6	<b>離れた場所のルータを設定する</b> .....	48

## 2-1 設定方法の種類について

本機の機能は、次の操作方法で設定したり、情報を見ることができます。

### 電話機

本機のTELポートに接続したプッシュボタン式電話機から、本機の設定を行うことができます。設定は、受話器を上げてダイヤルボタンを押して行います。

ユーザズマニュアル 第2章「2-2 電話機で設定する」(P.25)

### ボタン

本機前面のボタンを使って、インターネット接続や着信転送などを設定したり、通信記録などの情報をディスプレイで確認することができます。

ユーザズマニュアル 第2章「2-3 ボタンで設定する」(P.32)

### ブラウザ

本機にパソコンを接続している場合は、ブラウザを使って本機に内蔵のかんたん設定ページを開くことで、本機の状態を見たり、各種機能を設定することができます。

ユーザズマニュアル 第2章「2-4 ブラウザで設定する」(P.37)

### コンソールコマンド

telnetソフトを使ってコンソール画面からコマンドを入力することで、本機の状態を見たり、各種機能を設定することができます。

ユーザズマニュアル 第2章「2-5 コンソールコマンドで設定する」(P.46)  
コマンドリファレンス

### リモートセットアップ

ヤマハRTシリーズのルータどうしならば、本機でISDN回線または専用線経由で相手のルータの設定を行ったり、相手のルータから本機の設定を行うことができます。

ユーザズマニュアル 第2章「2-6 離れた場所のルータを設定する」(P.48)  
コマンドリファレンス

## 2-2 電話機で設定する

本機の機能設定は、TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で行うことができます。電話機からは、主に本機の電話機能を設定することができます。設定できる機能と設定値については、「電話機設定機能一覧表」( P.29 )をご覧ください。よく使う設定例はP.27 以降を参照してください。

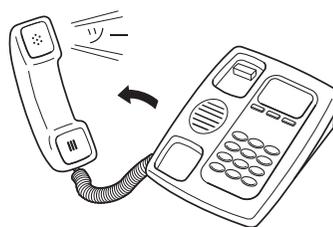
### MEMO

- ・電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン(プッシュ)に切り替えてから操作してください。パルス(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。また、外線電話から設定することはできません。
- ・電話機から設定すると、設定内容は不揮発性メモリに保存されますので、電源が切れても内容は消えません。ただし、IPアドレスとネットマスクは不揮発性メモリに記憶されません。また、設定内容はディスプレイにも表示されます。

## 設定のしかた

電話機で [ \* ] + [ # ] + [ 機能番号 ] + [ TELポート番号 ] + [ 設定値 ] の順でダイヤルし、[ # ]を押すと、本機の電話機能が設定されます。ここでは、TEL2ポートにダイヤルイン番号"031-333-2002"を設定する場合を例に操作の手順を説明します。

### 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

### 2 [ \* ] と [ # ] を押します。



発信音が止まり、"ツツー、ツツー"という音が聞こえます。

### 3 機能番号を押します。

ダイヤルイン番号を設定する場合の例



- 4** TELポート番号を押します。  
TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。[ \* ]を押すと今お使いのTELポートに設定されます。  
TELポート番号が不要な機能は、何も押さずに次の手順へ進んでください。

TEL2ポートの場合の例

②

- 5** 設定値を押します。  
ダイヤルイン番号 "031-333-2002" を設定するときは、0313332002を押します。

① ③ ① ③ ③ ③ ② ① ① ②

- 6** [ # ]を押します。  
"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順**3**から操作してください。

Ⓜ

MEMO ■ ・設定内容は、本体の液晶ディスプレイでも確認できます。

- 7** 受話器を置きます。  
続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順**3**～**6**の操作を繰り返します。



設定例 1：ダイヤルイン番号を設定する  
TEL2 ポートのダイヤルイン番号を“031-333-2002”にする場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 1 1 2  
0 3 1 3 3 3 2 0 0 2 ~~＃~~

設定例 2：サブアドレスを設定する  
TEL1 ポートのサブアドレスを“88”にする場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 1 2 1 8 8 ~~＃~~

設定例 3：アナログポートを使用制限する  
TEL3 ポートに何も接続しない場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 1 4 3 0 ~~＃~~

設定例 4：フレックスホンを設定する  
NTTのINSキャッチホンを使用する場合の手順。この設定はTELポート共通の設定となります。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 5 2 1 ~~＃~~

NTTの通信中転送を使用する場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 5 3 1 ~~＃~~

NTTの三者通話を使用する場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 5 4 1 ~~＃~~

TEL2 ポートでNTTの着信転送を使用する場合の手順。  
(転送先アドレスは“031-333-5555”、1回コール後に転送)

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 5 5 2 1 ~~＃~~  
5 6 2 0 3 1 3 3 3 5 5 5 5 ~~＃~~  
5 8 2 1 ~~＃~~

設定例 5：話中着信の設定  
TEL1 ポートで話中着信を許可する場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 3 6 1 1 ~~＃~~

設定例 6：ダイヤルの桁間隔時間を設定する  
TEL1 ポートのダイヤルの桁間隔時間を10秒に設定する場合の手順。

オフフック ~~＊~~ ~~＃~~ 4 1 1 1 0 ~~＃~~

設定例 7：フッキング判定時間を設定する  
TEL1 ポートのフッキング判定時間を 1.2 秒に設定する場合の手順。  
オフフック **✖** **＃** **4** **2** **1** **1** **2** **＃**

設定例 8：識別着信を設定する  
031-444-1818 から TEL 3 ポートへの着信を拒否する場合の手順。  
オフフック **✖** **＃** **3** **2** **3** **2** **＃**  
**3** **3** **3** **0** **3** **1** **4** **4** **4** **1** **8** **1** **8** **＃**

設定例 9：ナンバー・ディスプレイ対応に設定する  
TEL3 ポートをナンバー・ディスプレイ対応にする場合の手順。  
オフフック **✖** **＃** **3** **9** **3** **1** **＃**

設定例 10：パスワードを変更する  
パスワード“666”を“77”に変更する場合の手順。  
オフフック **✖** **＃** **0** **0** **6** **6** **6** **✖**  
**7** **7** **✖** **7** **7** **＃**

設定例 11：IP アドレスとネットマスクを新規設定する  
IP アドレスを“192.168.11.1”、ネットマスクを“255.255.255.0”(24ビット)に  
新規に設定する場合の手順。  
オフフック **✖** **＃** **7** **1** **1** **9** **2** **✖** **1** **6** **8**  
**✖** **1** **1** **✖** **1** **＃**  
**7** **2** **2** **5** **5** **✖** **2** **5** **5** **✖** **2** **5** **5**  
**✖** **0** **＃**

**⚠ 注意**

・専用線接続の場合で LAN の IP アドレスにグローバル IP アドレスが設定されている場合は、必ずプロバイダの接続情報を確認してから作業してください。不安なときは、プロバイダまたは電話事業者の技術者に相談してください。万一間違った IP アドレスを設定した場合、LAN 外のホストやネットワークにトラブルが起きることがあります。

**MEMO**

・IP アドレスを変更するときは、LAN の管理者に本機に割り当てる IP アドレスとネットマスクをお問い合わせください。管理者がいないときは、LAN 上のすべての機器の IP アドレス設定を調べて、ネットマスクの設定値と、重複しない IP アドレスを決めてください。

## 電話機設定機能一覧表

MEMO 電話機から設定できる機能の詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

機能	機能番号	設定値		初期設定値
TEL ポートのダイヤル番号設定	11	TEL ポート番号 1 = TEL1 2 = TEL2 3 = TEL3	回線番号またはダイヤルイン番号	番号なし
TEL ポートのサブアドレス設定	12		サブアドレス番号	なし
通信機器の種類設定	13		0 = 指定なし 1 = 電話 2 = FAX (G2/G3)	0
アナログポート使用制限の設定	14		0 = 使用しない 1 = 発信のみ 2 = 着信のみ 3 = 発信・着信可能	3
発信者番号通知	21		0 = 通知しない 1 = 通知する	0
即時発信	22		0 = 使用しない 1 = 使用する	1
グローバル着信	31		0 = しない 1 = する	1
識別着信	32		0 = しない 1 = 一致時着信 2 = 一致時拒否	2
識別着信の番号登録	33		識別する電話番号	番号なし
サブアドレスなしの着信	34		0 = 拒否 1 = 許可	1
通信機器種別指定の着信	35		0 = 拒否 1 = 許可	1
話中着信	36		0 = 拒否 1 = 許可	0
優先着信ポート	37		1 = 優先順位高い 2 = 優先順位普通 3 = 優先順位低い	2
着信ベル設定	38		着信ベル番号 1 = パターン1 2 = パターン2	識別する相手の電話番号 番号なし
ナンバーディスプレイ機能	39		0 = 使用しない 1 = ナンバー・ディスプレイのみ使用する 2 = ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用する	0
ダイヤル桁の間隔設定 (秒)	41		1 ~ 59	4
フッキング判定時間 (1/10 秒)	42		5 ~ 20	10
フッキング後の操作有効時間 (秒)	43		1 ~ 9	4
フッキング, オンフック無効時間 (秒)	44		1 ~ 3 0 = 全て有効	0
疑似切断信号の設定	45	0 = 送出不しい 1 = 送出する	1	

機能	機能番号	設定値		初期設定値
キャッチホン機能	52	-	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	2
通信中転送機能	53	-	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	0
三者通話機能	54	-	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	0
着信転送機能	55	TELポート番号 1 = TEL1 2 = TEL2 3 = TEL3	0 = 使用しない 1 = フレックスホン 2 = 擬似	0
着信転送先番号登録	56		転送先番号	番号なし
着信転送トーン設定	57		0 = なし 1 = 転送先のみ 2 = 転送元のみ 3 = あり	0
着信転送起動 タイミング設定	58		0 = 無音転送 1 ~ 10 = コール数	0
着信転送失敗時の 動作設定	59		0 = 話中音 1 = 着信ベル	1
送話 PAD の音量設定	61		0 = PAD なし 1 = -3dB 2 = -6dB 3 = -9dB 4 = -12dB 5 = -15dB 6 = -18dB 7 = -21dB	0
受話 PAD の音量設定	62		0 = PAD なし 1 = -3dB 2 = -6dB 3 = -9dB 4 = -12dB 5 = -15dB 6 = -18dB 7 = -21dB	0
DTMF 検出レベル	63		0 ~ 30	18
LAN側のルータIPアドレス設定	71	IP アドレス		192*168*0*1
LAN側のネットマスク設定	72	ネットマスク		255*255*255*0
BOD の設定	73	TELポート番号 1 = TEL1 2 = TEL2 3 = TEL3	0 = 使用しない 1 = 使用する	1
i・ナンバーの設定	81		0 = 使用しない 1 = i・ナンバー 1 着信 2 = i・ナンバー 2 着信 3 = i・ナンバー 3 着信 12 = i・ナンバー 1、2 着信 13 = i・ナンバー 1、3 着信 23 = i・ナンバー 2、3 着信 123 = i・ナンバー 1、2、3 着信 * = 全て	TEL1=1 TEL2=2 TEL3=3

機能	機能番号	設定値				初期設定値	
着信時サービス設定	82	TELポート番号	00 = 契約者番号 01 = ローカルアドレス1 02 = ローカルアドレス2 03 = ローカルアドレス3 04 = ローカルアドレス4 05 = ローカルアドレス5 11 = i・ナンバー1 12 = i・ナンバー2 13 = i・ナンバー3	発信端末タイプ 0 = なし 1 = 電話 2 = FAX * = 全て	着信サービスタイプ 1 = PBダイヤルイン 2 = モデムダイヤルイン 3 = 無鳴動着信	ダイヤルイン番号	-
擬似ナンバーリクエスト	83	1 = TEL1 2 = TEL2 3 = TEL3	発番号なし着信 0 = 拒否 1 = 許可 2 = 擬似ナンバーリクエスト	非通知理由 1 = 公衆電話 2 = ユーザによる通知拒否 3 = 表示圏外 * = 全て		発番号なし着信 全て許可	
アナログポート設定の消去	91		-			-	
識別着信の番号削除	92		登録済みの電話番号			-	
着信ベルの番号削除	93		着信ベル番号	登録電話番号		-	
料金情報の消去	94		-			-	
アナログポート設定の全消去	99		-			-	
パスワードの設定	00		[旧パスワード]*[新パスワード]*[新パスワード]			-	



## 2-3 ボタンで設定する

本機前面のボタンで、よく使う機能を手軽に操作することができます。

### インターネット接続操作

前面の[ CONN/DISCONN ] ボタン操作でインターネットへのルータ接続 / 切断が簡単に行えます。

MEMO [ CONN/DISCONN ] ボタンでアナログポートの接続 / 切断を行うことはできません。

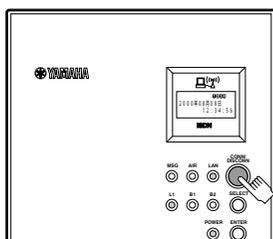
#### ■ インターネットに接続する

本機前面のボタンを押して手動で接続することができます。

MEMO

- ・ボタンで接続する場合は、あらかじめ「かんたん設定ページ」でプロバイダを登録し、ボタン接続を[ する ]に設定してください。登録されていない場合は接続できません。( P.37 )
- ・複数のプロバイダを登録してある場合は、「かんたん設定ページ」で指定したプロバイダに接続されます。ボタン操作でプロバイダを指定することはできません。

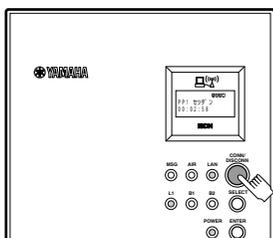
- 1 [ CONN/DISCONN ] ボタンを B1 または B2 ランプが点灯するまで押します。約 2 秒で B1 または B2 ランプが点灯し、インターネットへ接続されます。



#### ■ インターネット接続を切断する

インターネット接続をボタン操作で切断することができます。

- 1 [ CONN/DISCONN ] ボタンを B1 または B2 ランプが消灯するまで押します。約 1 秒で B1 または B2 ランプが消灯し、インターネット接続が切断されます。

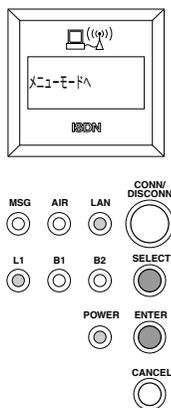


## 設定のしかた

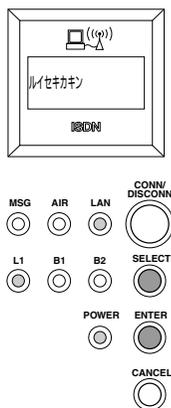
[ SELECT ] ボタン、[ ENTER ] ボタン、[ CANCEL ] ボタンを操作することで、通信記録や料金をディスプレイに表示したり、着信転送やメール着信を設定することができます。ここでは、ボタン操作の代表的な例を説明します。設定できる機能と設定値については、「ボタン設定機能一覧表」( P.36 )をご覧ください。

### ■ 累積課金を確認する

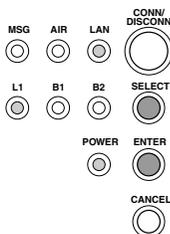
- 1 [ SELECT ] ボタンを押して「メニューモードへ」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。メニュー項目が表示されます。



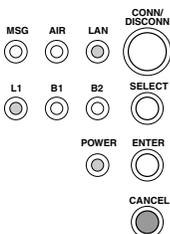
- 2 [ SELECT ] ボタンを何度か押して「ルイセキカキン」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。  
[ SELECT ] ボタンを押す度に次のメニュー項目が表示されます。[ ENTER ] ボタンを押すと、そのメニューの設定項目が表示されます。



- 3** [ENTER] ボタンを押して、累積課金を確認します。  
[ENTER] ボタンを押す度に TEL1 ポート TEL2 ポート TEL3 ポート アナログ  
データ 合計の順で表示されます。

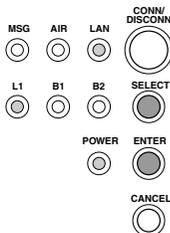
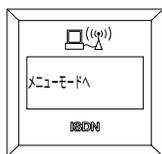


- 4** [CANCEL] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示にもどります。



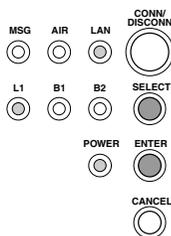
## ■ 自動接続を設定する

- 1** [SELECT] ボタンを押して「メニューモードへ」を表示し、[ENTER] ボタンを押します。  
メニュー項目が表示されます。

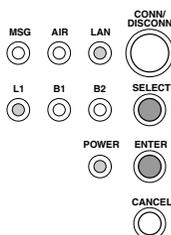


**2** [ SELECT ] ボタンを何度か押して「ジドウセツゾク」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。

[ SELECT ] ボタンを押す度に次のメニュー項目が表示されます。[ ENTER ] ボタンを押すと、そのメニューの設定項目が表示されます。

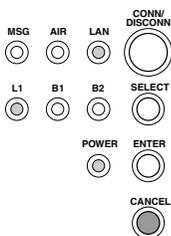


**3** [ SELECT ] ボタンを押して [ ON ] または [ OFF ] を選び、[ ENTER ] ボタンを押します。



[ ON ] の場合は、自動接続が設定されます。[ OFF ] の場合は、自動接続が解除され、自動で接続されなくなります。

**4** [ CANCEL ] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示に戻ります。



## ボタン設定機能一覧表

機能	設定値または表示内容	設定値 2
無線モード設定	アクセスポイント ステーション OFF	
無線 ESS-ID 設定	[ ESS-ID ]	
通信履歴	**** 件数番号 **** [ 日付 ] [ 時刻 ] [ ポート ] [ 発信 / 着信 ] [ 相手先の電話番号 ] [ 接続時間 ] [ 切断コード ] [ 通話料金 ]	
累積課金	TEL 1 [ 累積通話料金 ] 円 TEL 2 [ 累積通話料金 ] 円 TEL 3 [ 累積通話料金 ] 円 アナログ [ 累積通話料金 ] 円 データ [ 累積通話料金 ] 円  合計 [ 合計通話料金 ] 円	
累積課金クリア	TEL1 ポート TEL2 ポート TEL3 ポート アナログポート データポート	
自動接続	ON OFF	
着信転送	TEL1 ポート TEL2 ポート TEL3 ポート	ギジ フレックス OFF
メール確認 & 転送	メールカクニンサーバ1 メールカクニンサーバ2 メールカクニンサーバ3 メールカクニンサーバ4	メールカクニン ON メールカクニン OFF または メールカクニン&テンソウ ON メールカクニン&テンソウ OFF
ブザー設定	ブザー ON ブザー OFF	
IP アドレス設定	[ ルータの IP アドレス ] / [ ネットマスク ] または DHCP クライアント	
DHCP サービス設定	サーバ OFF	
リビジョン確認	RT60w [ リビジョン番号 ]	

### MEMO

- ・通信履歴は、ISDN 回線を接続しているルータにのみ表示されます。
- ・アナログ親機として使用しているルータには、アナログポートの累積料金は TEL 1 ~ 3 ポートとアナログ子機の TEL ポートの通話を含めた合計が表示されます。
- ・アナログ子機として使用しているルータには、アナログポートの料金は表示されません。

## 2-4 ブラウザで設定する

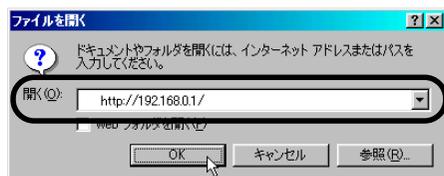
本機を LAN 接続または無線 LAN 接続で使っている場合は、ブラウザを使って本機の設定を行うことができます。ブラウザで設定操作をする場合は、電話機やボタン操作よりも、多くの機能を簡単に設定することができます。

MEMO 「かんたん設定ページ」各設定に関する詳細情報については、各ページの「ヘルプ」ページをご覧ください。

### 設定のしかた

#### 電話機能を設定する

- 1 パソコンを起動します。
- 2 ブラウザを開き、ファイルメニューの [ 開く ] を選択します。  
Windows でユーティリティソフトをインストール済みの場合は、スタートボタンから開くこともできます。
- 3 “ http://192.168.0.1/ ” と入力して [ OK ] ボタンを押します。  
本機の IP アドレスを変更している場合には、192.168.0.1 のかわりに本機の IP アドレスを入力します。



まだルータの管理パスワードが設定されていない場合には管理パスワード設定画面が現れますので、ルータの管理パスワードを設定してください。「RT60w かんたん設定ページへ行く前に」ページが表示されます。

- 4 「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、[ パスワード ] 入力欄にルータの管理パスワードを入力して [ OK ] ボタンを押します。

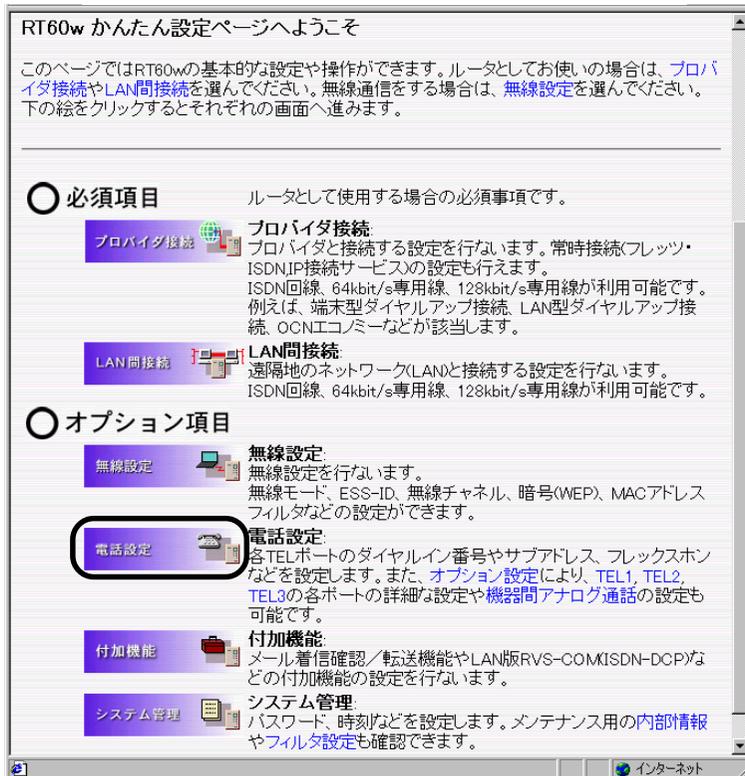


本機に内蔵の「RT60w へようこそ」ページが表示されます。

## 5 「かんたん設定」を押します。



## 6 [電話設定]を押します。



**7** TELポートに電話番号を設定し、優先着信ポートやフレックスホンなどを選択して、  
[登録]ボタンを押します。

TEL1ポートに契約者番号「031-333-2001」を登録する場合の例

**[電話設定]**

- [TEL1オプション設定]
- [TEL2オプション設定]
- [TEL3オプション設定]
- [機器間アナログ通話設定] (単独動作モード)

---

**ポート毎の設定**

※回線番号は半角32桁以内、サブアドレスは半角16桁以内で入力してください。

	回線(ダイヤルイン/イ・ナンバー)番号	サブアドレス
TEL1ポート [オプション設定]	番号1 031-333-2001 相手へ自分の番号を通知 <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
	番号2	
	着信ポート優先順位 [普通]	
	着信を許可するi・ナンバーのポート番号 <input checked="" type="checkbox"/> ポート1 <input type="checkbox"/> ポート2 <input type="checkbox"/> ポート3	
TEL2ポート [オプション設定]	番号1 相手へ自分の番号を通知 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
	番号2	
	着信ポート優先順位 [普通]	
	着信を許可するi・ナンバーのポート番号 <input type="checkbox"/> ポート1 <input checked="" type="checkbox"/> ポート2 <input type="checkbox"/> ポート3	
TEL3ポート [オプション設定]	番号1 相手へ自分の番号を通知 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
	番号2	
	着信ポート優先順位 [普通]	
	着信を許可するi・ナンバーのポート番号 <input type="checkbox"/> ポート1 <input type="checkbox"/> ポート2 <input checked="" type="checkbox"/> ポート3	

※相手へ自分の番号を通知「する」にした場合  
相手番号の前に184を押すことで、その発信に限って自分の番号を通知しないようにできます。

※相手へ自分の番号を通知「しない」にした場合  
相手番号の前に186を押すことで、その発信に限って自分の番号を通知することができます。

---

**フレックスホンの設定**

種別	[類似]
※フレックスを選択する場合はNTTとの契約が必要です。	
INSキャッチホン	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信中転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
三者通話	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
着信転送	※ポート毎に設定できます。オプション設定で設定してください。

※機器間アナログ通話設定で「アナログ子機」モードに設定した場合  
「INSキャッチホン」「通信中転送」「三者通話」の設定はアナログ親機の設定が反映されるため、設定できなくなります。

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

2  
設定のしかた

- 8 さらに詳しい設定を行う場合には、[ オプション設定 ] ボタンを押します。  
設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプページをご覧ください。

[電話設定] > [TEL1オプション設定]

- [TEL2オプション設定]
- [TEL3オプション設定]
- [機器間アナログ通話設定] (単独動作モード)

---

現在の設定表示ポート: TEL1

※下記項目の設定を変更した後は、下の登録ボタンを押してください。

<b>使用制限</b>		発信、着信で使用
<b>着信機能</b>		
グローバル着信	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
着信ベルの登録	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する <a href="#">着信ベルの登録</a>
識別着信 [登録番号からの着信拒否]	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する <a href="#">識別番号の登録</a>
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
話中の着信通知	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
発信番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トークあり 非通知
<b>着信転送</b>		
※フレックスを選択する場合はNTTとの契約が必要です。		
	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する 疑似
着信転送件数	3件	<a href="#">着信転送件数のクリア</a>
転送先の番号	<input type="text"/>	
転送先のサブアドレス (疑似の場合のみ有効)	<input type="text"/>	
転送トーク	<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> あり
転送元トーク	<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> あり
起動タイミング	すぐに起動	呼出回数 0 回
着信転送が失敗した場合	着信を受ける	
<b>三者通話</b>		
三者通話への切替え受付許容時間	4 秒	
<b>TELポートへのダイヤルイン信号</b>		
ダイヤルインの方式	モデムダイヤルイン	
着信番号情報	HLC	TELポートへ出力する番号
[グローバル番号]	<input type="radio"/> 使用しない	<input type="text"/>
着信番号情報	HLC	TELポートへ出力する番号
[グローバル番号]	<input type="radio"/> 使用しない	<input type="text"/>
※「TELポートへ出力する番号」はモデムダイヤルインの場合は32桁、PBダイヤルインの場合は4桁の入力になります		
<b>FAX無鳴動着信</b>		
FAX無鳴動着信を使用	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
着信番号情報	HLC	
[グローバル番号]	<input type="radio"/> 使用しない	
<b>その他</b>		
ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続	<input type="radio"/> 使用しない	
音量レベル	話す [最大]	聞く [最大]
相手に機器の種類を	通知しない	
相手番号による即時発信	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
ダイヤル終了から発信までの時間	4 秒	
フッキングとオンフックを区別するための判定時間	1 秒	
着信時のオフフック後のフック検出無効時間	<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> あり 0 秒

- 9 画面入力が終わったら[登録]ボタンを押します。

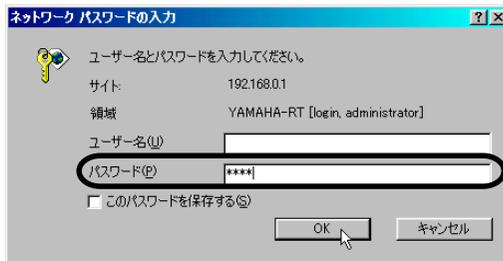
## ■ 通信記録を見る

TELポートやインターネット接続などで通信した記録を調べることができます。

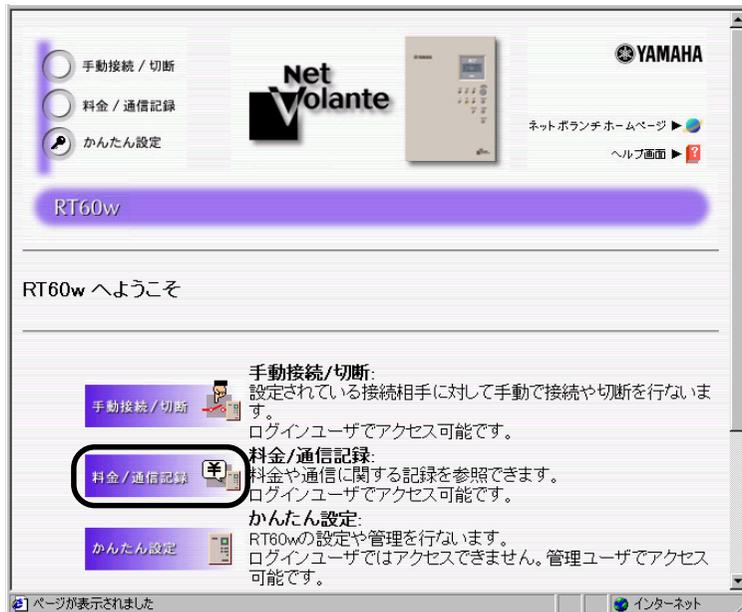
1 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」(例-> http://192.168.0.1/)を開きます。

Windowsでユーティリティソフトをインストール済みの場合は、スタートボタンから開くこともできます。

2 「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、[パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力して[OK]ボタンを押します。



3 [料金 / 通信記録] を押します。



累積料金や着信転送件数、メール着信件数、メール転送件数、通信履歴が表示されます。

料金情報 [ 料金設定 ]

通信種別	最後の通信 料金	累積 料金	累積 接続時間	累積 発信回数	累積 着信回数
プロバイダ1(PP01) Provider1 選択中	10円	40円	00:08:41	4回	0回
LAN間接続(PP02) RemoteUser	0円	0円	00:00:00	0回	0回
アナログポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
ISDN-DCP	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計		50円	00:10:22	5回	0回

アナログポート (機器間アナログ通話をしている機器の各アナログポートの料金情報)

TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL2ポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計	0円	0円	00:00:00	0回	0回

着信転送履歴 [ 電話設定 ]

着信転送の履歴はありません

メール着信数 [ メール設定 ]

メール着信確認は設定されていません

メール転送履歴 [ メール設定 ]

メール転送は設定されていません

通信履歴

日付	時刻	通信種別	通信時間	料金	切断コード	通信相手
1	2000/08/08 20:38:16	PP01:発信	00:02:58	10円	552	XXXXXXXXXX
2	2000/08/08 20:24:13	PP01:発信	00:02:57	10円	552	XXXXXXXXXX
3	2000/08/08 20:23:09	TEL3:発信	00:00:41	10円	0	117

ページが表示されました

インターネット

4 確認が終わったら、画面下の [ 終了 ] ボタンを押します。

### ルータのパスワードについて

「かんたん設定ページ」を開くときに入力するルータのパスワードには、「管理パスワード」と「ログインパスワード」の2種類があります。

「管理パスワード」では、すべてのページを見ることができ、各ページの設定内容を変更することが可能です。ルータを管理する人だけが使うことをお勧めします。

「ログインパスワード」では、「手動接続/切断」ページと「料金/通信記録」ページのみを見ることができ、設定ページにはアクセスできません。管理者以外のユーザにはログインパスワードを知らせれば、設定を勝手に変更されることなく、手動切断したり、メール着信を確認することができます。

「かんたん設定ページ」を初めて開いたときに設定するパスワードは「管理パスワード」と「ログインパスワード」の両方に設定されます。どちらかのパスワードを変更したいときは、[ システム管理 ] ページで設定します。また、ログインパスワードを設定しない場合は、パスワードチェックなしで「手動接続/切断」ページと「料金/通信記録」ページを参照することができます。

## ブラウザ設定ページ項目一覧表

### ■「RT60w へようこそ」ページ

[ 手動接続 / 切断 ]	プロバイダ接続の状態 LAN 間接続の状態 CONN/DISCONN ボタンによる接続 / 切断の設定状態 現在の接続状態の確認
[ 料金 / 通信記録 ]	料金表示 着信転送履歴 メール着信数 メール転送履歴 通信履歴
[ かんたん設定 ]	「かんたん設定」ページ (管理パスワードのみアクセス可能)

### ■「かんたん設定」ページ (管理パスワードのみアクセス可能)

[ プロバイダ接続 ]	
[ 端末型接続 ]	プロバイダの登録 登録の修正 (追加) オプション設定 回線切断タイマ関連 発信制限 MP 関連 NTP サーバ関連 静的マスカレード関連 プロバイダの削除 自動接続設定 プロバイダへの接続方式 CONN/DISCONN ボタン接続 / 切断設定 現在の接続状態の確認
[ ネットワーク型接続 ]	IP アドレス 回線の種類 DNS 関連 NAT 関連 オプション設定 NTP サーバ設定

---

[ LAN 間接続 ]

- [ ISDN 回線 ]      接続相手の登録  
                         登録の修正 ( 追加 )  
                         RT60w 側の情報  
                         接続先の情報  
                         経路を登録する設定  
                         接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定  
                         オプション設定  
                         回線切断タイマ関連  
                         発信制限  
                         MP 関連  
                         コールバック  
接続相手の削除  
CONN/DISCONN ボタン接続 / 切断設定  
現在の接続状態の確認

- 
- [ 専用線 ]          回線の種類  
                         IP アドレス  
                         経路情報の追加

- 
- [ 無線設定 ]          無線モードの登録  
                         詳細設定の登録  
                         ESS-ID  
                         チャンネル  
                         暗号 ( WEP )

- 
- [ 無線接続状態 ]      現在通信しているステーション一覧

- 
- [ MAC アドレスフィルタ ]      MAC アドレスの新規登録  
                         MAC アドレスフィルタの一覧

- 
- [ 電話設定 ]          ポート毎の設定  
                         フレックスホンの設定

- 
- [ TELx : オプション設定 ]      使用制限  
                         着信機能  
                         着信転送  
                         三者通話  
                         TEL ポートのダイヤルイン信号  
                         FAX 無鳴動着信  
                         その他

- 
- [ 機器間アナログ通話設定 ]      現在のアナログ親機  
                         通信可能なアナログ子機一覧  
                         機器番号の自動割り当て
-

---

[ 付加機能 ]

[ メール機能 ]      メールサーバの登録  
                         着信（受信 / POP）メールサーバの登録  
                         転送先（送信 / SMTP）メールサーバの登録  
                         メールサーバの削除  
                         メール通知機能

---

[ LAN 版 RVS-COM ] 着信許可設定  
                         着信許可番号  
                         RVS-COM への切り替え時間  
                         G4 FAX の着信  
                         音量レベル

---

[ LAN-TA 機能 ]      LAN-TA 機能の利用を許可するホスト  
                         LAN-TA 機能の ISDN 番号  
                         LAN-TA 機能の切断タイマ

---

[ システム管理 ]      ルータにアクセスする時のパスワード  
                         ログインパスワード  
                         管理パスワード  
                         ブザー設定  
                         LCD バックライト設定  
                         ルータの ISDN 設定  
                         ルータに設定する日時

---

[ 料金情報 ]          ポート毎の累積課金 / クリア  
                         自動クリア設定

---

[ LAN 側設定 ]        ルータの IP アドレス  
                         DHCP サーバ機能  
                         LAN 側の静的経路情報の設定  
                         LAN 側の静的経路情報の追加

---

[ 内部情報 ]          表示スタイルの変更  
                         Config 表示  
                         コマンド入力  
                         Syslog 設定  
                         Syslog 表示

---

[ フィルタ設定 ]      フィルタ定義の設定  
                         フィルタ定義の追加  
                         フィルタ定義の削除  
                         フィルタリングのセット

---

## 2-5 コンソールコマンドで設定する

本機に直接コマンドを送って機能を設定することができます。コンソールコマンドは、TELNETソフトから入力しますので、お使いのOS用のソフトウェアをご用意ください。

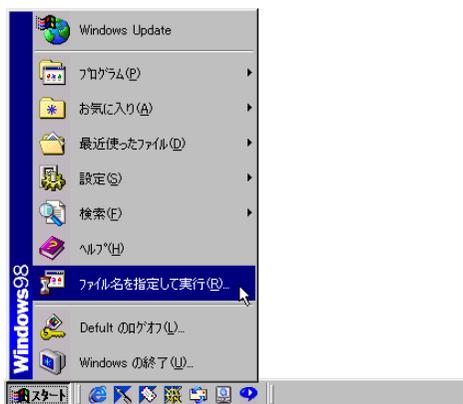
### コンソールコマンドとは

コンソールコマンドは、ルータに直接命令を送って、機能を設定する方法です。コンソールコマンドを使うと、他の方法よりもより詳しい設定が行えます。コンソールコマンドの詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

### 設定のしかた

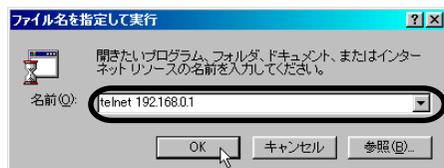
LANポートまたは無線LANに接続しているパソコンから、TELNETソフトで本機にログインし、コンソールコマンドを送信して設定を行います。ここでは、Windows標準のTELNETを使用する場合を例に説明します。Macintoshではフリーソフトなどを使用してください。

- 1 [スタート]メニューの[ファイル名を指定して実行]を開きます。

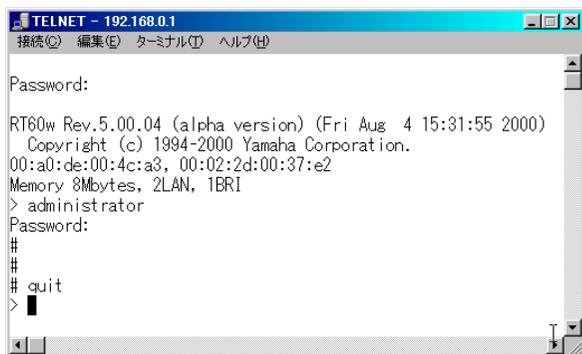


- 2 “telnet 192.168.0.1” と入力し、[OK] ボタンを押します。

本機のIPアドレスを変更している場合には、192.168.0.1のかわりに本機のIPアドレスを入力します。



- 3** Password:と表示されたらログインパスワードを入力します。  
何も表示されなければ一度リターンキーを押します。  
「>」の文字が表示されると、コンソールコマンドが入力できます。



```
TELNET - 192.168.0.1
接続(C) 編集(E) ターミナル(T) ヘルプ(H)

Password:

RT60w Rev.5.00.04 (alpha version) (Fri Aug 4 15:31:55 2000)
Copyright (c) 1994-2000 Yamaha Corporation.
00:a0:de:00:4c:a3, 00:02:2d:00:37:e2
Memory 8Mbytes, 2LAN, 1BRI
> administrator
Password:
#
#
# quit
>
```

**MEMO**

- ・ help と入力するとキー操作の説明が表示されます。
- ・ show command と入力するとコマンド一覧が表示されます。

- 4** 設定を行なうためには、“ administrator ” と入力し、[ ENTER ] キーを押します。
- 5** Password:と表示されたら管理パスワードを入力します。  
「#」の文字が表示されると、各種ルータコンソールコマンドが入力できます。どのようなコンソールコマンドがあるかといった詳細についてはコマンドリファレンスを参照してください。
- 6** コンソールコマンドを入力し、設定を行います。
- 7** 設定が終わったら、最後に “ save ” と入力し、設定をメモリに保存します。
- 8** 設定を終了するには quit コマンドを入力します。
- 9** コンソールを終了するには quit コマンドを入力します。

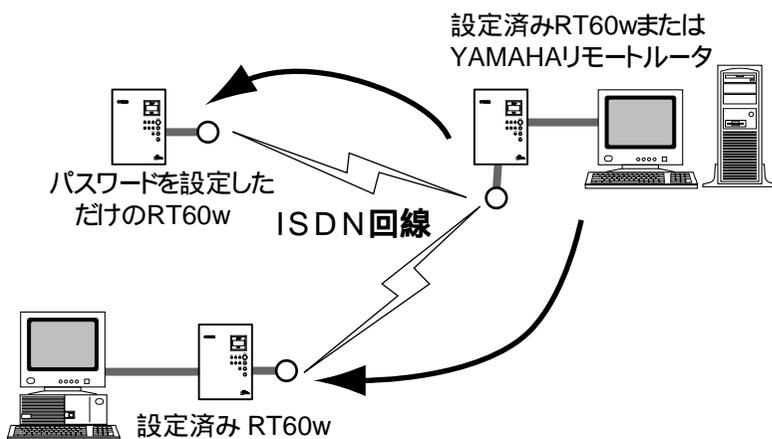
## 2-6 離れた場所のルータを設定する

ヤマハ製RTシリーズルータどうしであれば、離れた場所のルータでもISDN回線や専用線経由で設定を行うことができます。これを「リモートセットアップ」といいます。パスワードが設定されたRT60wであれば、リモートセットアップで設定することが可能です。

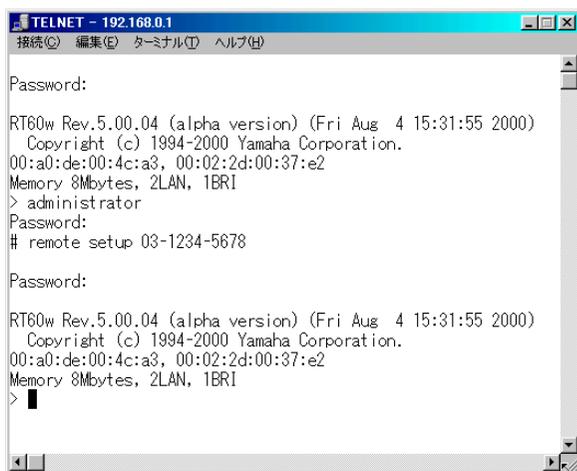
ISDN回線で相手のルータに直接接続するので、プロバイダに契約していなくても、インターネット接続できなくても構いません。

- MEMO
- ・リモートセットアップされる側はパスワードが設定されている必要があります。パスワードを知らないと設定することはできません。また、リモートセットアップを許可したり拒否するようにも設定できますので、拒否に設定しおけば、不特定の相手からの侵入を防げます。
  - ・ヤマハ製リモートルータ以外のルータからリモートセットアップすることはできません。

リモートセットアップはコンソールから行なうことができます。相手のYAMAHAリモートルータへのログインが完了すると、あたかも設定したいルータのコンソールにいるようにコマンドが使用可能になります。



次に、ISDN 番号が 03-1234-5678 の RT60w を設定するためにログインする時の例を示します。



```
TELNET - 192.168.0.1
接続(C) 編集(E) ターミナル(T) ヘルプ(H)

Password:
RT60w Rev.5.00.04 (alpha version) (Fri Aug 4 15:31:55 2000)
Copyright (c) 1994-2000 Yamaha Corporation.
00:a0:de:00:4c:a3, 00:02:2d:00:37:e2
Memory 8Mbytes, 2LAN, 1BRI
> administrator
Password:
# remote setup 03-1234-5678

Password:
RT60w Rev.5.00.04 (alpha version) (Fri Aug 4 15:31:55 2000)
Copyright (c) 1994-2000 Yamaha Corporation.
00:a0:de:00:4c:a3, 00:02:2d:00:37:e2
Memory 8Mbytes, 2LAN, 1BRI
> █
```



# 第 3 章

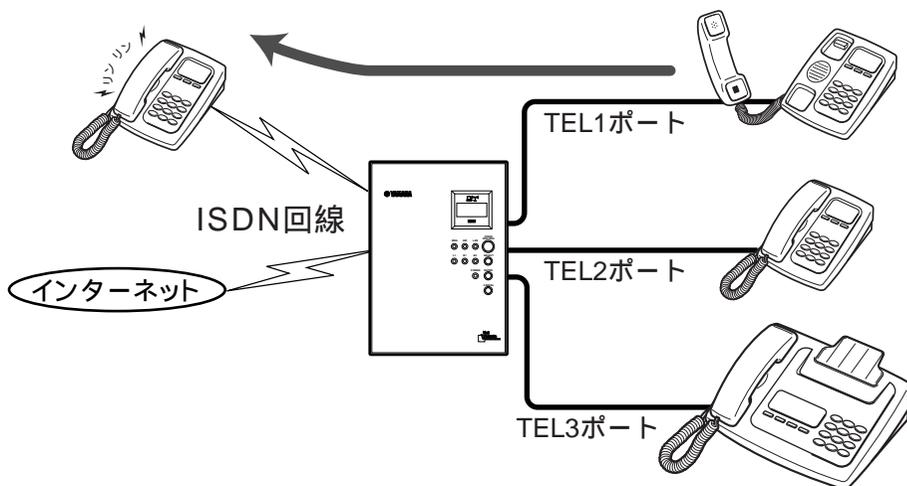
## 電話の使いかた

この章では、本機を ISDN 回線でお使いの場合に利用できる電話機能について、簡単な電話のかけかたから ISDN サービスを駆使した使いかたまで主な例を紹介しています。よくお読みいただき、本機の電話機能を十分ご活用ください。本機を専用線に接続している場合は外線に通話することはできません。

3-1	電話をかける .....	52
3-2	電話を受ける .....	54
3-3	内線電話をかける .....	55
3-4	外線通話を他の内線へ転送する .....	56
3-5	通話中に他の着信を受ける .....	59
3-6	通話を別の外線へ転送する .....	64
3-7	三人で通話する .....	68
3-8	外線の着信を転送する .....	73
3-9	電話番号を登録する .....	79
3-10	着信ベルを設定する .....	81
3-11	ナンバー・ディスプレイを利用する .....	83
3-12	着信拒否を設定する .....	85
3-13	擬似ナンバー・リクエストを設定する .....	87
3-14	TEL ポート毎に使い分ける .....	89
	i・ナンバーサービスの設定例 .....	89
	ダイヤルインサービスの設定例 .....	91
	TEL ポート毎の設定例 .....	92

## 3-1 電話をかける

電話機で外線をかけるときは、通常の電話と同じ操作でかけられます。また、2つまで同時に通信できるので、FAX を使いながら電話をかけたり、インターネットを見ながら電話をかけることも可能です。

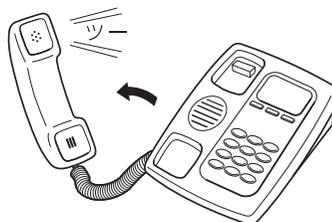


### MEMO

- ・電話機のダイヤルの設定は、できる限りトーン(ブッシュ)の設定で使ってください。ダイヤル設定がパルスの場合は、[ \* ] 及び [ # ] の入力できないため、次のような制限があります。
  - ・内線をかけることができません。
  - ・外線をかけるときにサブアドレスを指定することができません。
  - ・電話機からの設定ができません。
- ・本機の電話機能は、ISDN 回線の場合に利用できます。本機を専用線に接続している場合は、TEL ポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外、電話をかけたり受けたりすることはできません。

### ■ 外線のかけかた

- 1 受話器を上げます。  
発信音が聞こえます。



## 2 相手の電話番号をダイヤルします。

031-333-7777 にかける場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦

サブアドレス 2 番にかける場合の例

相手が ISDN 回線でサブアドレスを設定している場合は、電話番号に続けて [ \* ] とサブアドレス番号を押します。

① ③ ① ③ ③ ③ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ \* ②

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

### MEMO

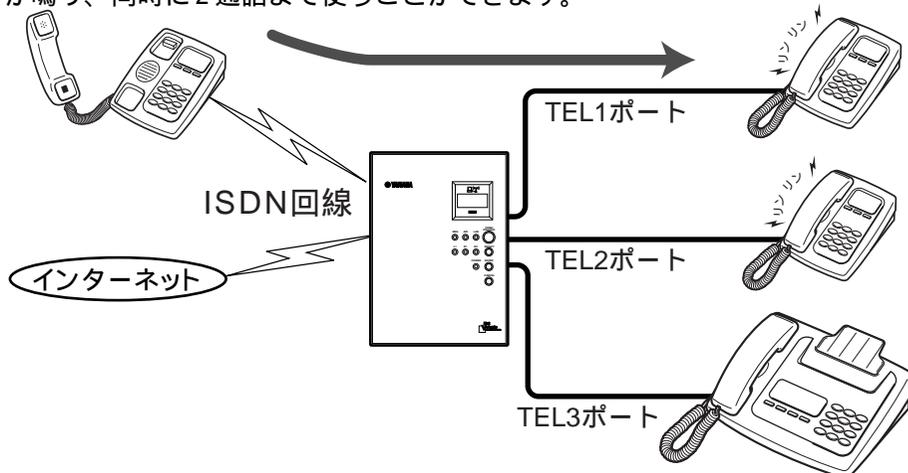
- ・ダイヤルを押した後に [ # ] を押すと、すぐに発信します。また何も押さなくても数秒後に発信します。
- ・一度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去 20 件までの相手先は [ # ] なしでもすぐに発信します。

## 3 通話が終わったら、受話器を置きます。



## 3-2 電話を受ける

電話がかかってくると、本機のTELポートに接続したアナログ機器から呼び出し音が鳴ります。また、通話中に着信があった場合は、他の機器の呼び出し音が鳴り、同時に2通話まで使うことができます。



**MEMO** ・本機の電話機能は、ISDN回線の場合に利用できます。本機を専用線に接続している場合は、TELポート間の内線通話と機器間アナログ通話以外、電話をかけたり受けたりすることはできません。

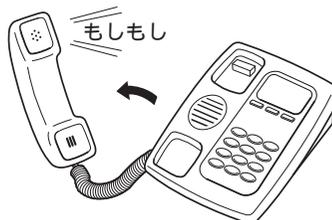
### ■ 電話の受けかた

**1** 電話がかかってくると、呼び出し音が鳴ります。



**MEMO** ・ダイヤルインサービスやサブアドレスを設定した場合は、設定したポートのアナログ機器のみ呼び出し音を鳴らすことができます。

**2** 受話器を上げます。

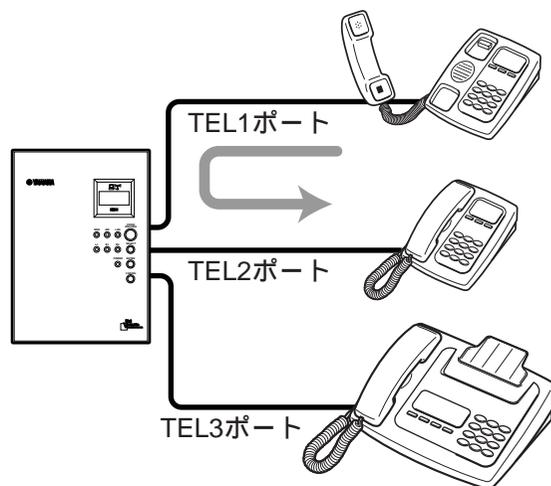


通話できます。

**3** 通話が終わったら、受話器を置きます。

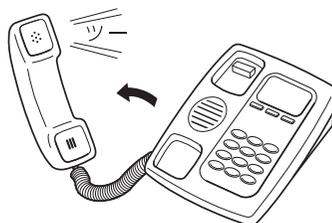
## 3-3 内線電話をかける

TELポートに接続したアナログ機器どうしで、内線通話ができます。アナログ機器の内線番号は、TEL1ポートが[1]、TEL2ポートが[2]、TEL3ポートが[3]となります。



### ■ 内線のかけかた

- 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

- 2 [ \* ] に続けて内線番号をダイヤルします。

TEL1ポートを呼び出す場合の例

✖ ①

全てのポートを呼び出す場合の例

✖ ✖

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

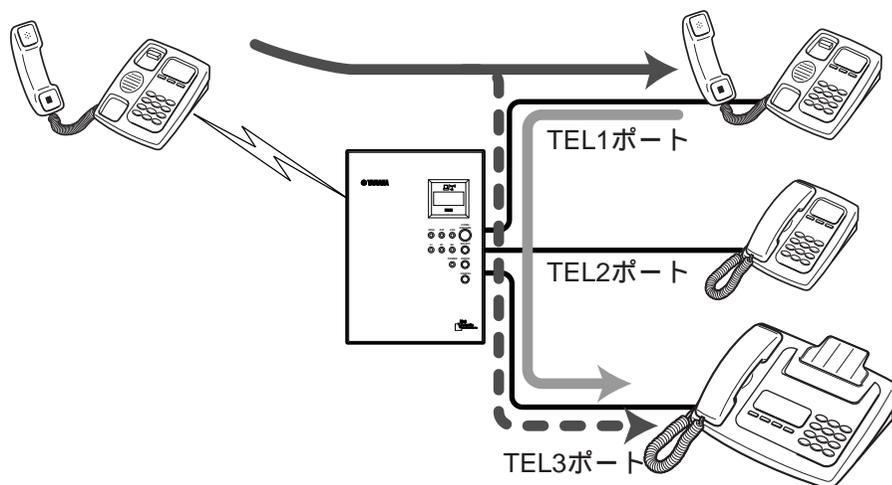
#### MEMO

- ・ 指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。
- ・ 機器間アナログ通信機能を利用するときの操作は、ユーザーズマニュアル「6-5 複数ルータ間で通話する」をご覧ください。

- 3 通話が終わったら、受話器を置きます。

## 3-4 外線通話を他の内線へ転送する

通話中の外線通話を他のアナログ機器へ転送できます。



### ■ フッキング操作について

フックボタンを押してすぐ放す操作を「フッキング」といいます。



フックボタンを長く(1秒以上)押すと、「オンフック」(受話器を置いた状態)とみなされて電話が切れてしまうので、ご注意ください。

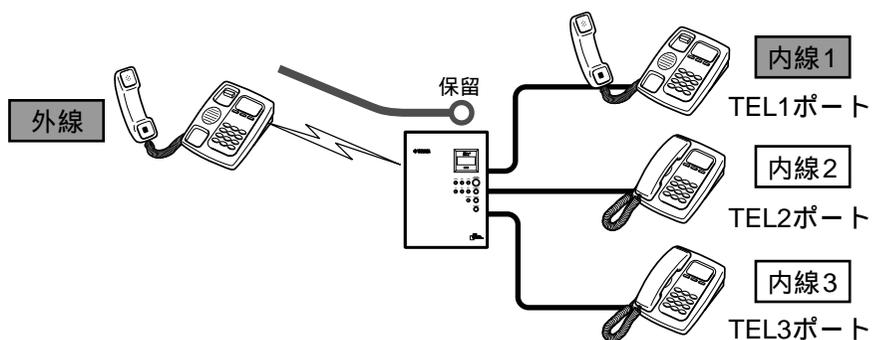
多機能電話などをお使いのときは、本文中のフッキング操作は、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタンなど)を押す操作となります。詳しい操作は、お使いのアナログ電話機の取扱説明書でご確認ください。

## ■ 転送のしかた

- 1 外線の相手に待っていただくよう伝え、フッキングします。



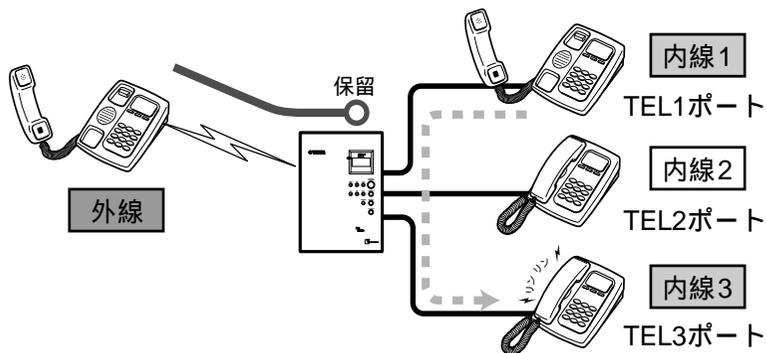
通話中の相手は保留になります。



- 2 「ブップブップ」 という音が聞こえたら、[ \* ] に続けて内線番号をダイヤルします。

⊗ ③ (TEL3ポートへ転送する場合の例)

指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。



- 3 内線の相手が出たら外線の転送を伝え、フッキングします。

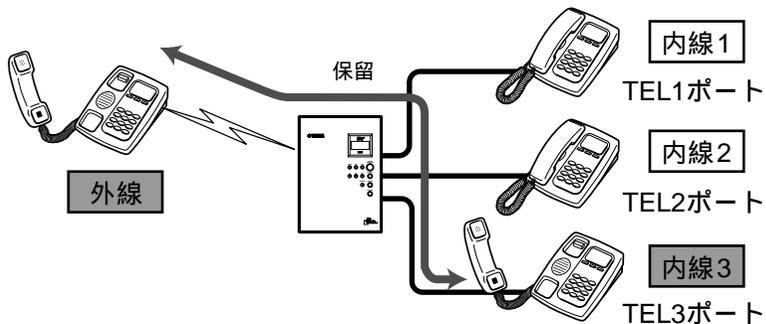


MEMO ■ ・呼出中に受話器を置くと内線相手が出る前に転送することができます。

#### 4 「ツツーツツツ」 という音が聞こえている間に受話器を置きます。



外線通話が転送されます。

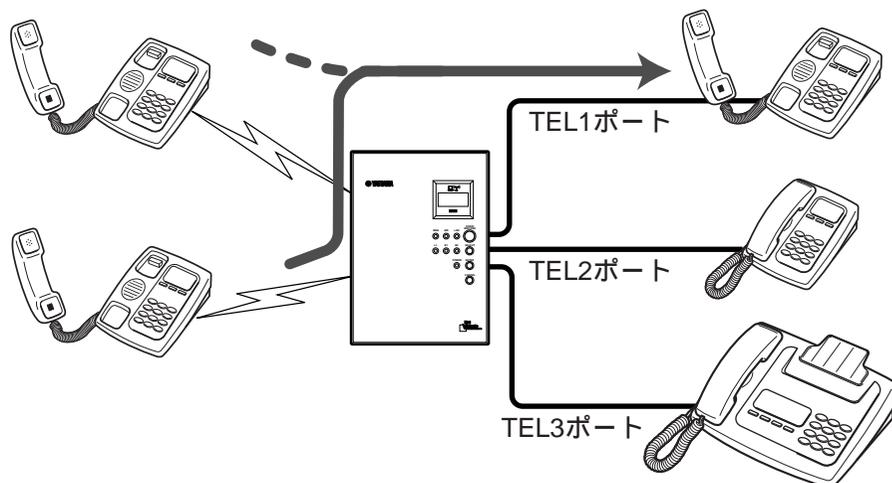


#### MEMO

- ・指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。
- ・「ツツーツツツ」 という音が聞こえている間にフッキングすると、TEL1ポートとTEL3ポートと外線の三者通話になります。
- ・「ツツーツツツ」 という音が聞こえている間に[ \* ]をダイヤルすると、通話相手の切り替えができます。

## 3-5 通話中に他の着信を受ける

通話中に電話がかかってきた場合、アナログ回線のキャッチホンサービスのよう  
に通話中の相手を保留にし、着信した電話を受けることができます。ISDN付  
加サービスのINSキャッチホン(コールウェーティング)を契約していなくても  
も、本機に内蔵の擬似キャッチホン機能で利用できます。



### ■ 擬似キャッチホンについて

擬似キャッチホンは、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した  
キャッチホンサービスに相当する機能です。次の特徴があります。

本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。

各TELポート毎に擬似キャッチホンをするかしないかを設定できます。  
FAXやアナログモデムをつないだ場合に使い分けができます。

擬似キャッチホンの場合、他で回線を使っているときは利用できません。その  
場合は、今話している通話を切ると、着信を受けることができます。

ISDN付加サービスのINSキャッチホンの場合は、最大2つのTELポートで  
別々に利用することができます。

#### MEMO

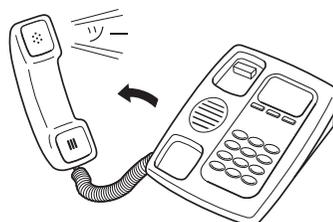
- ・ 擬似キャッチホンを利用する場合は電話機から設定するか( P.25 )  
「かんたん設定ページ」の「電話設定」で利用するTELポートの[ 話中  
の着信通知 ]を[ する ]に設定してください。本機の工場出荷時は、「し  
ない」になっています。
- ・ ISDN付加サービスのコールウェーティングを契約している場合は、電話  
機から設定するか( P.25 )「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、  
利用するTELポートの[ 話中の着信通知 ]を[ する ]に、フレックスホ  
ンのINSキャッチホンを[ 使用する ]に設定してください( P.37 )  
本機の工場出荷時は、「擬似キャッチホンを使用する」(フレックスホ  
ンサービスを使用しない)になっています。

## ■ 設定のしかた

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

MEMO ・ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン(プッシュ)に設定して操作してください。パルス(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

**1** 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

**2** [ \* ] と [ # ] を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

**3** 機能番号 36 を押します。



**4** TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL1 ポートの場合の例



**5** [ 1 ] を押します。



**6** [ # ] を押します。



「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 **3** から操作してください。

**7** 機能番号 52 を押します。

⑤ ②

**8** キャッチホンの種類を押します。

ISDN付加サービスのINSキャッチホンを契約している場合は[ 1 ]、擬似キャッチホンを利用する場合は[ 2 ]を押します。

擬似キャッチホンの場合の例

②

**9** [ # ] を押します。

Ⓜ

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順7から操作してください。

**10** 受話器を置きます。

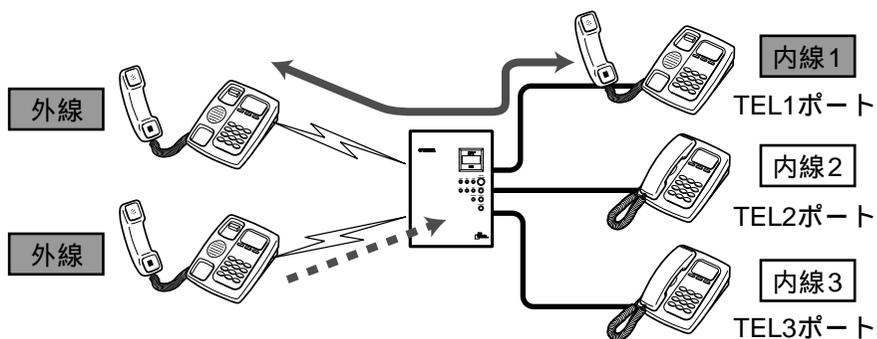
別のポートも続けて設定する場合は、受話器を置かず手順3～6を繰り返します。



MEMO | ・アナログ機器を接続していないTELポートは、必ず電話設定の「アナログポート使用制限の設定（機能番号14）」を「使用しない」に設定してください。（ P.29 ）

## ■ 着信の受けかた

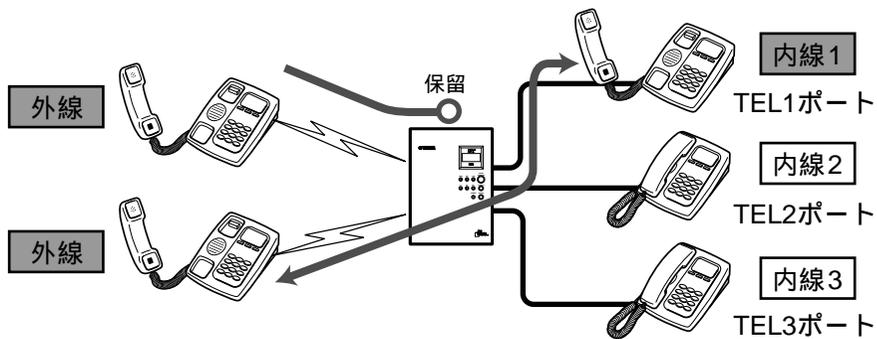
1 通話中に電話がかかってくると、「プッ プッ」という話中着信音が聞こえます。



2 フッキングします。



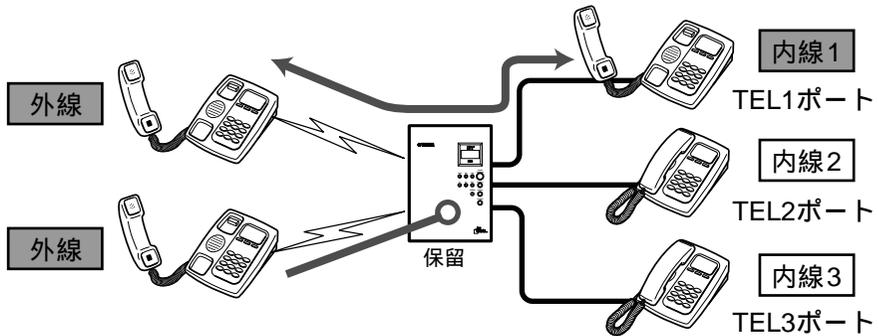
通話中の相手が保留になり、着信した相手と通話できます。



### 3 通話の相手を切り替えるときは、フッキングします。

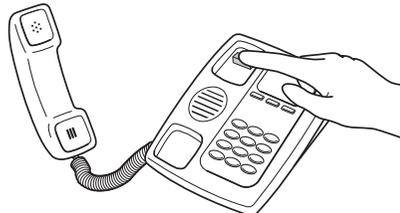


「ツツー ツツー」という音が聞こえて通話中の相手が保留になり、約4秒後に保留していた相手と切り替わります。

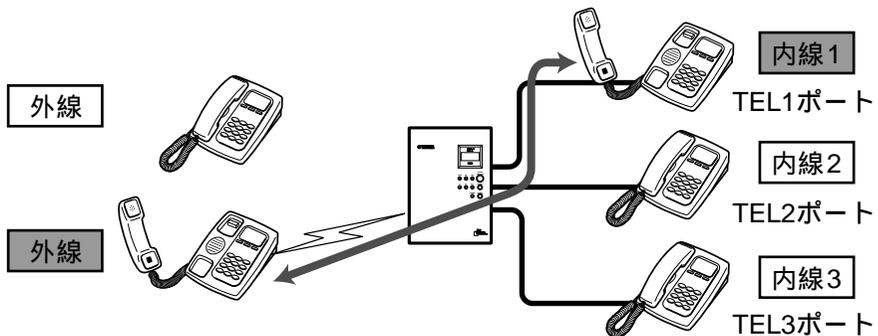


MEMO ・フッキング後[ \* ]を押すと、すぐに保留していた相手に切り替わります。

### 4 通話を切るときは、フックボタンを長く押し放します。

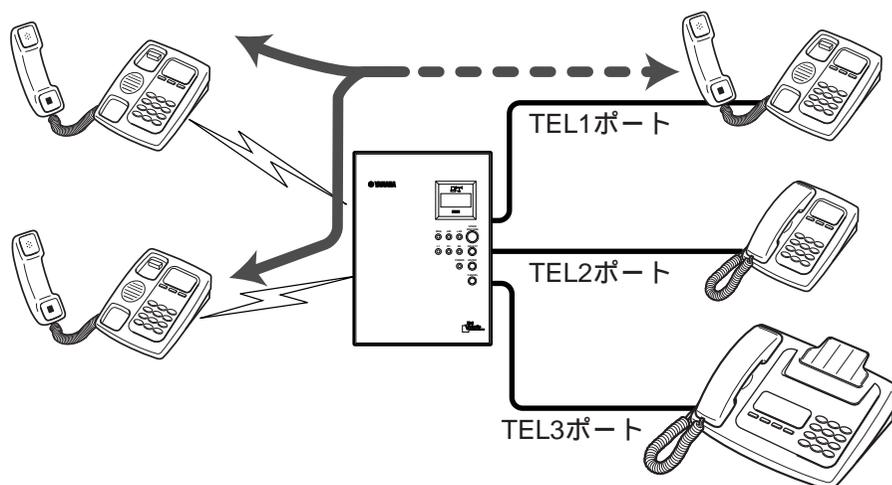


通話中の電話が切れて、保留になっていた相手と通話できます。



## 3-6 通話を別の外線へ転送する

通話中に別の外線へ転送することができます。これを「通信中転送」といいます。ISDN付加サービスの通信中転送を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似通信中転送」機能を利用できます。通信中転送または擬似通信中転送機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



### ■ 擬似通信中転送について

擬似通信中転送は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した通信中転送機能です。次の特徴があります。

本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。

本機から発信した通話は本機に課金されます。

擬似通信中転送の場合は、発信時に他で回線を使っているときには転送できません。ISDN付加サービスの通信中転送の場合は、通話中のチャンネルのみを使用するためにもう1つのチャンネルを別の通話で使うことができます。

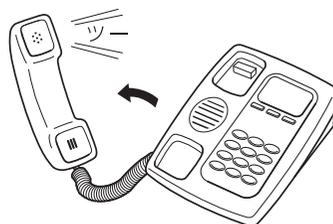
- MEMO
- ・ ISDN付加サービスの通信中転送を契約している場合は、電話機から設定するか（ P.25 ）「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの通信中転送を [使用する] に設定ください（ P.37 ）。本機の工場出荷時は、「通信中転送を使用しない」（フレックスホンサービスを使用しない）になっています。

## ■ 設定のしかた

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

MEMO ・ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン(プッシュ)に設定して操作してください。パルス(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

### 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

### 2 [ \* ] と [ # ] を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

### 3 機能番号 53 を押します。



### 4 通信中転送の種類を押します。

ISDN付加サービスの通信中転送機能を契約している場合は[1]を、本機の擬似通信中転送機能を利用する場合は[2]を押します。

擬似通信中転送機能の場合の例



### 5 [ # ] を押します。



「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順3から操作してください。

### 6 受話器を置きます。

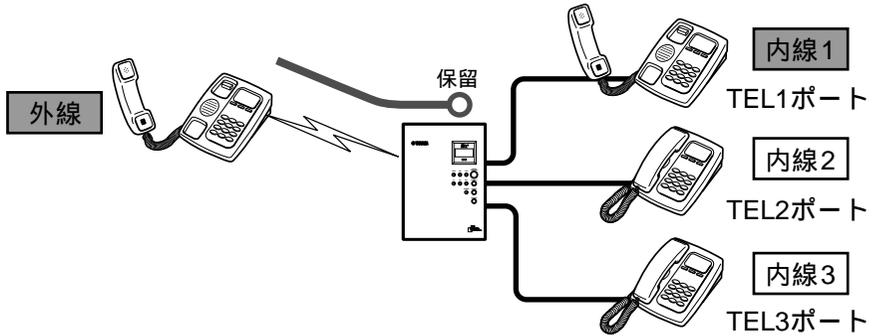
MEMO ・アナログ機器を接続していないTELポートは、必ず電話設定の「アナログポート使用制限の設定(機能番号14)」を「使用しない」に設定してください。( P.29 )

## ■ 転送のしかた

- 1 外線の相手に待っていただくように伝え、フッキングします。



通話中の相手は保留状態になります。

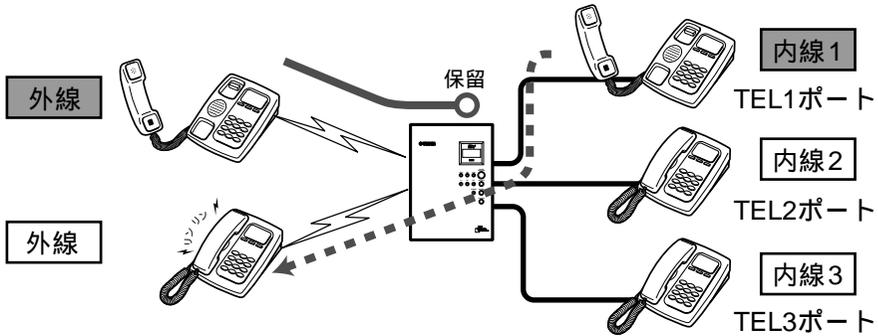


- 2 受話器から「プッププッ」という音が聞こえたら、転送したい相手の電話番号をダイヤルします。

031-333-5555 に転送する場合の例

① ③ ① ③ ③ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤

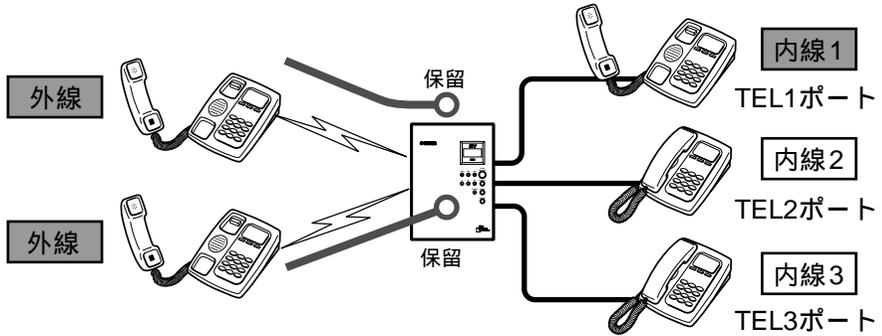
呼び出し音が聞こえます。



### 3 相手の方が出たら、外線を転送することを伝え、フッキングします。



「ツツー、ツツー」という音が聞こえ、両方の外線相手が保留になります。

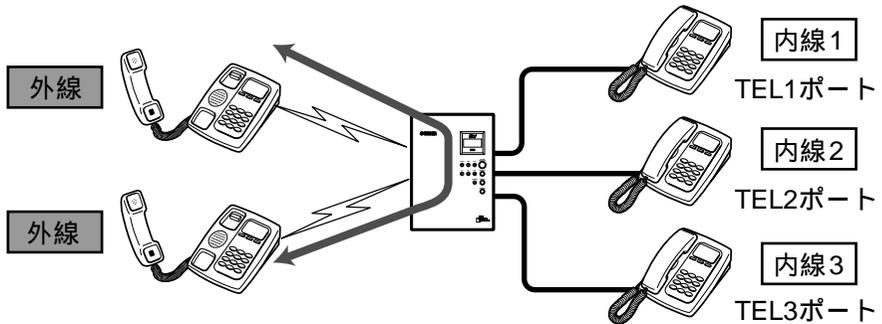


MEMO ■ ・呼出中に受話器を置くと、相手が出る前に転送することもできます。

### 4 「ツツー、ツツー」という音が聞こえている間に受話器を置きます。



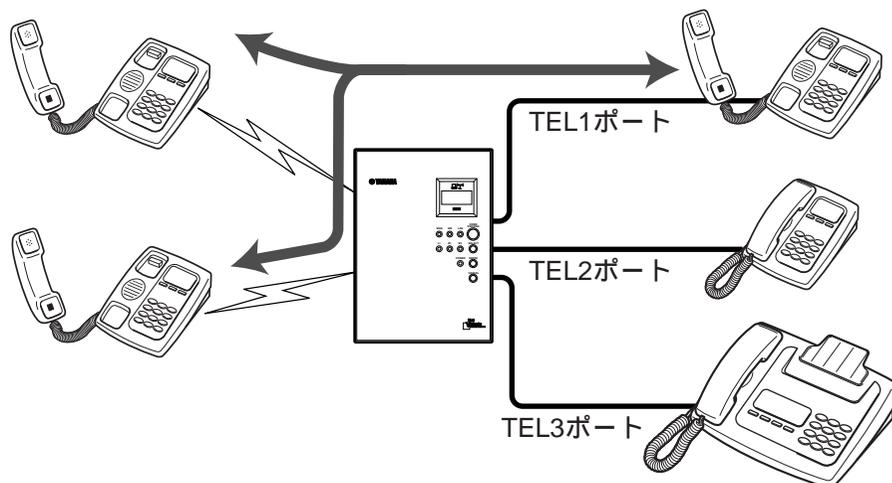
受話器を置いた後に、外線の相手と保留した外線がつながります。



MEMO ■ ・擬似通信中転送中は、受話器を上げると「プップップッ」という音がします。その状態でフッキングすると、転送中の通話を強制的に切断することができます。

## 3-7 三人で通話する

通話中に別の相手呼び出して三人で通話することができます。これを「三者通話」といいます。ISDN付加サービスの三者通話を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似三者通話」機能を利用できます。三者通話または擬似三者通話機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



### ■ 擬似三者通話について

擬似三者通話は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した三者通話機能です。次の特徴があります。

本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。

呼び出した通話分の料金は、本機に課金されます。

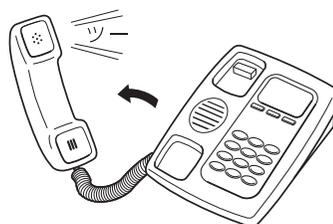
擬似三者通話の場合は、通話時に他で回線を使っているときには呼び出すことはできません。ISDN付加サービスの場合は、通話中のチャンネルのみを使用するので、もう1つのチャンネルを別の通話で使うことができます。

## ■ 設定のしかた

ここでは、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

MEMO ・ダイヤルの設定は、必ず電話機をトーン(プッシュ)に設定して操作してください。パルス(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

2 [\*]と[#]を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

3 機能番号 5 4 を押します。



4 三者通話の種類を押します。

ISDN付加サービスの三者通話機能を契約している場合は[1]を、本機の擬似三者通話機能を利用する場合は[2]を押します。

擬似三者通話機能の場合の例



5 [#]を押します。



「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順3から操作してください。

6 受話器を置きます。

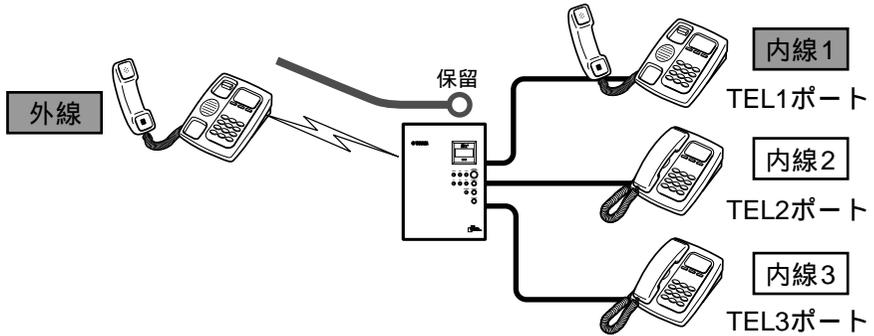
MEMO ・ISDN付加サービスの三者通話を契約している場合は、電話機から設定するか( P.25 )、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの三者通話を[使用する]に設定ください( P.37 )。本機の工場出荷時は、「三者通話を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

## ■ 三者通話のかけかた

- 1 外線の相手に待っていただくように伝え、フッキングします。



「プププププッ」という音が聞こえ、通話中の相手は保留状態になります。

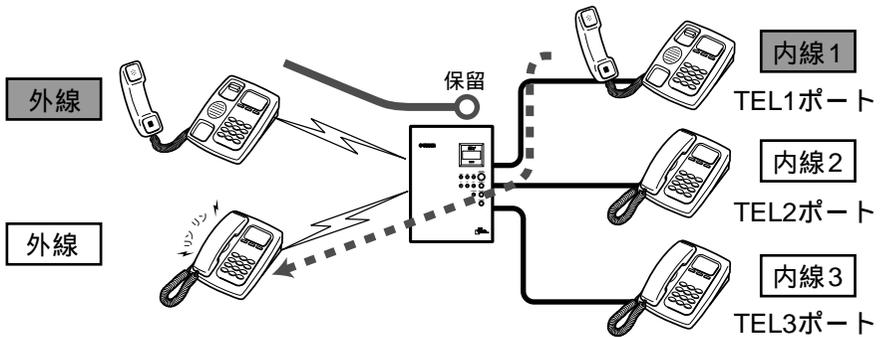


- 2 受話器から「プププププッ」という音が聞こえたら、三者通話を行いたい相手の電話番号をダイヤルします。

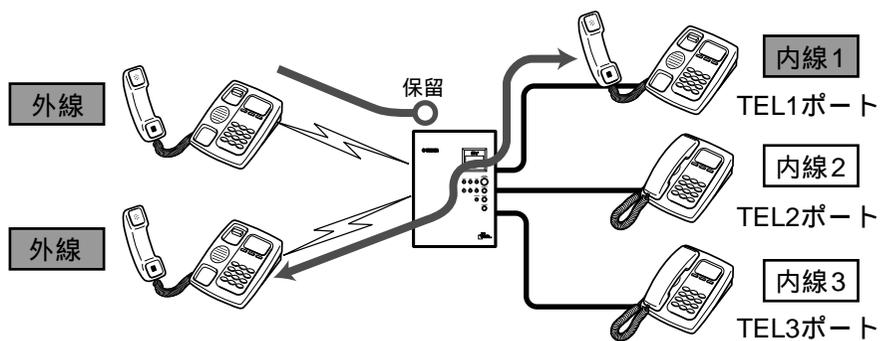
031-333-5555 にかける場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤

呼び出し音が聞こえます。



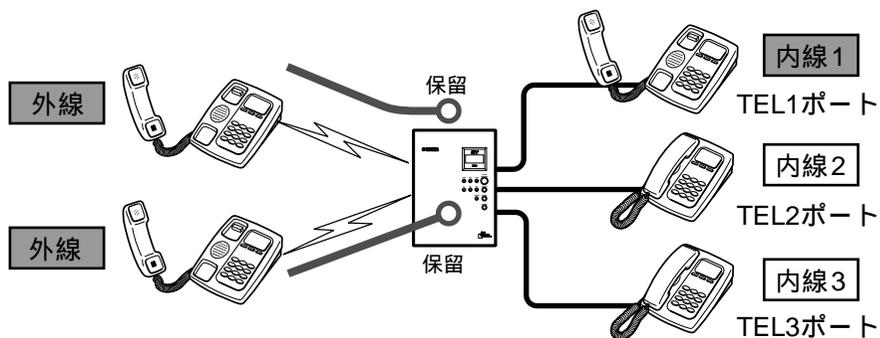
**3** 相手の方が出たらお話しください。



**4** フッキングします。



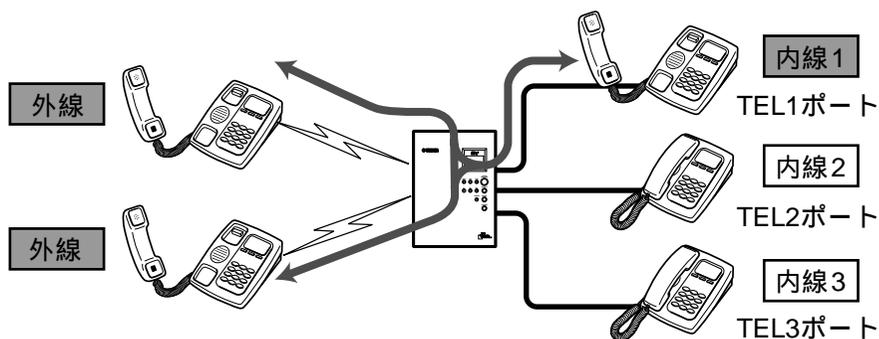
「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。



**5** 「ツツー、ツツー」という音が聞こえている間にもう一度、フッキングします。



## 6 通話中の相手と、保留中の相手の三者で通話可能になります。



### MEMO

- ・三者通話を解除するには、フッキングします。三者通話になる前に話していた相手と通話状態になり、もう一方の相手は保留になります。
- ・通話の相手を切り替えるとき(保留中の相手と通話するとき)は、フッキングします。"ツツツー、ツツツー"という音が聞こえたら約4秒待つか、[\*]を押すことで保留中の相手と通話できます(通話中の相手は保留中になります)。

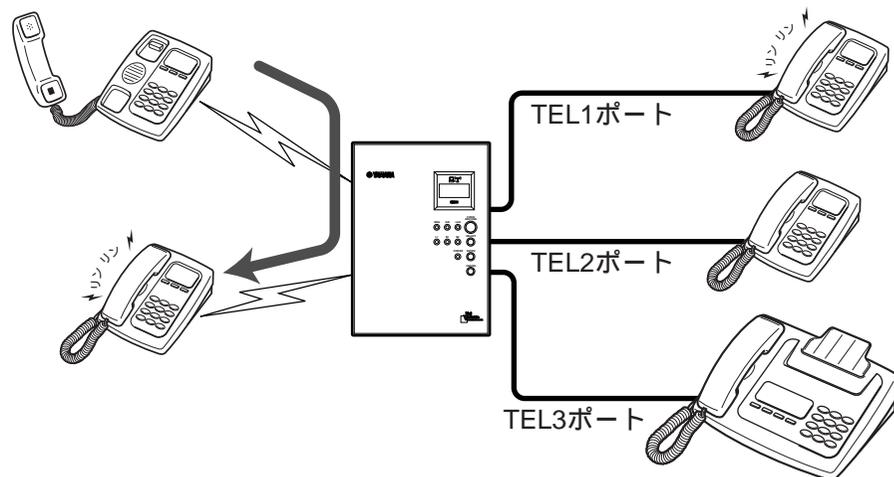
## 7 話が終わったら、受話器を置きます。



三者通話の状態を受話器を置くと、両方の相手が切断されます。三者通話でない状態で受話器を置くと、保留中の相手があれば呼び出し音が鳴り、受話器を取ることでその相手と話すことができます。

## 3-8 外線の着信を転送する

外線の着信があったとき、その着信に应答しないであらかじめ登録しておいた相手に転送することができます。これを「着信転送」といいます。ISDN付加サービスの着信転送を契約していなくても、本機に内蔵の「擬似着信転送」機能を利用できます。着信転送または擬似着信転送機能を使うときは、本機の設定変更が必要です。



### ■ 擬似着信転送について

擬似着信転送は、ISDN回線の2回線同時に通話できる特徴を応用した着信転送機能です。次の特徴があります。

本機のみで利用でき、NTTへの申し込みや契約は不要です。

TELポートに実際にアナログ通信機器が接続されていなくても着信転送動作を行うことはできます。

TEL1, TEL2, TEL3ポートに異なる転送先アドレスを設定する場合は、それぞれのポートを指定して着信させるようにダイヤルイン番号を設定してください(ただし、起動できるのは先に転送開始した1つの着信のみです)。

転送した通話分の料金は、本機に課金されます。

着信時に他で回線を使っているときは、転送できません。

ISDN付加サービスの着信転送の場合は、転送完了後に発着信可能になりますが、擬似着信転送機能を使用した場合には、転送した通話が終わるまで発信も着信もできません。

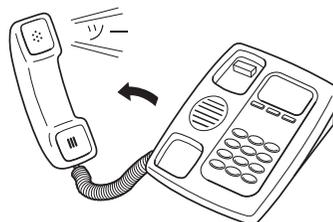
MEMO

- ・ ISDN付加サービスの着信転送を契約している場合は、電話機から設定するか( P.25 )、「かんたん設定ページ」の「電話設定」で、フレックスホンの着信転送を[使用する]に設定ください( P.37 )。本機の工場出荷時は、「着信転送を使用しない」(フレックスホンサービスを使用しない)になっています。

## ■ 設定のしかた

ここでは、TEL2ポートへの着信を“031-333-7777”へ転送する場合を例に、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

- 1** 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

- 2** [ \* ] と [ # ] を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

- 3** 機能番号 5 5 を押します。



- 4** TELポート番号を押します。

TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。[ \* ] を押すと今お使いのTELポートに設定されます。

TEL2ポートの場合の例



- 5** 着信転送の種類を押します。

ISDN付加サービスの着信転送機能を契約している場合は[ 1 ]を、本機の擬似着信転送機能を利用する場合は[ 2 ]を押します。

擬似着信転送機能の場合の例



- 6** [ # ] を押します。



「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、「ピー、ピー」と聞こえますので、設定内容を確認してもう一度手順3から操作してください。

**7** 機能番号 5 6 を押します。

⑤ ⑥

**8** TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例

②

**9** 転送する電話番号を設定します。

サブアドレスは電話番号に続けて[ \* ]とサブアドレス番号を押します。サブアドレスは疑似着信転送機能のときのみ有効です。

031-333-7777 に転送する場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦

**10** [ # ] を押します。

④

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 7 から操作してください。

**11** 機能番号 5 8 を押します。

⑤ ⑧

**12** TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例

②

**13** 着信時のコール回数を押します。

0 を押すと呼出音を鳴らさずに転送します。

コール数 3 回の場合の例

③

14 [ # ] を押します。



「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 11 から操作してください。

15 受話器を置きます。



この後、設定した TEL ポートへの着信は全て転送されます。

なお、設定したコール数以内に受話器を取ると転送せずに応答することができます。

MEMO

- ・着信転送モードが設定されているときは、ディスプレイに「」が点灯します。
- ・着信転送モードを解除するときには「着信転送の解除・セット」( P.77 ) を参照してください。

## ■ 着信転送時の動作

1 呼出音が設定回数鳴ります。



2 着信が転送されます。

MEMO

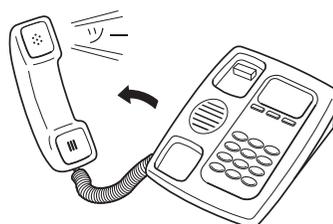
- ・ISDN付加サービスの着信転送の場合は、転送完了後に発着信可能になりますが、擬似着信転送機能を使用した場合には発信も着信もできません。
- ・擬似着信転送中は、受話器を上げると「プップップッ」という音がします。この状態でフッキングすると、転送中の通話を強制的に切断することができます。

## ■ 着信転送の解除・セット

ここでは、TEL2ポートへ設定した着信転送モードをセット、または解除する操作の手順を説明します。着信転送モードをセットしたり解除しても転送先番号の設定は消えません。

MEMO ■ 着信転送の解除・セットは、本機のボタン操作で設定することができます。ボタン操作については、「2-3 ボタンで設定する」( P.32 )をご覧ください。

**1** 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

**2** [ \* ] と [ # ] を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

**3** 機能番号 5 5 を押します。



**4** TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例



**5** 解除する場合は [ 0 ] を、セットする場合は [ 1 ] または [ 2 ] を押します。

解除する場合の例

①

擬似着信転送をセットする場合の例

②

**6** [ # ] を押します。

Ⓜ

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 **3** から操作してください。

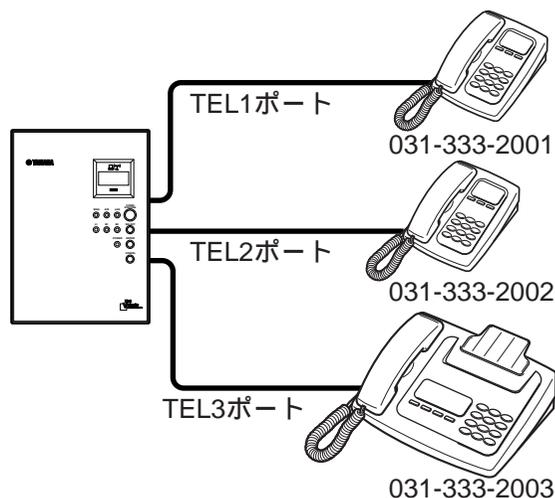
**7** 受話器を置きます。



**MEMO** ・着信転送モードが設定されているときは、ディスプレイに「」が点灯します。

## 3-9 電話番号を登録する

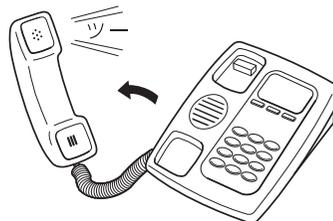
TELポート毎に相手へ通知する電話番号(契約者回線番号もしくはダイヤルイン、i・ナンバー)を登録できます。相手がナンバー・ディスプレイサービスや携帯電話を利用している場合に通知される番号となります。また、ダイヤルイン契約時は、ダイヤルイン番号による着信判定にも使われます。



### ■ 登録のしかた

ここでは、TEL2ポートにダイヤルイン番号"031-333-2002"を設定する場合を例に、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

2 [\*]と[#]を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

### 3 機能番号 11 を押します。

① ①

### 4 TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例

②

### 5 契約者回線番号またはダイヤルイン番号を押します。

031-333-2002 を設定する場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ② ① ① ②

031-333-2002 のサブアドレス 201 番を設定する場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ② ① ① ② \* ② ① ①

### 6 [ # ] を押します。

④

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 3 から操作してください。

### 7 受話器を置きます。



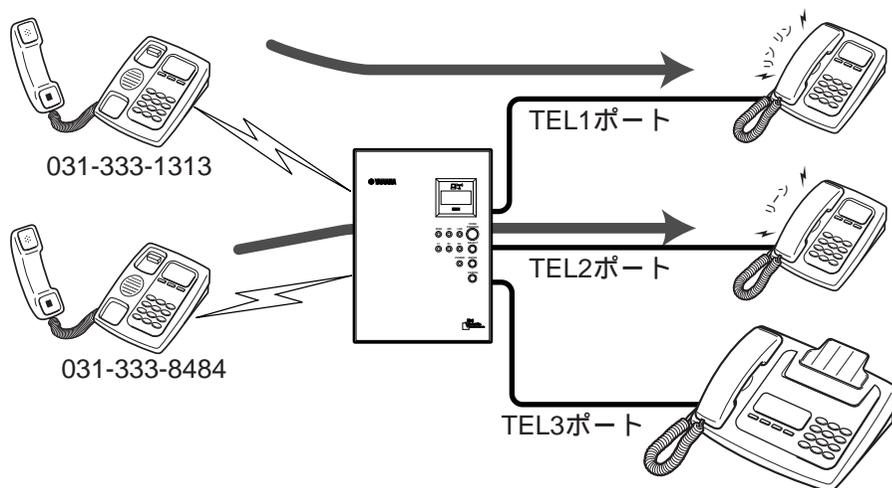
#### MEMO

・電話番号は、契約者回線番号およびダイヤルイン、i・ナンバーを合わせて、TEL ポートごとに最大 5 つまで登録できます。ただし、相手には最初の登録番号が通知されます。

## 3-10 着信ベルを設定する

ISDN回線や携帯電話、PHSからの着信時に、発信者番号毎に着信ベル音を鳴らし分けることができます。TELポート毎にベル音を変えて着信させることも可能です。

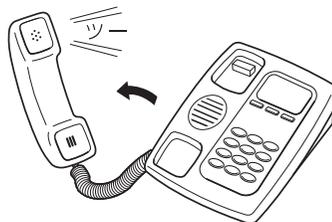
また、相手が一般回線の場合も鳴りわけさせたい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



### ■ 設定のしかた

ここでは、TEL1ポートに発信者番号"031-333-1313"が着信したとき、着信ベル音2が鳴るようにする場合を例に、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

#### 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

#### 2 [\*]と[#]を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

**3** 機能番号 38 を押します。

③ ⑧

**4** TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL1 ポートの場合の例

①

**5** 着信ベル音番号を押します。

着信ベル音 2 の場合の例

②

**6** 発信者番号を押します。

031333-1313 に設定する場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ① ③ ① ③

**7** [ # ] を押します。

Ⓜ

「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 3 から操作してください。

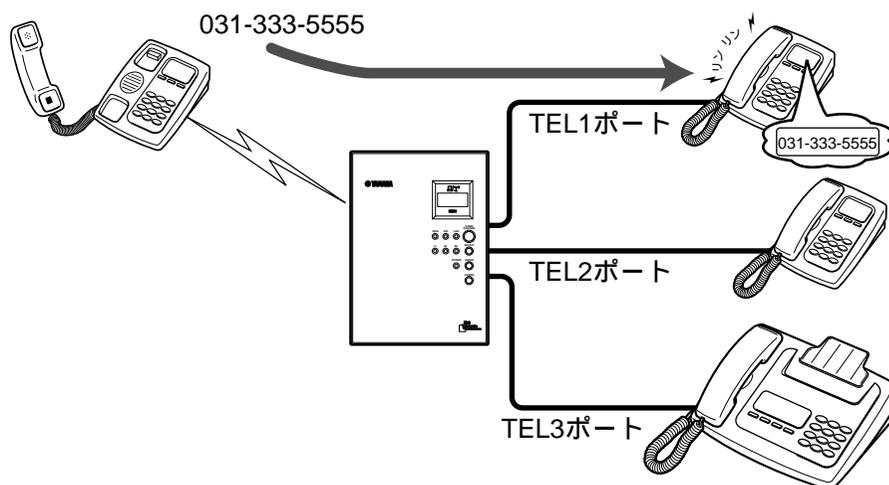
**8** 受話器を置きます。



## 3-11 ナンバー・ディスプレイを利用する

ナンバー・ディスプレイは、着信時に発信者の電話番号を表示するサービスです。電話に出る前に相手の電話番号が確認できます。また、通話中に着信した時にも電話番号を表示できるキャッチホン・ディスプレイにも対応しています。相手がISDN回線や携帯電話、PHSの場合は、NTTとの契約なしでも電話番号が本機のディスプレイに表示されます。

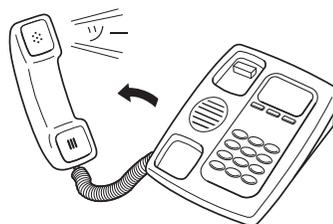
相手が一般回線の場合も表示したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。また電話機やFAXで利用するには、ナンバー・ディスプレイもしくはキャッチホン・ディスプレイ対応の電話機やFAXが必要です。



### ■ 設定のしかた

ここでは、TEL2ポートにナンバー・ディスプレイを設定する場合を例に電話機を使って設定する方法を説明します。工場出荷設定では「使用しない」になっています。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

- 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

## 2 [ \* ] と [ # ] を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

## 3 機能番号 39 を押します。



## 4 TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例



## 5 ナンバー・ディスプレイの種類を押します。

ナンバー・ディスプレイを使用しない場合は[ 0 ]、ナンバー・ディスプレイのみを使用する場合は[ 1 ]、ナンバー・ディスプレイとキャッチホン・ディスプレイの両方を使用する場合は[ 2 ]を押します。

ナンバー・ディスプレイのみを使用する場合の例



使用しない場合の例



## 6 [ # ] を押します。



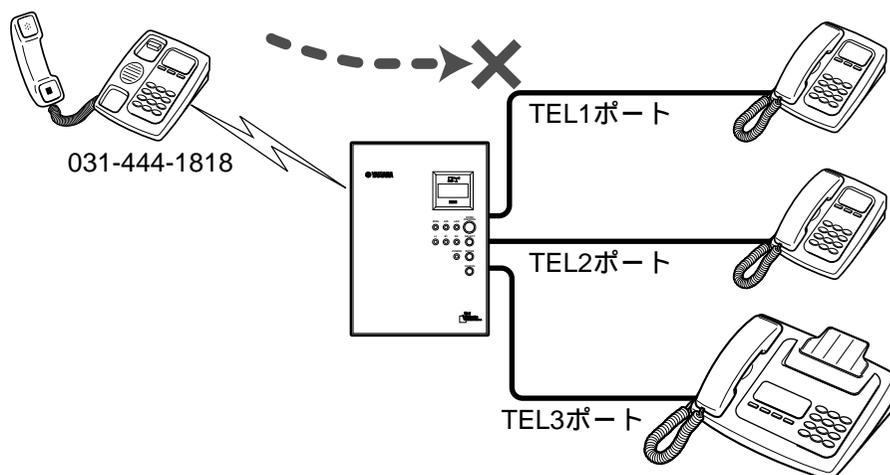
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 3 から操作してください。

## 7 受話器を置きます。



## 3-12 着信拒否を設定する

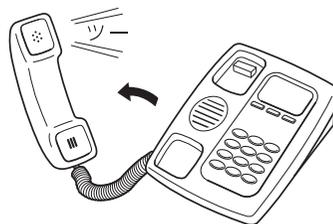
識別着信機能を使うと、登録した電話番号の着信を拒否したり、登録番号以外の着信を拒否することができます。迷惑電話でお困りのときに便利です。相手が一般回線の場合も着信拒否したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



### ■ 設定のしかた

ここでは、TELポート2で031-444-1818の着信を拒否する設定を例に、電話機を使って設定する方法を説明します。パソコンを接続している場合は、ブラウザを使って設定することもできます。

- 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

- 2 [\*]と[#]を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

- 3 機能番号33を押します。



- 4** TEL ポート番号を押します。  
TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例

②

- 5** 拒否したい電話番号を押します。

031-444-1818 を設定する場合の例

① ③ ① ④ ④ ④ ① ⑧ ① ⑧

- 6** [ # ] を押します。  
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 3 から操作してください。

Ⓜ

- 7** 機能番号を押します。

③ ②

- 8** TEL ポート番号を押します。  
TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。[ \* ] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

TEL2 ポートの場合の例

②

- 9** 着信拒否の種類を押します。  
登録番号を拒否する場合は[ 2 ]、登録番号以外を拒否する場合は[ 1 ]、使用しない場合は[ 0 ]を押します。

登録番号を拒否する場合の例

②

使用しない場合の例

①

- 10** [ # ] を押します。

Ⓜ

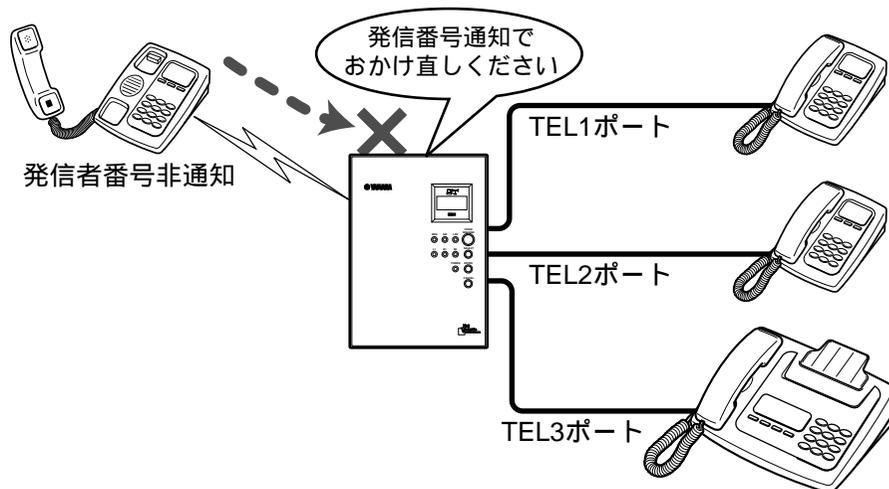
「ピー」という音が聞こえて設定が変更されます。「ピー、ピー」と聞こえるときは正しく変更されていないので、設定内容を確認してもう一度手順 7 から操作してください。

- 11** 受話器を置きます。

### 3-13 擬似ナンバー・リクエストを設定する

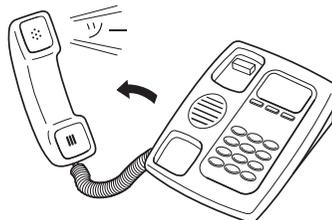
擬似ナンバー・リクエスト機能は、発信者番号通知がない着信に対して番号を通知してかけ直すよう音声案内（トーク）を流す機能です。

相手が一般回線の場合も擬似ナンバー・リクエスト機能を利用したい場合は、NTTへ「INSナンバー・ディスプレイサービス」(有料)の申し込みが必要です。



#### ■ 設定のしかた

- 1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

- 2 [\*]と[#]を押します。



発信音が止まり、「ツツー、ツツー」という音が聞こえます。

- 3 機能番号83を押します。



- 4** TELポート番号を押します。  
TELポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3です。[ \* ]を押すと今お使いのTELポートに設定されます。

TEL2ポートの場合の例

②

- 5** 動作指定の番号を押します。  
発信者番号情報なし着信を拒否する=0、発信者番号情報なし着信を許可する=1、擬似ナンバー・リクエストで拒否する=2です。

擬似ナンバー・リクエストで拒否する場合の例

②

- 6** 条件指定の番号を押します。  
公衆電話からの着信=1、ユーザによる通知拒否の着信=2、表示圏外の着信=3、すべて=\*です。

公衆電話からの着信の場合の例

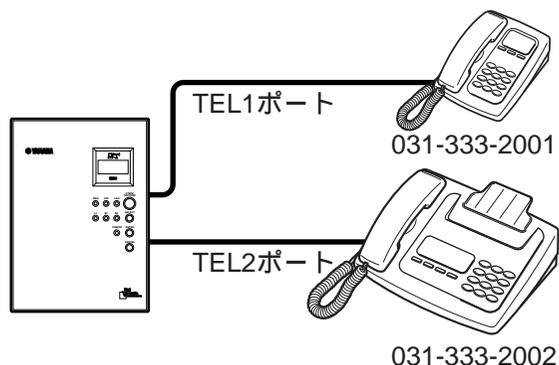
①

- 7** [ # ]を押します。  
Ⓜ  
「ピー」という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、「ピー、ピー」と聞こえますので、設定内容を確認してもう一度手順**3**から操作してください。

- 8** 受話器を置きます。  
続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順**3**～**7**の操作を繰り返します。

## 3-14 TELポート毎に使い分ける

本機のTELポートに接続したアナログ機器は、TELポート毎にさまざまな設定を行うことができます。お使いのアナログ機器や付加サービスに応じて設定してください。設定は、「かんたん設定ページ」の電話設定ページで行います。かんたん設定ページの開きかたについては、P.37をご覧ください。  
ここでは、図のようにアナログ機器を接続した場合の設定例を紹介します。



### i・ナンバーサービスの設定例

i・ナンバーサービスは、契約者回線番号とは別に最大2つの電話番号を追加できるサービスです。契約者番号と合わせて3つの電話番号を使い分けることができます。i・ナンバーによる着信は、電話やFAX、RVS-COM、データ通信のいずれにも適用できるので、電話などのアナログ着信とデータ着信を明確に振り分けることが可能となります。電話はアナログポートで受けて、FAXはRVS-COMで受けるといった使いかたに便利です。

アナログ通信とデータ通信のi・ナンバーの設定は独立して同時に設定可能なので、ルータとTEL 1ポートを同時にi・ナンバーのポート番号2に設定するような使いかたもできます。

### ■ i・ナンバーによる着信について

本機に着信があると、まずアナログ着信であるかどうか判定され、アナログ着信の場合はi・ナンバーに合致したアナログポートだけ呼び出します。アナログ着信ではない場合はデータ着信の扱いとなり、次の順番でi・ナンバーの設定に合致して着信に応答するかどうか判定されます。

- 1) ルータ
- 2) ISDN-DCP ( RVS-COM )

もしルータとISDN-DCPが同じi・ナンバーポートに設定されている場合、常にルータのほうに着信が優先されるため、ISDN-DCPでは着信を受けられなくなるので注意が必要です。

**MEMO** | ・ルータに着信するかどうかは最終的にはルータ着信に関する設定にもよるので、i・ナンバーが合致しただけでルータに必ず着信するという意味ではありません。

i・ナンバーの設定がされているときに、発信時に相手に通知される発信者番号には、各々以下の設定が使用されます。

- 1) アナログポート [かんたん設定ページ] - [電話設定]の各ポートの番号1 (「相手へ自分の番号を通知する」の場合)
- 2) ルータ [かんたん設定ページ] - [システム管理]のルータのISDN番号
- 3) ISDN-DCP RVS-COMソフトの設定ウィザードで設定した自回線番号

## 電話設定ページの設定例

ここでは、i・ナンバーサービスを利用して、“031-333-2001”をTEL1ポートの電話機、“031-333-2002”をTEL2ポートのFAXで使い分ける例を紹介します。「かんたん設定ページ」の開きかたについては、P.37をご覧ください。

MEMO 各設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプページをご覧ください。

## ダイヤルインサービスの設定例

ダイヤルインサービスは、契約者回線番号とは別にいくつかの電話番号を追加できるサービスです。ダイヤルイン番号毎に着信条件を設定することにより、アナログ電話や ISDN 回線から機器を指定して電話をかけることができます。

### 電話設定ページの設定例

ここでは、契約者回線番号“012-333-2001”をTEL1ポートの電話機、FAX用のダイヤルイン番号“012-333-2002”をTEL2ポートのFAXで使い分ける例を紹介します。

#### MEMO

- 各設定項目の詳細については、「かんたん設定ページ」のヘルプページをご覧ください。
- HLC（高位レイヤ）情報は、接続した機器の種類を示す情報です。機器の種類に応じて着信するTELポートを使い分けることができます。ただし、相手が正しいHLC情報を送ってこない場合、着信ができなくなりますので、設定するときは注意が必要です。

## TEL ポート毎の設定例

ダイヤルインサービスを利用して電話番号を使い分けるときは、接続機器に合った設定を行ってください。ダイヤルイン契約時の申し込みでグローバル着信ありで申し込んだ場合の設定例です。

### TEL 1 ポートのオプション設定ページ

契約者回線番号を設定したTELポートは、[ グローバル着信 ]で[ する ]を選択します。

現在の設定表示ポート:TEL1

※下記項目の設定を変更した後は、下の登録ボタンを押してください。

使用制限	発信、着信で使用
------	----------

着信機能

グローバル着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
着信ベルの登録	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する <a href="#">着信ベルの登録</a>
識別着信 [登録番号からの着信拒否]	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する <a href="#">識別番号の登録</a>
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
話中の着信通知	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
宛番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トークあり 非通知

着信転送

※フレックスを選択する場合はNTTとの契約が必要です。

	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する 類似
着信転送件数	3件 <a href="#">着信転送件数のクリア</a>
転送先の番号	
転送先のサブアドレス (類似の場合のみ有効)	
転送トーン	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり
転送元トーン	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり
起動タイミング	すぐに起動 呼出回数 0 回
着信転送が失敗した場合	着信を受ける

三者通話

三者通話への切替え受付許容時間	4 秒
-----------------	-----

TELポートへのダイヤルイン信号

ダイヤルインの方式	モデムダイヤルイン
着信番号情報	HLC TELポートへ出力する番号
グローバル番号	使用しない
着信番号情報	HLC TELポートへ出力する番号
グローバル番号	使用しない

※「TELポートへ出力する番号」はモデムダイヤルインの場合は32桁、PBダイヤルインの場合は4桁の入力になります

FAX無鳴動着信

FAX無鳴動着信を使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
着信番号情報	HLC
グローバル番号	使用しない

その他

ナンバーディスプレイ対応機器の接続	使用しない
音量レベル	話す [最大] 聞く [最大]
相手に機器の種類を	通知しない
相手番号による即時発信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ダイヤル終了から発信までの時間	4 秒
フッキングとオンフックを区別するための判定時間	1 秒
着信時のオフフック後のフック検出無効時間	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり 0 秒

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

## TEL2 ポートのオプション設定ページ

FAX用の電話番号を設定したTELポートは、[グローバル着信]で[しない]を選択します。これで契約者回線番号では着信しなくなります。

現在の設定表示ポート:TEL2

※下記項目の設定を変更した後は、下の登録ボタンを押してください。

**使用制限** 発信、着信で使用

**着信機能**

グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
着信ベルの登録	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する <a href="#">着信ベルの登録</a>
識別着信   登録番号からの着信拒否	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する <a href="#">識別番号の登録</a>
着サブアドレスがない着信	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
話中の着信通知	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
発番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トークあり
		非通知 <span>▼</span>

**着信転送**

※フレックスを選択する場合はNTTとの契約が必要です。

しない する 疑似 ▼

着信転送件数 3件 [着信転送件数のクリア](#)

転送先の番号

転送先のサブアドレス (疑似の場合のみ有効)

転送トーク なし あり

転送元トーク なし あり

起動タイミング すぐに起動 ▼ 呼出回数 0 回

着信転送が失敗した場合 着信を受ける ▼

**三者通話**

三者通話への切替え受付許容時間 4 秒

**TELポートへのダイヤルイン信号**

ダイヤルインの方式 モデムダイヤルイン ▼

着信番号情報	HLC	TELポートへ出力する番号
グローバル番号 <span>▼</span>	<input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="text"/>
着信番号情報	HLC	TELポートへ出力する番号
グローバル番号 <span>▼</span>	<input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="text"/>

※「TELポートへ出力する番号」はモデムダイヤルインの場合は32桁、PBダイヤルインの場合は4桁の入力になります

**FAX無鳴動着信**

FAX無鳴動着信を使用 しない する

着信番号情報	HLC
グローバル番号 <span>▼</span>	<input checked="" type="radio"/> 使用しない

**その他**

ナンバーディスプレイ対応機器の接続 使用しない ▼

音量レベル 話す | 最大 ▼ 聞く | 最大 ▼

相手に機器の種類を FAXとして通知する ▼

相手番号による即時発信 しない する

ダイヤル終了から発信までの時間 4 秒

フッキングとオンフックを区別するための判定時間 1 秒

着信時のオフフック後のフック検出無効時間 なし あり 0 秒

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

### MEMO

- ・Fネットの1,300Hzの呼出信号に対応しているFAXをお使いの場合、FAX無鳴動着信の項目を設定すると、無音でFAXを自動着信させることができます。ただし、併せてHLCの種類を設定した場合、相手がHLC情報を送ってこないときには、着信ができないことに気が付かない恐れがあります。設定するときは注意が必要です。

## TEL3 ポートのオプション設定ページ

使用しないTELポートは、[ 使用制限 ] で [ このポートを使用しない ] を選択します。

[ 電話設定 ]

- [ TEL1オプション設定 ]
- [ TEL2オプション設定 ]
- [ **TEL3オプション設定** ]
- [ 機器間アナログ通話設定 ] (単独動作モード)

---

現在の設定表示ポート: TEL3

※下記項目の設定を変更した後は、下の登録ボタンを押してください。

**使用制限** このポートを使用しない

**着信機能**

グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
着信ベルの登録	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する <span style="font-size: small;">着信ベルの登録</span>
識別着信 <span style="font-size: small;">[ 登録番号からの着信拒否 ]</span>	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する <span style="font-size: small;">識別番号の登録</span>
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
話中の着信通知	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
発番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input type="checkbox"/> トークあり
		<span style="font-size: small;">非通知</span>

**着信転送**

※フレックスを選択する場合はNTTとの契約が必要です。

	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する <span style="font-size: small;">[ 疑似 ]</span>
着信転送件数	3件	<span style="font-size: small;">着信転送件数のクリア</span>
転送先の番号	<input type="text"/>	
転送先のサブアドレス (疑似の場合のみ有効)	<input type="text"/>	
転送トーク	<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> あり
転送元トーク	<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> あり
起動タイミング	<span style="font-size: small;">すぐに起動</span>	<span style="font-size: small;">呼出回数</span> <input type="text" value="0"/> 回
着信転送が失敗した場合	<span style="font-size: small;">着信を受ける</span>	

**三者通話**

三者通話への切替え受付許容時間	4 秒
-----------------	-----

**TELポートへのダイヤルイン信号**

ダイヤルインの方式	<span style="font-size: small;">[ モデムダイヤルイン ]</span>	
着信番号情報	HLC	TELポートへ出力する番号
<span style="font-size: small;">[ グローバル番号 ]</span>	<span style="font-size: small;">[ 使用しない ]</span>	<input type="text"/>
着信番号情報	HLC	TELポートへ出力する番号
<span style="font-size: small;">[ グローバル番号 ]</span>	<span style="font-size: small;">[ 使用しない ]</span>	<input type="text"/>

※「TELポートへ出力する番号」はモデムダイヤルインの場合は32桁、PBダイヤルインの場合は4桁の入力になります

**FAX無鳴動着信**

FAX無鳴動着信を使用	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
着信番号情報	HLC	
<span style="font-size: small;">[ グローバル番号 ]</span>	<span style="font-size: small;">[ 使用しない ]</span>	

**その他**

ナンバーディスプレイ対応機器の接続	<span style="font-size: small;">[ 使用しない ]</span>
音量レベル	話す <span style="font-size: small;">[ 最大 ]</span> 聞く <span style="font-size: small;">[ 最大 ]</span>
相手に機器の種類を	<span style="font-size: small;">[ 通知しない ]</span>
相手番号による即時発信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ダイヤル終了から発信までの時間	4 秒
フッキングとオンフックを区別するための判定時間	1 秒
着信時のオフフック後のフック検出無効時間	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり <input type="text" value="0"/> 秒

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

インターネット

# 第 4 章

## FAX の使いかた

この章では、本機を ISDN 回線でお使いの場合に利用できる FAX 送受信の 3 つの方法について紹介しています。よくお読みいただき、お持ちの機器やソフトウェアに合わせてお使いください。本機を専用線に接続している場合は、いずれの方法でも FAX を送受信することはできません。

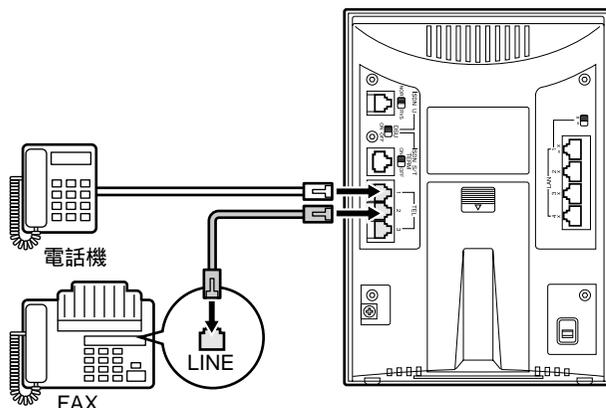
4-1	FAX 機器を使う .....	96
4-2	FAX モデムを使う .....	97
4-3	RVS-COM ソフトを使う .....	98
	RVS-COM ソフトについて .....	98
	RVS-COM の設定 .....	101
	パソコンからの FAX 送信手順 .....	104
	パソコンからの FAX 受信手順 .....	104

## 4-1 FAX 機器を使う

FAX 機器をお持ちの場合は、本機の TEL ポートに接続して、これまでと同様に使えます。

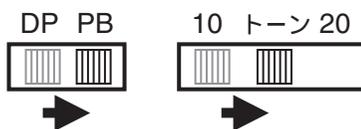
### ■ 接続のしかた

FAX 機器は、図のように接続します。



### ■ 回線の設定のしかた

今までプッシュ（トーン）回線だった場合は、そのままの設定で使えます。ダイヤル（パルス）回線から ISDN 回線に切り替えた場合は、FAX 機器の回線設定をプッシュ（トーン）回線に変更してください。



### ■ FAX 送受信のしかた

今までと同様に FAX 機器から送信・受信を行えます。詳しい操作方法については、お使いの FAX 機器の取扱説明書をご覧ください。

MEMO

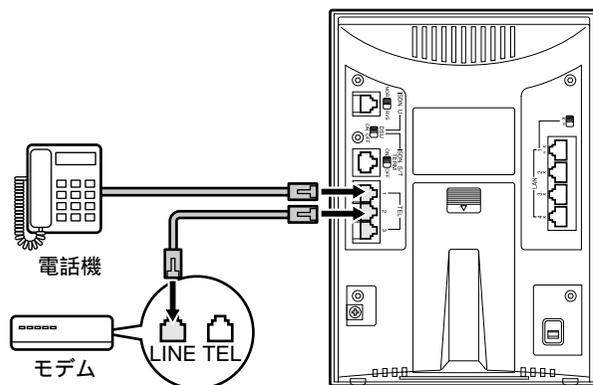
- ・ FAX やモデムでデータの送受信ができないときやエラーが多いときは、「かんたん設定ページ」や電話機から受信や送信の音量レベル (PAD 調整) 値を徐々に下げて調整してください。( P.25, 37 )

## 4-2 FAX モデムを使う

すでにFAX モデムがある場合は、FAX モデムを本機のTEL ポートに接続することにより、パソコンでFAX 送受信が行えます。

### ■ 接続のしかた

FAX モデムは、図のように接続します。



**MEMO** ・TELポートが足りない場合、FAXモデムのTELポートに電話機を接続することができます。ただし、その電話機とモデムの着信設定を使い分けることはできませんので、なるべく本機に直接接続することをお勧めします。

### ■ パソコンの設定について

すでにパソコンでFAXの送受信をしていた場合は、今までお使いのFAXソフトをそのまま使うことができます。ダイヤル(パルス)回線からISDN回線に切り替えた場合は、FAXソフトの回線設定をプッシュ(トーン)回線に変更してください。詳しい操作方法については、お使いのFAXソフトの取扱説明書をご覧ください。

### ■ FAX 送受信のしかた

すでにパソコンでFAXの送受信をしていた場合は、今までと同様にFAXの送信・受信を行えます。詳しい操作方法については、お使いのFAXソフトの取扱説明書をご覧ください。

**MEMO** ・FAXやモデムでデータの送受信ができないときやエラーが多いときは、「かんたん設定ページ」や電話機から受信や送信の音量レベル(PAD調整)値を徐々に下げて調整してください。( P.25, 37 )  
・機器間アナログ通話機能のアナログ子機ルータに接続している場合は、電波状態やネットワークの混雑具合によってつながりにくいときがあります。その場合は、アナログ親機ルータに接続してお使いください。

## 4-3 RVS-COM ソフトを使う

### RVS-COM ソフトについて

RVS-COM ソフトは、ドイツの RVS 社開発の Windows 95 / 98 / NT4.0 用の FAX ソフトウェアです。ISDN-DCP に対応した RVS-COM2000 を使うと、LAN 上のパソコンから FAX の送受信を行なうことができます。

詳しくは RVS-COM 製品添付のユーザーズマニュアルを参照してください。国内では、RVS-COM 製品はメガソフト株式会社が取り扱っています。製品自体のインストール方法、ご使用方法、サポート等についてはメガソフト株式会社にお問い合わせください。

URL <http://www.megasoft.co.jp/>

また、RVS-COM 対応に関する最新情報については YAMAHA NetVolante ホームページを参照してください。

URL <http://NetVolante.rtrpro.yamaha.co.jp/>

**MEMO** ・本機にはシリアルポート接続の TA 機能はありませんので、シリアルポート接続用の RVS-COM Standard や RVS-COM lite は使用できません。

### ■ ISDN-DCP 対応に関する基本仕様について

最大 10 クライアントまで着信待ちが可能です。ただし、RVS 電話と RVS コムセンターなど、アプリケーション毎に一つのクライアントとして扱われるため、必ずしも 10 台のパソコンで着信待ちできるというわけではありません。

ISDN-DCP クライアントで同時に通信できるのは 2 つまでです。

デバイスタイプ ISDN-DCP では G4 FAX が使用可能です。

ISDN-DCP では非同期 V.110 によるデータ転送をサポートしておりません。

ISDN-DCP による転送ではルーティングによる転送をサポートしておりません。

**MEMO** ・最大 10 個の ISDN 番号を登録可能なので、NTT のダイヤルイン契約を併用すれば着信待ちしている LAN 上の特定の PC にダイレクトに着信を振り分けることが可能です。  
・NTT の i・ナンバーサービス契約を併用することで、アナログポートと RVS-COM を振り分けて運用することが可能です。

## ■ RVS-COM のインストールについて

以下の点に注意してインストールしてください。

「環境設定ウィザード」を起動しての設定手順中、通信デバイスの検出画面では「通信デバイスをマニュアル操作で選択する」チェックボックスにはマークを付けてください。（自動では検出されません）

「環境設定ウィザード」を起動しての設定手順中、「RVS ISDN-DCP 対応 ISDN ルータ」の「名前または IP アドレス」入力画面では、本機の LAN インタフェースの IP アドレス（工場出荷状態は 192.168.0.1）を入力します。

「RVS コムセンター」の「デバイス」タブの「ダイヤルのプロパティ」画面の中で市外局番の先頭の 0 は削除することに注意します。

「RVS コムセンター」の「回線番号」タブで表示される「ISDN 回線番号」は、発信時に相手に通知される番号となります。

「RVS コムセンター」の「ISDN」タブの「この ISDN 回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」のチェックボックスは、i・ナンバーサービスを契約した場合とグローバル着信ありのダイヤルイン契約ではマークを外し、グローバル着信のない通常のダイヤルイン契約を行った場合にはマークします。

最大数 10 のクライアントが着信待ちになっている場合、それ以上 RVS-COM ISDN-DCP 版のソフトウェアをパソコンにインストールをすることができません。インストールを継続するには、着信待ちになっているいくつかのクライアントを一時的に解除し、クライアント数の合計を 9 以下に減らしてください（現在のクライアント数は show status isdn-dcp コマンドにより確認できます）。

ダイヤルイン契約を行って複数のダイヤルイン番号を取得して番号毎に着信を振り分ける場合には、次にあげた項目の設定内容を確認してください。

- ・「電話設定」ページのアナログポートのダイヤルイン番号
- ・「システム管理」ページの「ルータの ISDN 番号」
- ・「付加機能」ページの「LAN 版 RVS-COM」ページの「着信許可番号」
- ・「RVS コムセンター」の「ISDN」タブの「この ISDN 回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」のチェックボックス（上記注意書き項目参照）



**注意**

- ・ RVS-COM の通信中には、「かんたん設定ページ」にアクセスしないでください。またこの時は、コンソールコマンドの save コマンドを実行しないでください。
- ・ 本機の電源を入れ直したり再起動を行った場合には、RVS-COM の方も再度起動し直してください。

## ■ 着信条件について

ISDN-DCPとして着信を受けるには、最低限、以下の2つの条件を同時に満たしている必要があります。

- 1) ISDN-DCP クライアントが少なくとも一つ着信待ちになっている。
- 2) 本機の設定で ISDN-DCP の着信が許可されている。  
(工場出荷状態では isdn-dcp arrive permit on、すなわち許可状態です。)

## ■ データ通信とアナログ通信の着信について

RVS-COM は、電話や G3 FAX などのアナログ通信と、ファイル転送などを行うデータ通信の両方が可能です。データ通信は以下の優先順位で着信処理されます。

- 1) ルータ
- 2) RVS-COM ISDN-DCP

もし、ルータとして着信を受けられる設定がされているときは、すべてそちらのほうに着信してしまい、ISDN-DCP で着信を受けることができません。i・ナンバーサービスを利用するとこれら3つの各転送モードに適用できますが、この優先順位は変わりません。

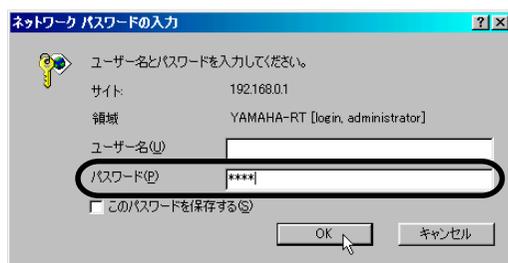
アナログの着信があると最初にアナログポートを呼び出しますが、指定時間(工場出荷状態では15秒間)アナログポートの機器が応答しなければ自動的にISDN-DCPのほうに着信が切り替わります。この切り替え時間は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」-「LAN版RVS-COM」ページを開き、[RVS-COMへの切り替え時間]で変更できます。

**MEMO** ・即座にISDN-DCPに着信させる設定ではなく、かつ、アナログポートに着信転送(擬似を含む)が設定されている場合にはISDN-DCPには着信できません。

## RVS-COM の設定

ここでは、かんたん設定ページから設定できる項目を説明します。コンソールコマンドについては、本機に付属CD-ROMに収録されている「コマンドリファレンス」を参照してください。RVS-COM 製品を使って通信を行うためにはパソコンのRVS-COM側の設定も必要です(インストールについてはP.99の注意書きを参照してください)。

- 1 通信中のRVS-COMクライアントが無いことを確認します。
- 2 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」へアクセスします。「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 3 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

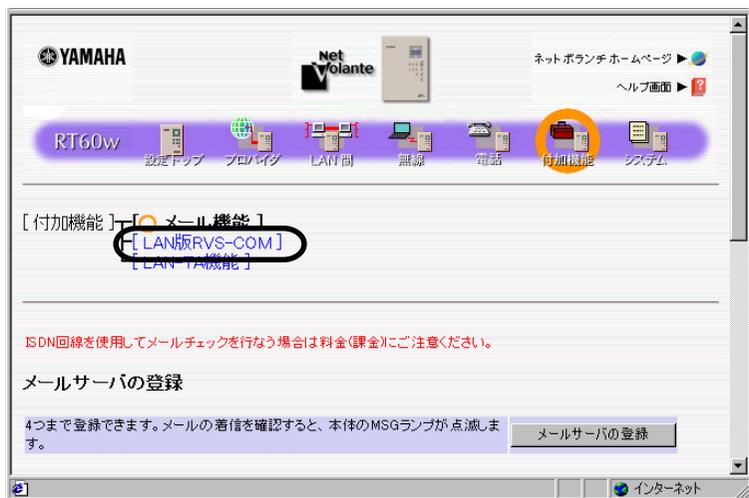
- 4 [かんたん設定] を押します。



## 5 [付加機能] を押します。



## 6 [LAN版RVS-COM] を押します。



## 7 ISDN-DCPの着信で許可するダイヤルイン番号、i・ナンバーのポート番号、アナログからRVS-COMへ切り替える時間、音量レベルを設定し、[登録]ボタンを押します。

The screenshot shows a configuration window for RVS-COM. At the top, there are menu options: [付加機能], [メール機能], [LAN版RVS-COM], and [LAN-TA機能]. The main section is titled '着信許可設定' (Call Permission Setting). It includes a radio button to allow or disallow calls from LAN-connected RVS-COM/ISDN-DCP. Below this, there are fields for '着信許可番号' (Call Permission Number) with two rows for '回線(ダイヤルイン)番号' (Line/Dial-in Number) and 'サブアドレス' (Sub-address). The first row has a blank field for the number and a blank field for the sub-address. The second row has '0313332002' for the number and a blank field for the sub-address. There are also radio buttons to allow calls from i-numbers on 'ポート1', 'ポート2', or 'ポート3', with 'ポート2' selected. A section for 'RVS-COMへの切り替え時間' (Switching time to RVS-COM) has a dropdown menu set to '15' seconds. The 'G4FAXの着信' (G4FAX Incoming) section has two radio buttons: 'G3で発信し直すように相手側に要求する' (Request to redial on G3) and 'G4で着信を許可する (RVS-COM 2000のみ使用可能)' (Allow incoming on G4, RVS-COM 2000 only). The '音量レベル' (Volume Level) section has two dropdown menus for '送話音量レベル(PAD)' and '受話音量レベル(PAD)', both set to '最大' (Maximum). At the bottom, there is a red warning message: '上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。' (After setting the above items, please register the settings with the Register button.) and two buttons: '登録' (Register) and '既定値に戻す' (Reset to Default).

ダイヤルイン番号は着信許可のための番号ですが、発信時に相手に通知される発番号はRVS-COM側で設定する必要があります。i・ナンバーの設定を行うと、着信時のダイヤルインの番号は着信動作では無視されます。

アナログからRVS-COMへ切り替える時間を更に微調整したい場合には、コンソールコマンドにて可能です( コマンドリファレンス )。

G4 FAXの着信許可は、RVS-COM製品がG4 FAX通信対応している場合のみ設定が有効です。

音量レベルはRVS電話やG3 FAX、ソフトモデムなどの音声データを扱う通信がうまくいかない場合にだけ、徐々にレベルを下げて調整します。

**MEMO** ■ 本機がMP通信により2本のチャンネルとも使用中の間は、ISDN-DCPによる通信はできません。

## パソコンからの FAX 送信手順

- 1 パソコンの RVS-COM を起動します。
- 2 送信したいファイルを開き、プリンタドライバに「RVS Fax」を指定して印刷と同じ操作を行います。
- 3 RVS-COM のダイアログに従って相手電話番号などを入力します。

## パソコンからの FAX 受信手順

- 1 パソコンの RVS-COM を起動して、FAX 受信できる状態にしておきます。
- 2 アナログの着信があると接続してあるアナログ機器の呼出音が鳴ります。
- 3 15 秒経過すると、自動的にアナログ機器の呼出音が切れ、RVS-COM が応答します。

- MEMO
- ・アナログ機器を呼び出す時間は工場出荷設定で 15 秒ですが、5 秒から 160 秒の間に設定変更できます ( コマンドリファレンス )
  - ・「かんたん設定ページ」の「付加機能」－「LAN 版 RVS-COM」ページでもおおまかに設定することができます ( P.103 )

# 第 5 章

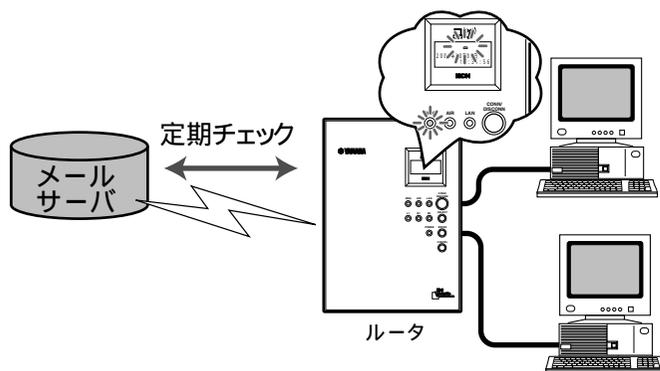
## メール着信の使いかた

この章では、メール着信確認機能の設定方法や使いかたについて紹介しています。よくお読みいただき、本機のメール機能を十分活用してください。

5-1	メール着信確認機能について .....	106
5-2	メールアドレスを登録する .....	107
5-3	メールの着信を確認する .....	110
5-4	メール着信転送を設定する .....	113

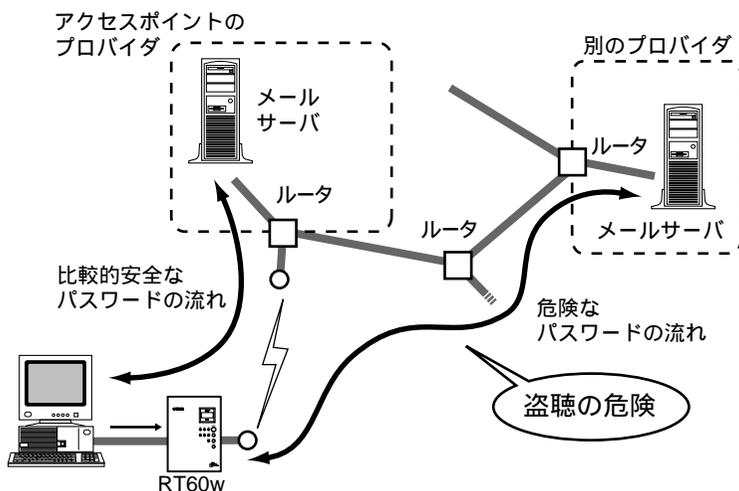
## 5-1 メール着信確認機能について

メール着信確認機能は、プロバイダに新しいメールがあるかどうかを本機が定期的に確認して、MSGランプに表示したり、ブラウザで確認できる機能です。パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無が確認できます。メールアドレスは、4つまで登録できます。



注意

- ・プロバイダと接続中の場合、そのプロバイダのメールサーバでないメールサーバに対してこのコマンドが実行されると、パスワード情報が暗号化されずにインターネット上に流れるので、十分注意してください。



MEMO

- ・本機はメール着信確認を行うためにインターネット接続を行うので、メール着信確認を行う度に通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。
- ・メールソフトでメールサーバにメールを残すように設定している場合は、メールをチェックするたびにメール着信有りの表示となります。新着メールを表示したい場合は、メールソフトを「受信済みメールをサーバに残さない」設定に変更してください。

## 5-2 メールアドレスを登録する

メールアドレスの登録は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」ページで行います。メールアドレスは、4つまで登録できます。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

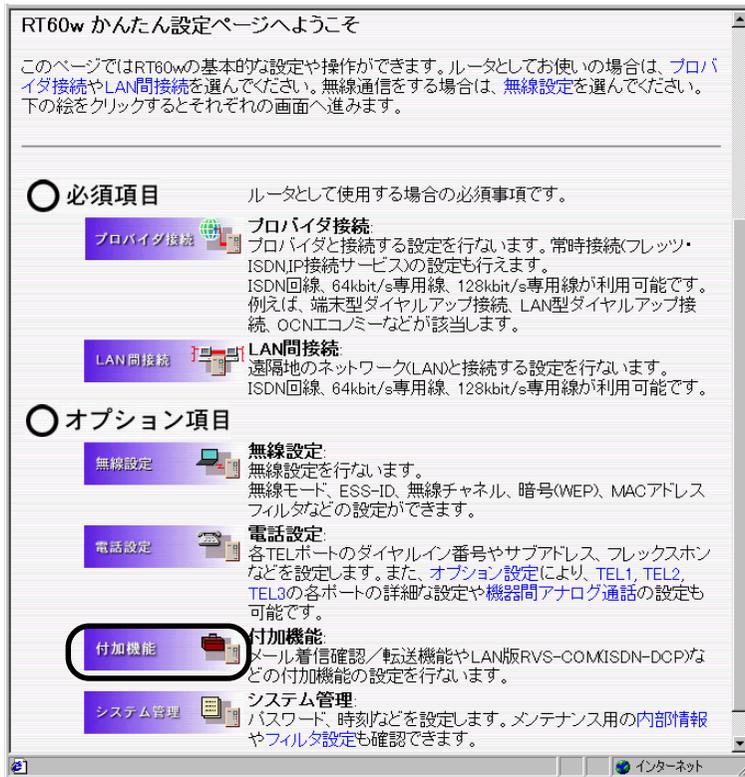


本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。



## 4 [付加機能]を押します。



## 5 [メールサーバの登録] ボタンを押します。



## 6 メールサーバの名称、ドメイン名(またはIPアドレス)、ユーザ名、パスワードを入力します。

メールサーバのIPアドレス、ユーザ名、パスワードは、プロバイダから通知されたものを入力してください。

一定時間ごとにメールチェックする場合には、「自動チェック」を「行なう」を選択し、「自動チェック間隔」の時間間隔と指定時刻を入力します。

[付加機能] - [メール機能] - [メールサーバの設定]

着信(受信/POP)メールサーバの登録

接続先プロバイダの設定は、端末型接続またはネットワーク型接続のページで行なってください。  
意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの動作が行なわれることを確認してください。

名前	MailSaver1	半角32文字以内
受信用メール(POP)サーバ	pop.provider.ne.jp	IPアドレスまたは名前
ユーザID	mynameisa	半角入力32文字以内
パスワード	*****	半角入力32文字以内
タイムアウト時間	30	1~180秒
自動メールチェック(時間間隔)	<input type="radio"/> 行なわない <input checked="" type="radio"/> 推奨設定: 3時間毎 <input type="radio"/> 手動設定: 0 分毎	10~1440分間隔
自動メールチェック開始時刻	08 : 45 から実行	
メールチェックしない時間帯	21 : 00 ~ 08 : 00	

転送先(送信/SMTP)メールサーバの登録

メール転送を  しなない  する

転送元(送信側)メールアドレス		半角入力255文字以内
送信用メール(SMTP)サーバ		IPアドレスまたは名前
転送先メールアドレス		半角入力255文字以内
転送するデータの最大データ長	4096 バイト(越えた分は転送しない)	0~4096バイト (デフォルト 4096バイト)
転送条件	<input checked="" type="radio"/> 以下のすべての条件を満たした場合に転送する <input type="radio"/> 以下のどれかひとつの条件を満たした場合に転送する	
	<input type="checkbox"/> 文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力
	<input type="checkbox"/> 文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力
	<input type="checkbox"/> 文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力
	<input type="checkbox"/> 文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

ページが表示されました

インターネット

- MEMO
- ・メール着信確認で自動チェックが設定されていると、本機のディスプレイに「✉」が点灯します。
  - ・本機はメール着信確認を行うためにインターネット接続を行うので、メール着信確認を行う度に通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。

## 7 [登録] ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「付加機能」ページへ戻ります。

- MEMO
- ・接続先プロバイダは、[端末型プロバイダ接続]または[ネットワーク型プロバイダ接続]ページで設定したプロバイダになります。

## 5-3 メール到着を確認する

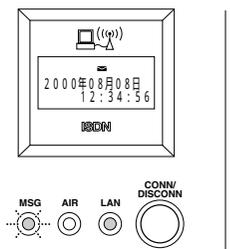
メール着信の確認は、自動またはブラウザから手動で行います。

### MEMO

- ・本機はメール着信確認を行うためにインターネット接続を行うので、メール着信確認を行う度に通話料金とプロバイダの接続料金がかかります。
- ・メールソフトでメールサーバにメールを残すように設定している場合は、メールをチェックするたびにメール着信有りの表示となります。新着メールを表示したい場合は、メールソフトを「受信済みメールをサーバに残さない」設定に変更してください。

### ■ 定期的に確認する

メール着信確認で自動チェックが設定されていると、ディスプレイに「✉」が点灯します。指定された時刻に本機がメールサーバをチェックし、メールが着信していると、MSG ランプを点滅して知らせます。



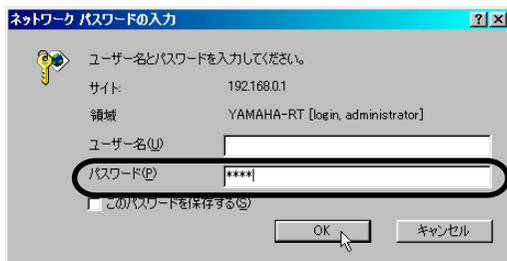
MSG ランプの点滅は次の状態を表しています。

- “ピカッ” (1回点滅)                      メールサーバ1にメール着信あり
- “ピカッピカッ” (2回点滅)              メールサーバ2にメール着信あり
- “ピカッピカッピカッ” (3回点滅)      メールサーバ3または4にメール着信あり

### ■ 手動で確認する

メール着信の確認は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」ページで行います。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

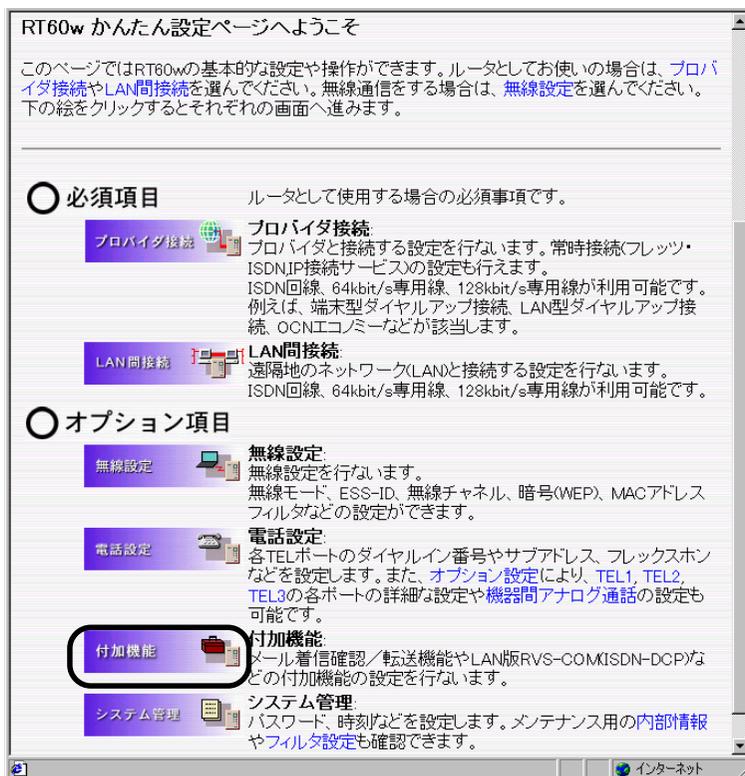


本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

### 3 [かんたん設定]を押します。



### 4 [付加機能]を押します。

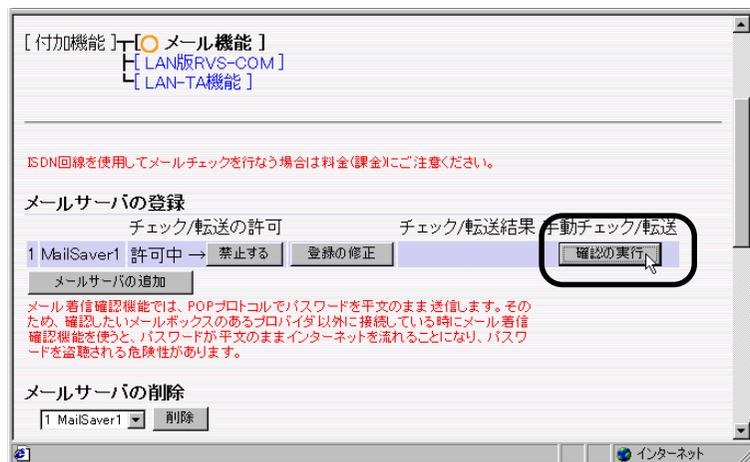


5

メール着信の使いかた

5 登録したメールサーバの名称に対応する「手動チェック/確認」欄の[実行]ボタンを押します。

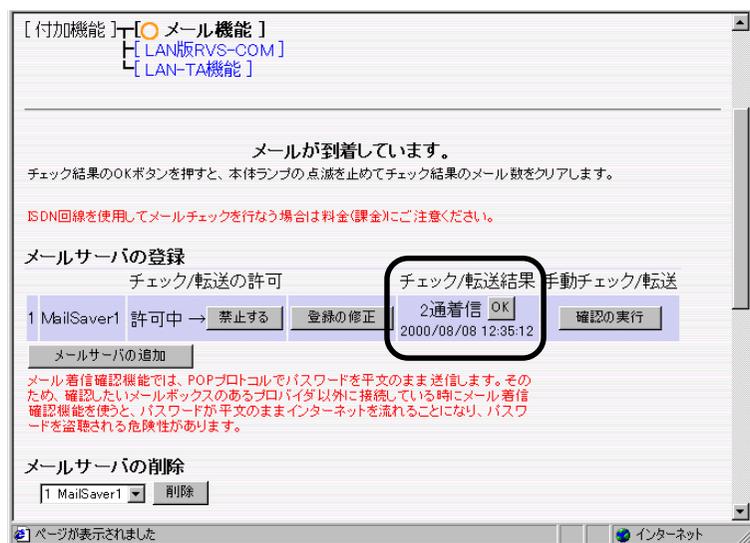
メールサーバのメール着信がチェックされます。手動チェックの結果は、[チェック/転送結果]の欄に表示されます。



注意

- ・プロバイダと接続中の場合、そのプロバイダのメールサーバでないメールサーバに対してこのコマンドが実行されると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上に流れるので、十分注意してください。

6 確認し終わったら、「チェック結果」欄の[OK]ボタンを押します。対応したサーバ番号の点滅パターンが消えます。



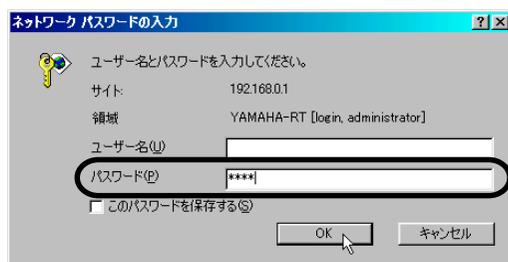
## 5-4 メール着信転送を設定する

メール着信転送は、着信したメールを登録したインターネットメール (Email) アドレスへ転送する機能です。転送文字数を設定したり、送信元や題名などの転送条件を設定することが可能です。

メールの着信の設定は、「かんたん設定ページ」の「付加機能」ページで行います。メールの転送先は、インターネットメールをサポートする機器 (携帯電話、PHS、電話機を含む) に転送可能です。

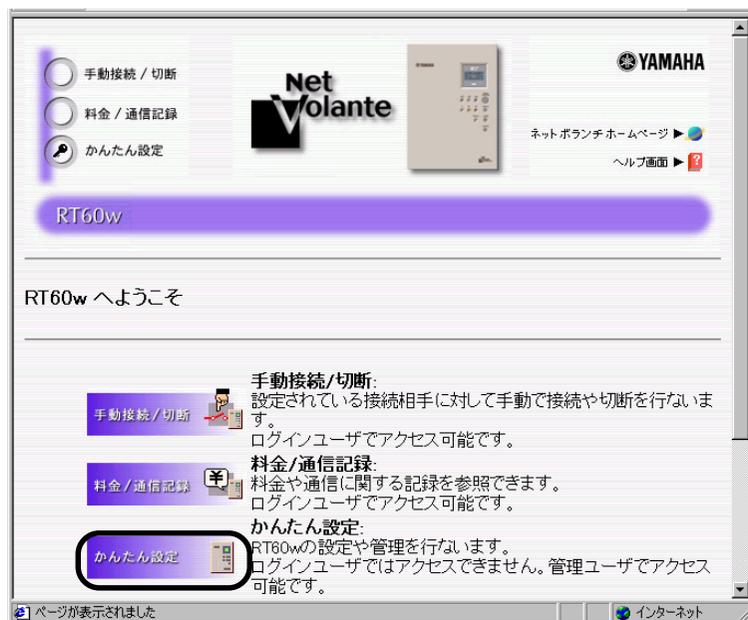
### ■ 設定のしかた

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

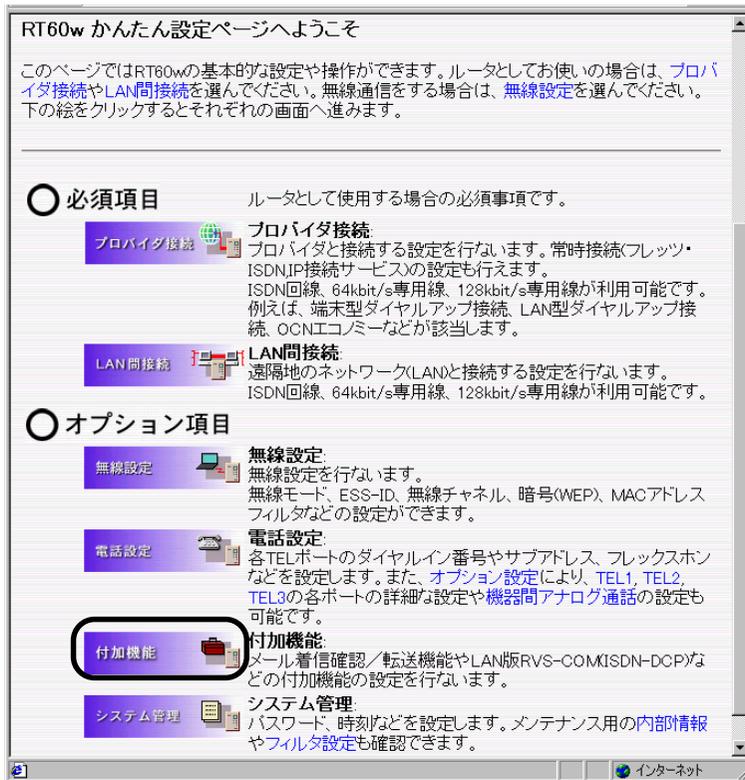


本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。



## 4 [付加機能]を押します。



## 5 [メールサーバの登録] ボタンを押します。



## 6 着信確認するメールアドレス情報と転送先のメールアドレス情報を入力します。

[付加機能] - [メール機能] - [メールサーバの設定]

**着信(受信/POP)メールサーバの登録**

接続先プロバイダの設定は、端末型接続またはネットワーク型接続のページで行なってください。  
意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの動作が行なわれることを確認してください。

名前	MailSaver1	半角32文字以内
受信用メール(POP)サーバ	pop.provider.ne.jp	IPアドレスまたは名前
ユーザID	mynameisa	半角入力32文字以内
パスワード	*****	半角入力32文字以内
タイムアウト時間	30	1~180秒
自動メールチェック(時間間隔)	<input type="radio"/> 行なわない <input checked="" type="radio"/> 推奨設定: 3時間毎 <input type="radio"/> 手動設定: 0分毎	10~1440分間隔
自動メールチェック開始時刻	08:45 から実行	
メールチェックしない時間帯	21:00 ~ 08:00	

**転送先(送信/SMTP)メールサーバの登録**

メール転送を  しない  する

転送元(送信側)メールアドレス	mynameisa@provider.ne.jp	半角入力255文字以内
送信用メール(SMTP)サーバ	smtp.provider.ne.jp	IPアドレスまたは名前
転送先メールアドレス	imaa@mobilemaster.ne.jp	半角入力255文字以内
転送するデータの最大データ長	4096 バイト(越えた分は転送しない)	0~4096バイト (デフォルト 4096バイト)

**転送条件**

以下のすべての条件を満たした場合に転送する  
 以下のどれかひとつの条件を満たした場合に転送する

Fromに	文字列	company.co.jp	が含まれるメールを転送	半角英字入力
使用しない	文字列		が含まれるメールを転送	半角英字入力
使用しない	文字列		が含まれるメールを転送	半角英字入力
使用しない	文字列		が含まれるメールを転送	半角英字入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

ページが表示されました

## 7 [登録] ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと、設定が登録されて「付加機能」ページへもどります。

### MEMO

- ・メール着信転送が設定されていると、ディスプレイに「✉」が点灯します。
- ・受信メール容量が最大長(工場出荷値は10240byte)を超えている場合、メールは転送されません。受信メールの最大長は、コンソールコマンドの "mail-transfer receive maxlength" で変更することができます。(コマンドリファレンス)

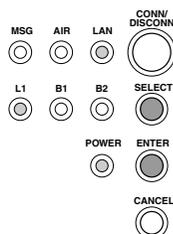
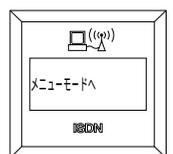
## ■ メール確認 / 転送の停止・再開のしかた

メール着信確認 / 転送は、ボタン操作で設定することができます。

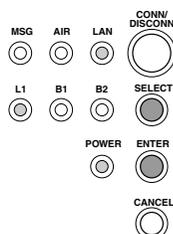
MEMO ・メール確認 / 転送の設定をボタン操作で行うには、あらかじめ「かんたん設定ページ」で着信メールサーバおよび転送先メールサーバの登録を行う必要があります。( P.107,113 )

**1** [ SELECT ] ボタンを押して、「メニューモードへ」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。

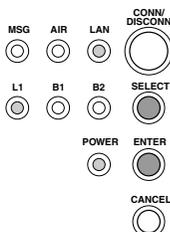
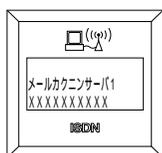
メニュー項目が表示されます。



**2** [ SELECT ] ボタンを何度か押して「メールカクニン&テンソウ」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。



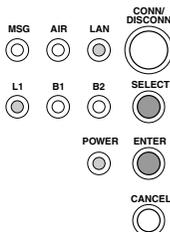
- 3** [ SELECT ] ボタンを押してメールサーバを選択し、[ ENTER ] ボタンを押します。  
 メールサーバは、メールカクニンサーバ1 メールカクニンサーバ2 メールカクニン  
 サーバ3 メールカクニンサーバ4の順で表示されます。



- 4** [ SELECT ] ボタンを押して [ ON ] または [ OFF ] を選択し、[ ENTER ] ボタンを押  
 します。

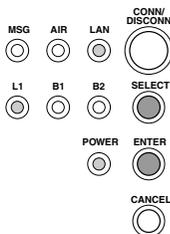
メール着信確認 / 転送を停止する場合の例

[ メールカクニンOFF ] (メール転送を設定してある場合は「メールカクニン&テンソウ  
 OFF」) を選択すると、メール確認およびメール転送が停止されます。

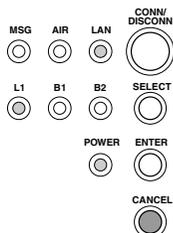


メール着信確認 / 転送を再開する場合の例

[ メールカクニンON ] (メール転送を設定してある場合は「メールカクニン&テンソウ  
 ON」) を選択すると、メール確認およびメール転送が再開されます。



## 5 [CANCEL] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示に戻ります。



### メール通知機能について

メール通知機能は、データ通信とTELポートの累積料金情報を指定したメールアドレスへ定期的送信する機能です。意図しない自動接続をメールで監視したり、累積料金の定期リセット機能と併用して定期的利用記録をメールに残すことができます。

メール通知機能は「かんたん設定ページ」の「付加機能」ページで、送信先と送信する日時を設定します。

[付加機能]  メール機能  
 [LAN版RVS-COM]  
 [LAN-TA機能]

ISDN回線を使用してメールチェックを行なう場合は料金(課金)にご注意ください。

メールサーバの登録

4つまで登録できます。メールの着信を確認すると、本体のMSGランプが点滅します。

メールサーバの登録

**メール通知機能**

メール通知機能は、データ通信とアナログポート通信の累積情報を電子メールにより通知することができます。

設定名	RT60w_JoeMail	半角32文字以内
送信用メールサーバ(SMTP)	smtp.provider.ne.jp	IPアドレスまたは名前
通知元メールアドレス(From)	username@provider.ne.jp	半角入力255文字以内
通知先メールアドレス(To)	username@provider.ne.jp	半角入力255文字以内
通知メールの題名(Subject)	RT60w_monthly	半角入力64文字以内
通知するデータの最大データ長	4096 バイト (越えた分は通知しない)	0~4096バイト (デフォルト 4096バイト)
タイムアウト時間	120	1~180秒
自動通知	毎月1日	
自動通知時刻	00:01 から実行	

上記の項目を設定した後、メール通知の設定ボタンで設定内容を登録してください。

メール通知の設定登録 既定値に戻す

インターネット

# 第 6 章

## 無線 LAN の使いかた

この章では、ルータとしてのより高度な活用例を紹介しています。設定にはネットワークの知識が必要になるものもありますが、やりたいことに該当する例を参考にして、本機のルータ機能を十分活用してください。

また、より専門的な設定例については、「設定例集」や「コマンドリファレンス」、ヤマハ RT シリーズのホームページ “ <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> ” をご覧ください。

6-1	無線 LAN について .....	120
6-2	無線 LAN の利用例 .....	121
6-3	無線 LAN のセキュリティを強化する .....	123
6-4	複数台の RT60w を接続する .....	126
6-5	複数ルータ間で通話する .....	136

## 6-1 無線 LAN について

本機に内蔵の無線 LAN は、電波免許不要の 2.4GHz 帯周波数を使った無線 LAN です。本機には IEEE802.11b 規格に準拠した無線アクセスポイント機能が内蔵されており、パソコンに同規格に準拠した無線 LAN カード/ボードを取り付けることで、簡単に無線 LAN を構築することができます。

### ■ 無線 LAN の主な機能

無線 LAN には、次のような機能で干渉防止やセキュリティを確保しています。

#### ESS-ID

無線アクセスポイントを識別するためのグループ名です。ESS-ID が合った機器どうしが通信できます。本機に無線接続をするときは、本機の ESS-ID をパソコンの無線 LAN カード/ボードに設定する必要があります。本機の工場出荷値は、本機の MAC アドレス下 6 桁が設定されています。

#### チャンネル

IEEE802.11b 規格の無線 LAN で使用する周波数で、14 個のチャンネルがあります。1 ~ 13 チャンネルが第 2 世代小電力データ通信システムに、14 チャンネルが小電力データ通信システムに対応しています。近隣に違う ESS-ID で同じチャンネルの無線 LAN アクセスポイントがあると、通信速度が低下することがありますが、異なるチャンネルを使用することで干渉を防止し、通信速度を確保することができます。本機の工場出荷値は、チャンネル 1 が設定されています。

ただし、各チャンネルの周波数が近接しているため、複数のチャンネルを使用するときは 3 つ以上離れたチャンネルを設定してください。またこの周波数は「構内無線局」や「特定小電力無線局」と共用しているため、付近で運用されている場合はこれらと干渉しないチャンネルを設定してください。

#### WEP 機能

無線 LAN の通信を暗号化する機能です。WEP 機能を設定すると、無線信号を傍受されても暗号キーなしでは解読することができません。本機の WEP 機能は 40bit コードで暗号化しており、40bit コードに対応した無線 LAN カード/ボード間で利用できます。

#### MAC アドレスフィルタ

各ネットワーク機器固有の MAC アドレスを使って、接続を制限する機能です。MAC アドレスフィルタを設定すると特定の機器しか接続できないので、不正な機器による LAN への侵入を防止することができます。

#### MEMO

- ・本機の無線 LAN に多くのパソコンを接続すると通信速度が著しく低下します。実用上は、3 2 台以内での利用をお勧めします（同時使用可能な無線端末数は、使用環境により減る場合があります）。
- ・WEP 機能を設定すると、暗号化処理のために通信速度が多少遅くなります。あらかじめご理解いただいた上で、ご使用ください。

## 6-2 無線 LAN の利用例

無線 LAN を使った代表的な接続例を紹介します。RT60w を複数使うと、離れた LAN にそれぞれ RT60w を接続して LAN どうしを接続できる「無線 LAN ブリッジ機能」や、いくつかの RT60w を有線 LAN で接続して無線アクセスポイントの自動切り替えにより無線範囲を広げられる「ローミング機能」など、さまざまな活用が可能です。

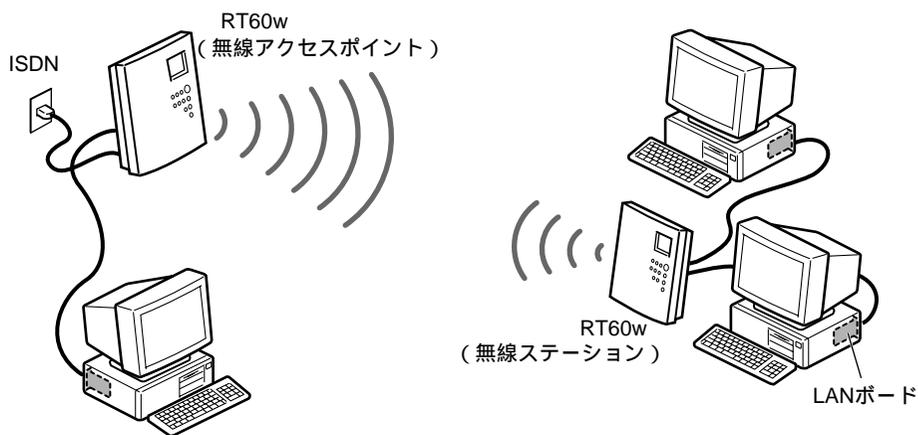
### パソコンのみを無線 LAN に接続する場合

ノートパソコンやデスクトップパソコンを無線で LAN 接続することができます。別の部屋でも電波の届く範囲なら、ワイヤレスで LAN 接続することが可能です。



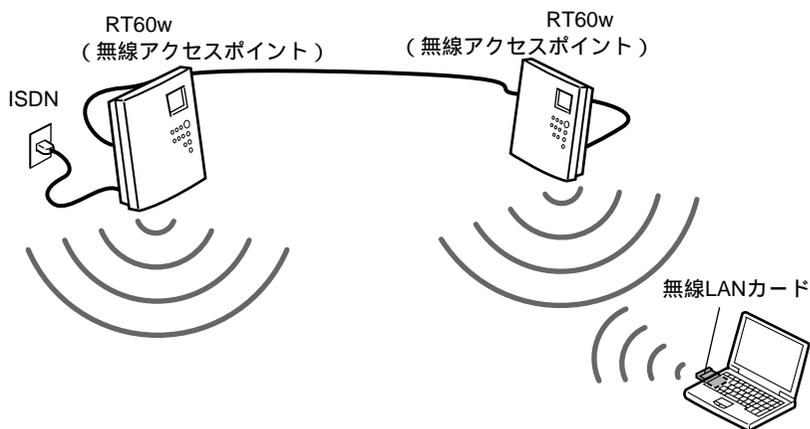
### 複数の RT60w を無線ブリッジ接続する場合

本機に内蔵の「無線ブリッジ接続機能」により、別の部屋や別の階の有線 LAN でも、それぞれ RT60w を設置することで、ワイヤレスで有線 LAN どうしを接続することができます。接続できる RT60w は、合計 9 台までです。



### 複数の RT60w でローミング接続する場合

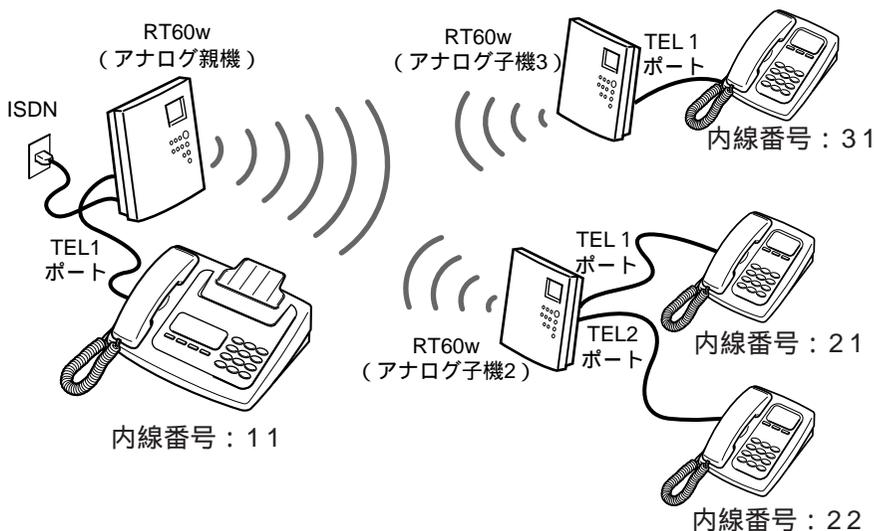
本機に内蔵の「ローミング機能」により、LAN上の離れた場所に複数の RT60w を接続することで、無線 LAN の届く範囲を広げることができます。無線 LAN 接続のパソコンが移動した場合、一番電波状態の良いアクセスポイントに自動切り替えしながら、接続し続けることが可能です。



### 簡易ホームテレホンとして使う場合

本機に内蔵の「機器間アナログ通話機能」により、複数の RT60w 間で TEL ポートを一括管理し、内線通話を利用することができます。また、1 台のルータが ISDN 回線に接続されていれば、他のルータから外線通話をすることも可能です。ルータは 9 台まで接続可能です。

複数ルータ間で通話するときは、ISDN 回線を接続しているルータにアナログ機器番号 1、その他のルータにアナログ機器番号 2 ~ 9 を設定します。



MEMO ■ 機器間アナログ通話機能は、ネットワークが混雑すると、音声途切れる場合があります。

## 6-3 無線 LAN のセキュリティを強化する

本機の無線 LAN には、「WEP (暗号化) 機能」、「MAC アドレスフィルタ機能」のセキュリティ機能を内蔵しており、盗聴や不正侵入を防ぐことができます。最小限の設定では、「ESS-ID」の設定だけでも使えますが、「WEP (暗号化) 機能」や「MAC アドレス制限機能」を設定することにより、セキュリティを強化することができます。

### ■ 設定のしかた

- 1 使用する ESS-ID、チャンネル、WEP 機能とその暗号キーを決めたり、無線 LAN 接続する機器の MAC アドレスを調べます。

#### ESS-ID

32文字以内の半角英数字で決めてください。また本機のボタンで設定する場合は、6桁の16進数をお使いください。初期値は本機のMACアドレス下6桁の16進数(アルファベットはすべて大文字)に設定されています。

#### チャンネル

1～14チャンネルのうち、無線LANカード/ボードで利用できるチャンネルの中から、他で使っているチャンネルから3つ以上離れたチャンネルを選んでください。(例 1チャンネルと5チャンネル、3チャンネルと7チャンネルと11チャンネル)ただし、近隣で移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局が運営されている場合は、そのチャンネルと干渉しないチャンネルを選んでください。

#### WEP 機能

WEP 機能による暗号化をする場合は、暗号キーを5文字の半角英数字か、“0x”+10桁の16進数のいずれかで決めてください。(例 “rt60w”、“0x12345abcde”)

- 2 無線 LAN で接続する機器の電源をすべてオンにします。
- 3 LAN に接続している 1 台のパソコンでブラウザを開き、アドレス入力欄に “http://(ルータの IP アドレス)/” を入力して、[ enter ] キーを押します。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが開きます。
- 4 [ パスワード ] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[ OK ] ボタンを押します。



「RT60w へようこそ」ページが表示されます。

- 5 [ かんたん設定 ] を押します。  
「RT60w かんたん設定ページ」が表示されます。

- 6 [無線設定] を押します。  
「無線設定」ページが表示されます。

- 7 設定するESS-ID、チャンネル、WEP機能とその暗号キーを入力し、[詳細設定の登録] を押します。

無線モードの登録

無線モードをオフに設定した場合は、無線通信ができなくなります。  
RT60wが1台のみの場合はアクセスポイントモードを選択してください。 [アクセスポイント]

無線通信を始める前に、無線LANの電波に関する注意を読んでください。  
上記の項目を設定した後、無線モードの登録ボタンで設定内容を登録してください。

無線モードの登録 既定値に戻す

詳細設定の登録

無線通信を行う場合、ESS-IDと暗号(WEP)を設定し通信する相手側にも設定してください。

ESS-ID	D012AB	半角英数字32文字以内
無線チャンネル	5 ch	アクセスポイントモードの時のみ設定可能
<input checked="" type="checkbox"/> WEPを使用する		
暗号(WEP)	暗号キー *****	「半角英数字5文字」 または「*0x*」に続く16進数10桁 (例) 「RT60w」または「0x12345abcde」
	暗号キー(確認用) *****	

無線通信を始める前に、無線LANの電波に関する注意を読んでください。  
上記の項目を設定した後、詳細設定の登録ボタンで設定内容を登録してください。

詳細設定の登録 既定値に戻す

- 8 [MACアドレスフィルタ] を押します。  
「MACアドレスフィルタ」ページが表示されます。

- 9 MACアドレスフィルタを設定する場合は、表示されているMACアドレスの各機器について [許可] か [拒否] を選び、[新規登録] ボタンを押します。

[無線設定] [無線接続状態] (アクセスポイントモード)  
[MACアドレスフィルタ]

MACアドレスの新規登録

一覧には、現在通信可能でフィルタ設定がされていないステーションのMACアドレスが表示されます。  
手動設定欄へは、「J」で区切ったMACアドレスを入力してください。(例 00:A0:DE:00:4C:A6)  
チェックボックスをチェックした後、新規登録ボタンで設定内容を登録してください。

MACアドレス	許可/拒否	
<input checked="" type="checkbox"/> 一覧から選択	00:A0:DE:00:4C:A6	許可
<input type="checkbox"/> 手動設定		許可

新規登録

MACアドレスフィルタの一覧

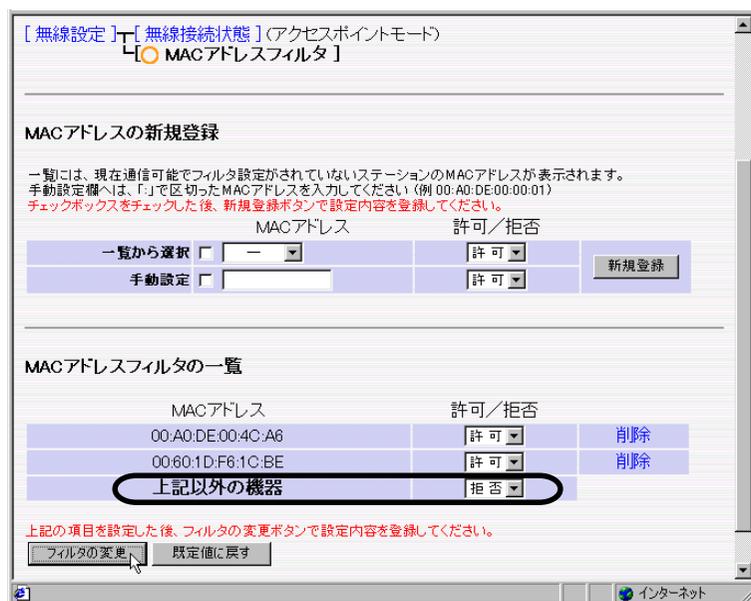
MACアドレス	許可/拒否
登録されているMACアドレスフィルタはありません	
上記以外の機器	許可

上記の項目を設定した後、フィルタの変更ボタンで設定内容を登録してください。

フィルタの変更 既定値に戻す

- MEMO
- ・MAC アドレスフィルタ機能をすでに使用している場合、新しい無線 LAN カード / ボードに本機の ESS-ID を設定すると、「無線設定」ページに [ 上記以外の機器 ] と同じ設定 ( 通常は [ 拒否 ] ) で表示されます。使用するときには [ 許可 ] を選んでください。

**10** 使用する機器をすべて登録したら、[ 上記以外の機器 ] で [ 拒否 ] を選び、[ フィルタの変更 ] ボタンを押します。



MAC アドレスフィルタが有効になります。

**11** パソコンの無線 LAN 設定ユーティリティを開き、RT60w に設定したものと同一 ESS-ID、WEP 機能とその暗号キーを設定して再起動します。設定ユーティリティソフトの操作については、各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

**12** パソコンから本機の「かんたん設定ページ」を開きます。開ければ、設定完了です。

**13** 他のパソコンの設定も同様に変更します。LAN にアクセスできれば設定完了です。

## 6-4 複数台の RT60w を接続する

複数台の RT60w を接続するときは、使用方法によって ISDN を接続していないルータの設定を変更します。WEP 機能を使用していない場合は、本機のボタン操作で設定することができます。WEP 機能を使用している場合は、「かんたん設定ページ」から設定してください。

### ■ 必要な設定

複数の RT60w を接続する場合は、使用方法に合わせて次のように設定します。  
無線ブリッジ接続の場合

設定項目	ISDN 回線を接続しているルータ	その他のルータ
無線モード	アクセスポイント	ステーション
ESS-ID	同じ ESS-ID	
WEP 機能	同じ設定値	
DHCP サービス	サーバ	OFF
IP アドレス	初期値または固定アドレス	DHCP クライアントまたは固定アドレス

ローミング接続の場合

設定項目	ISDN 回線を接続しているルータ	その他のルータ
無線モード	アクセスポイント	アクセスポイント
ESS-ID	同じ ESS-ID	
WEP 機能	同じ設定値	
DHCP サービス	サーバ	OFF
IP アドレス	初期値または固定アドレス	DHCP クライアントまたは固定アドレス



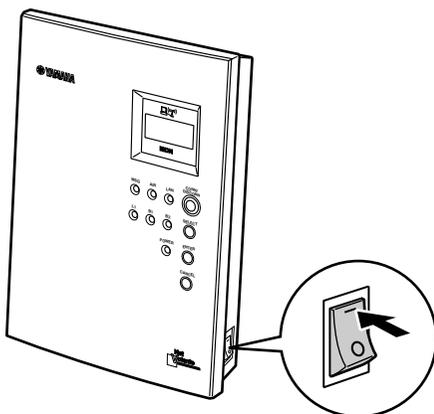
注意

・ISDN 回線を接続していないルータでは B1、B2 ランプが点灯しません。回線接続状況は、ISDN 回線を接続しているルータの B1、B2 ランプで確認してください。

## ■ WEP 機能を使用していない場合

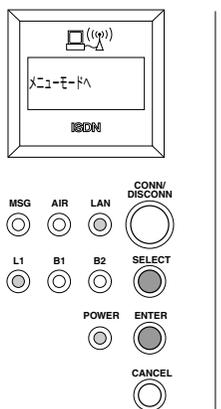
本機を初めて使用するときや本機を工場出荷状態にリセットして設置し直すときなどWEP機能が設定されていない場合は、本機のボタン操作で設定します。

- 1 POWER スイッチの「 | 」側を押して、無線アクセスポイントにするメインルータの電源をオンにします。



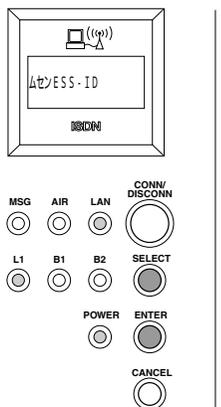
ランプが数回点滅した後、POWER ランプと ISDN L1 ランプが点灯します。

- 2 [ SELECT ] ボタンを押して [ メニューモードへ ] を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。

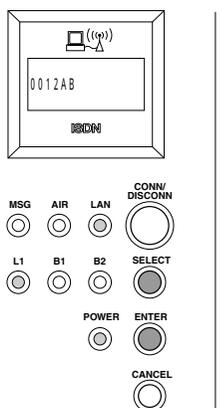


メニュー項目が表示されます。

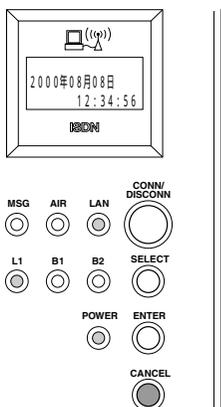
- 3** [ SELECT ] ボタンを何度か押して [ ムセン ESS-ID ] を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。



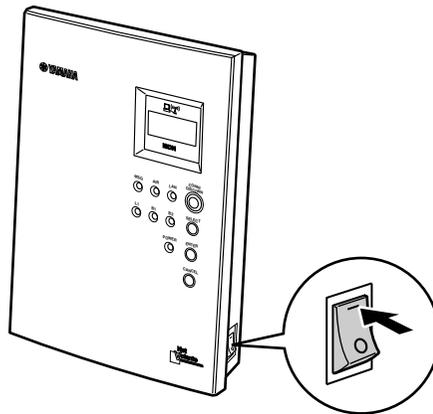
- 4** 表示された無線アクセスポイントルータの ESS-ID 設定値をメモします。



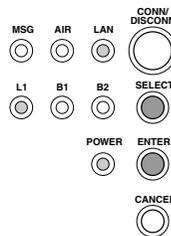
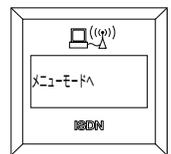
- 5** [ CANCEL ] ボタンを何度か押して、日付・時刻表示にもどります。



**6** 無線ステーションにするサブルータの電源をオンにします。

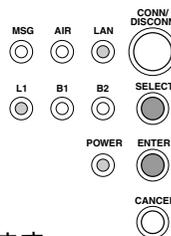


**7** サブルータの[ SELECT ]ボタンを押して「メニューモードへ」を表示し、[ ENTER ]ボタンを押します。



メニュー項目が表示されます。

**8** サブルータの[ SELECT ]ボタンを何度か押して「ムセンモード」を表示し、[ ENTER ]ボタンを押します。

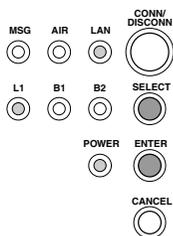
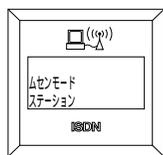


無線モードの設定値が表示されます。

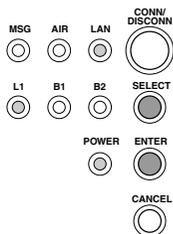
9 サブロータの [ SELECT ] ボタンを押して無線モードを選択し、[ ENTER ] ボタンを押します。

無線ブリッジ接続の場合は、「ステーション」を選択してください。

ローミング接続の場合は、「アクセスポイント」を選択してください。

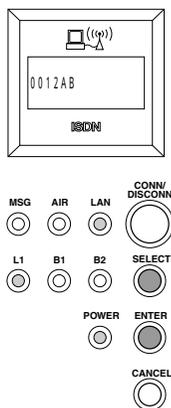


10 サブロータの [ SELECT ] ボタンを何度か押して「無線ESS-ID」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。

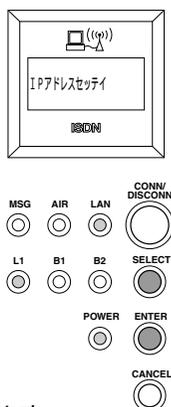


ESS-ID の設定値が表示されます。

- 11** 手順 4 で確認した無線アクセスポイントルータの ESS-ID を、1 文字毎に [ SELECT ] ボタン押して選択し、[ ENTER ] ボタンを押して設定します。  
何も入力しない桁はそのまま、[ ENTER ] ボタンを押して進んでください。最後の桁を設定し終わると、次のメニュー項目が表示されます。

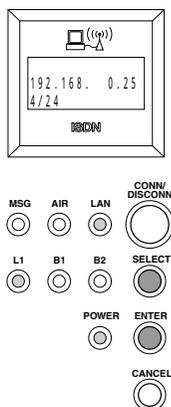


- 12** サブルータの [ SELECT ] ボタンを何度か押して「IP アドレスセッテイ」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。

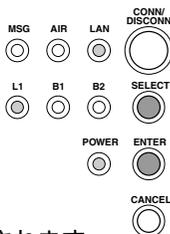


IP アドレスの設定値が表示されます。

- 13** サブルータの [ SELECT ] ボタンを押してサブルータの固定 IP アドレスを設定し、[ ENTER ] ボタンを押します。  
1 桁目で「DHCP」を選択すると、DHCP サーバから IP アドレスを自動取得します。

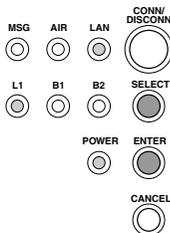


- 14** サブルーータの [ SELECT ] ボタンを何度か押して「DHCP サービスセッテイ」を表示し、[ ENTER ] ボタンを押します。



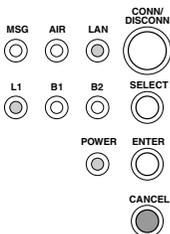
DHCP サービスの設定値が表示されます。

- 15** サブルーータの [ SELECT ] ボタンを押して「OFF」を選択し、[ ENTER ] ボタンを押します。



設定が終わると、無線アクセスポイントルータに接続できるようになります。

- 16** [ CANCEL ] ボタンを何度か押して、日付・日時表示にもどります。



**MEMO** ・ ISDN回線に接続していないルータには「ISDNカイセンショウガイ」と表示されます。「かんたん設定ページ」の[システム管理]ページで、[ルータのISDN設定]の[本機をISDN回線に接続する]のチェックを外すと、表示されなくなります。( P.138 )

## ■ WEP 機能を使用している場合

すでにWEP機能を使用しているRT60wにあとからRT60wを無線ステーションルータとして追加設置する場合は、追加するRT60wのLANポートに接続したパソコンから「かんたん設定ページ」でESS-IDやWEP機能の設定を行います。

**1** 追加するサブルータを設置し、LANポートにパソコンを1台だけ接続します。

MEMO

- ・無線接続のパソコンしかない場合は、1台のパソコンの無線LAN設定を下記の設定値に変更して、サブルータの無線LANに接続してください。終わったら、元の設定に戻してください。  
ESS-ID = 追加するRT60wのMACアドレス下6桁  
WEP機能 = オフ

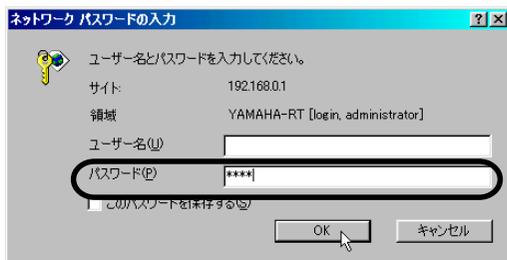
**2** 追加するサブルータの電源をオンにします。

**3** サブルータに接続したパソコンの電源をオンにします。

**4** 「パソコンセットアップ」を使ってパソコンのネットワーク設定を行います。設定方法については、スタートマニュアル「3-2 ダイアルアップ接続で設定する」をご覧ください。

**5** パソコンでブラウザを開き、アドレス入力欄に“http://(サブルータのIPアドレス)/”を入力して、[enter]キーを押します。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが開きます。

**6** [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK]ボタンを押します。

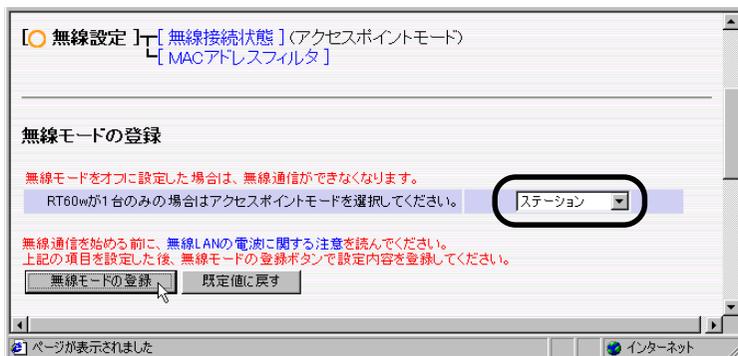


「RT60wへようこそ」ページが表示されます。

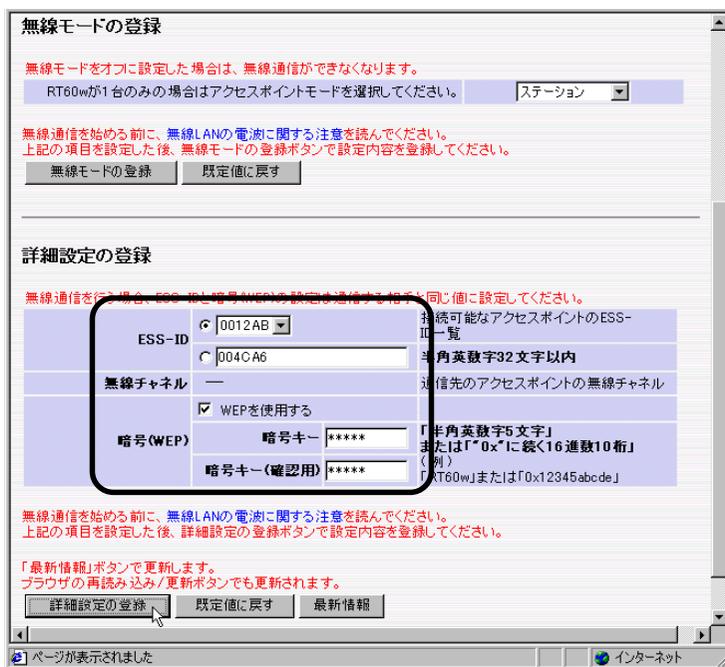
**7** [かんたん設定]を押します。

**8** [無線設定]を押します。

- 9 [無線モードの登録]で無線モードを選択し、[無線モードの登録]ボタンを押します。無線ブリッジ接続の場合は、「ステーション」を選択してください。ローミング接続の場合は、「アクセスポイント」を選択してください。



- 10 [ESS-ID]で無線アクセスポイントルータのESS-IDを選択し、[暗号(WEP)]で[WEPを使用する]をチェックして無線アクセスポイントルータに設定した[暗号キー]を入力します。



- MEMO
- ESS-ID、WEP機能の設定が合っていないと、RT60w どうしを接続することはできません。使用中の無線アクセスポイントルータに設定した値を正確にメモし、必ず同じ値をすべてのサブルータに設定してください。
  - ESS-IDやWEP機能設定を変更している途中は、一時的にRT60w どうしや無線接続のパソコンが接続できない状態になります。各RT60w の設定変更がすべて完了すれば、接続できる状態になります。

- 11 すべて設定したら、[詳細設定の登録]ボタンを押します。

12 「かんたん設定」のトップページにもどり、[システム管理] を押します。

13 [LAN側設定] を押します。

14 [ルータのIPアドレス]でルータの固定IPアドレスを設定し、[DHCPサーバ機能]で [DHCPサーバ機能を使用する] のチェックを外して、[登録] ボタンを押します。 [DHCPクライアント] を選択すると、DHCPサーバからIPアドレスを自動取得します。

ルータのIPアドレス

ルータのIPアドレス	ネットマスクビット数
<input checked="" type="radio"/> 192.168.0.254	24
<input type="radio"/> DHCPクライアント	

ルータのセカンダリIPアドレス

ルータのセカンダリIPアドレス	ネットマスクビット数	セカンダリのクリア
<input type="text"/>	24	<input type="button" value="セカンダリのクリア"/>
<input checked="" type="radio"/> DHCPクライアント		

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能を使用する

DHCPスコープ

識別番号	IPアドレスの割当て範囲	ネットマスクビット数	
1	192.168.0.2~192.168.0.254	24	スコープの削除
<input type="text"/>	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	24	登録と更新

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

設定を登録すると、無線アクセスポイントルータに接続できるようになります。

MEMO  ・DHCPクライアントを選択した場合、変更後のIPアドレスは、ボタン操作で確認してください。

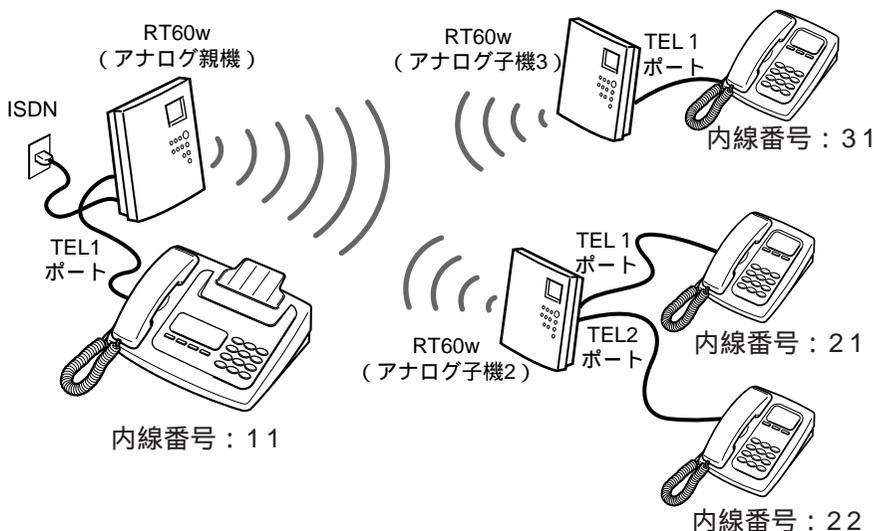
15 無線接続のパソコンから設定している場合は、無線LANの設定を元にもどします。

MEMO  ・無線ステーションルータの設定変更後、パソコンの無線LAN設定を無線アクセスポイントルータの設定にもどすまでは、LANに接続できません。必ず設定を元にもどしてください。

## 6-5 複数ルータ間で通話する

本機に内蔵の「機器間アナログ通話機能」により、複数のRT60w間でTELポートを一括管理し、内線通話を利用することができます。また、1台のルータがISDN回線に接続されていれば、他のルータから外線通話をすることも可能です。ルータは9台まで接続可能です。

複数ルータ間で通話するときは、ISDN回線を接続しているルータにアナログ機器番号1、その他のルータにアナログ機器番号2～9を設定します。



### MEMO

- ・アナログ親機と無線LAN接続の無線アクセスポイントルータは、必ずしも同一である必要はなく、別々のルータに設定することができます。しかし、ルータ設定を簡略化するためには、ISDN回線を接続したルータをアナログ親機や無線アクセスポイントルータに設定することをお勧めします。
- ・機器間アナログ通話機能は、ネットワークが混雑すると、音声途切れる場合があります。
- ・アナログ子機にモデムやFAXを接続した場合、電波の状態やネットワークの混雑状況により通信が途切れることがあります。このような場合はアナログ親機に接続してください。

### ■ 必要な設定

機器間アナログ通話機能を使用する場合は、先に「6-4 複数台のRT60wを接続する」(P.126)で設置と設定を行ってください。その後、機器間アナログ通話機能のモード設定を次のように設定します。

設定項目	ISDN回線を接続しているルータ	その他のルータ
モード設定	アナログ親機	アナログ子機

## ■ アナログ子機にするルータの設定

最初にアナログ子機（ISDN回線を接続していないルータ）から設定を行います。アナログ子機の「かんたん設定ページ」を開き、「機器間アナログ通話設定」ページの[アナログ通話モード設定]で[アナログ子機]を設定します。

1 ブラウザを開き、アナログ子機に設定するルータの「かんたん設定ページ」を開きます。「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK]ボタンを押します。

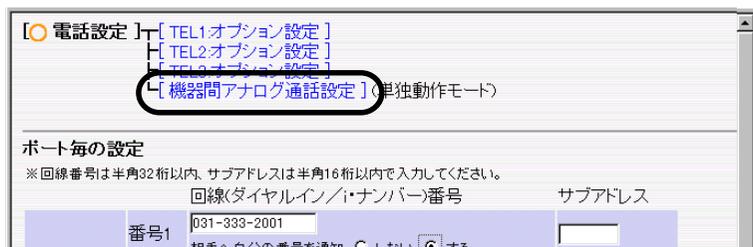


本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

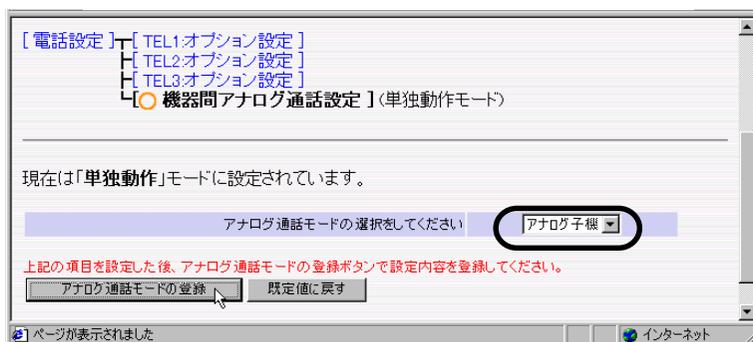
3 [かんたん設定]を押します。

4 [電話設定]を押します。

5 [機器間アナログ通話設定]を押します。

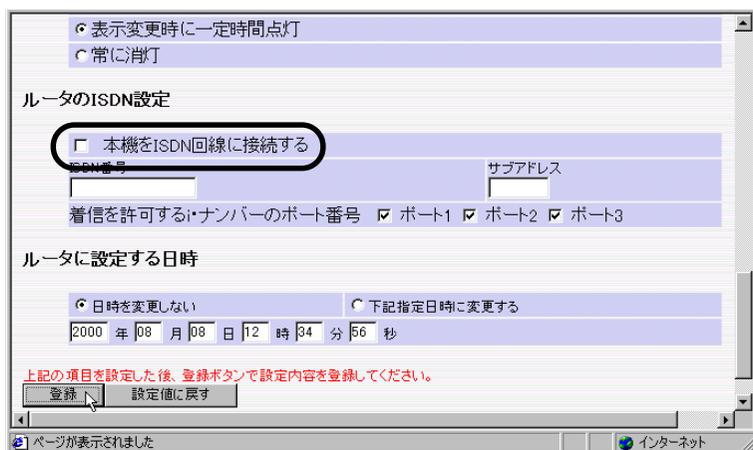


- 6 モード設定で [ アナログ子機 ] を選択して、[ アナログ通話モードの登録 ] ボタンを押します。  
メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



- 7 「かんたん設定」のトップページにもどり、[ システム管理 ] を押します。

- 8 [ ルータのISDN 設定 ] で [ 本機をISDN回線に接続する ] のチェックを外します。



## ■ アナログ親機 (ISDN 回線を接続しているルータ) の設定

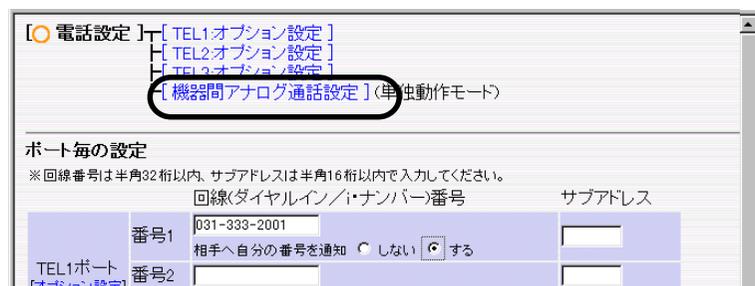
アナログ親機 (ISDN回線を接続しているルータ) の「かんたん設定ページ」を開き、「機器間アナログ通話設定」ページの [アナログ通話モード設定] で [アナログ親機] を設定した後、各アナログ子機の機器番号を割り当てます。

- 1 ブラウザを開き、アナログ親機に設定するルータの「かんたん設定ページ」を開きます。「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

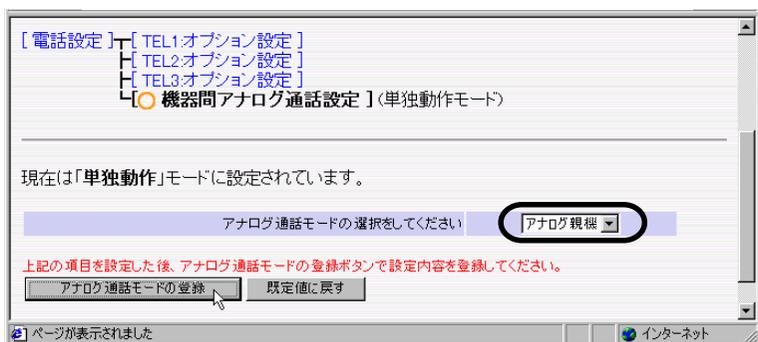


本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [電話設定] を押します。
- 5 [機器間アナログ通話設定] を押します。

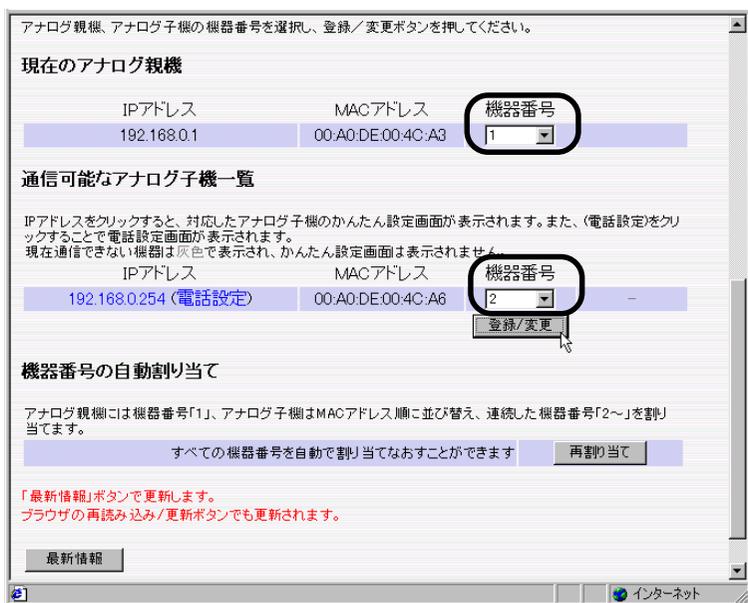


- 6 モード設定で [ アナログ親機 ] を選択して、[ アナログ通話モードの登録 ] ボタンを押します。  
メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



アナログ親機の状態や通信可能なアナログ子機一覧が表示されます。

- 7 現在のアナログ親機および通信可能なアナログ子機一覧で、アナログ親機と各アナログ子機の機器番号を選択して、[ 登録 / 変更 ] ボタンを押します。  
メッセージにしたがって操作すると、設定が変更されます。



これで機器間アナログ通話機能の設定は完了です。

MEMO ・アナログ親機と各アナログ子機の機器番号は、[ 再割り当て ] ボタンで自動設定することもできます。

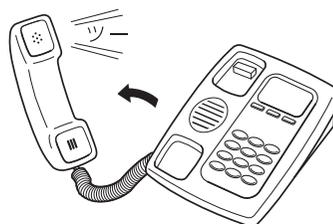
- 8 表示された現在のアナログ親機と通信可能なアナログ子機一覧に表示されたMACアドレスと機器番号をメモします。

MEMO ・アナログ親機と各アナログ子機の機器番号は、内線通話するときになります。

## ■ 外線のかけかた

ルータ間の接続の場合も、外線通話のかけかたはルータ 1 台の場合と同じです。受話器を取ってダイヤルすれば、通話できます。

- 1** 受話器を上げます。  
発信音が聞こえます。



- 2** 相手の電話番号をダイヤルします。  
呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

031-333-7777 にかける場合の例

① ③ ① ③ ③ ③ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦

サブアドレス 2 番にかける場合の例

相手が ISDN 回線でサブアドレスを設定している場合は、電話番号に続けて [ \* ] とサブアドレス番号を押します。

① ③ ① ③ ③ ③ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ \* ②

MEMO

- ・ダイヤルを押した後に [ # ] を押すと、すぐに発信します。また何も押さなくても数秒後に発信します。
- ・一度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去 20 件までの相手先は [ # ] なしでもすぐに発信します。

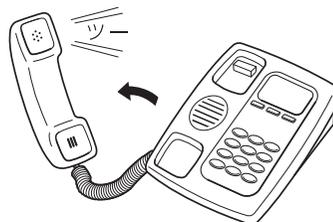
- 3** 通話が終わったら、受話器を置きます。



## ■ 内線通話のしかた

ルータ間の接続の場合も、内線通話、外線転送などの機能が使えます。ただし、内線番号が [ 機器番号 ] + [ TEL ポート番号 ] に変わります。

- 1** 受話器を上げます。  
発信音が聞こえます。



- 2** [ \* ] に続けて内線番号をダイヤルします。  
指定した内線番号のアナログ機器で呼び出し音が鳴ります。相手が出ると通話できます。

アナログ子機 2 の TEL3 ポートを呼び出す場合の例

✳ ② ③

アナログ子機 3 の全 TEL ポートを呼び出す場合の例

✳ ③ ✳

全ルータの全 TEL ポートを呼び出す場合の例

✳ ✳

MEMO ■ ・指定した内線番号の機器が使用中のときは、呼び出し音は鳴りません。

- 3** 通話が終わったら、受話器を置きます。



MEMO ■ ・外線転送などその他の内線操作も同様、[ 内線番号 ] の代わりに [ 機器番号 ] + [ TEL ポート番号 ] を押すことで使用できます。

# 第 7 章

## ルータの活用例

この章では、ルータとしてのより高度な活用例を紹介しています。設定にはネットワークの知識が必要になるものもありますが、やりたいことに該当する例を参考にして、本機のルータ機能を十分活用してください。

また、より専門的な設定例については、「コマンドリファレンス」ヤマハRTシリーズのホームページ “ <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/> ” をご覧ください。

7-1	<b>プロバイダ接続を制限する</b> .....	144
	プロバイダ接続制限を設定する .....	144
	プロバイダ接続制限を解除する .....	147
7-2	<b>自動切断を制限する</b> .....	149
7-3	<b>128 kbit/s で接続する</b> .....	151
7-4	<b>複数の接続先を使い分ける</b> .....	154
	メール専用の接続先を使い分ける .....	155
	パソコン毎に接続先を使い分ける .....	157
7-5	<b>ルータの IP アドレスを変更する</b> .....	162
7-6	<b>LAN と LAN を接続する</b> .....	164
	TCP/IP プロトコルのファイル共有設定例 .....	165
	Windows 95/98 におけるファイル共有設定例 .....	173
7-7	<b>外出先からリモートアクセスする</b> .....	178
7-8	<b>外部にサーバを公開する</b> .....	191
7-9	<b>ネットワークゲーム用に設定する</b> .....	196
7-10	<b>LAN-TA を使って接続する</b> .....	198

## 7-1 プロバイダ接続を制限する

本機の自動接続機能を使うと、ダイヤルアップ操作なしで快適にインターネットへ接続できますが、意図しない接続や使い過ぎで通話料金やプロバイダの接続料金が思わぬ高額になることがあります。このようなトラブルを未然に防止する機能として、プロバイダ接続の累積料金や時間、回数に上限を設けたり、連続通信時間に制限を設けることができます。この制限は手動でプロバイダに接続した場合も適用されます。



**注意**

- ・「かんたん設定ページ」からプロバイダ登録を新規に行くと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。
- ・コンソールコマンドを使用して接続設定を行っても、これらの制限は自動的に設定されないことにご注意ください。

MEMO

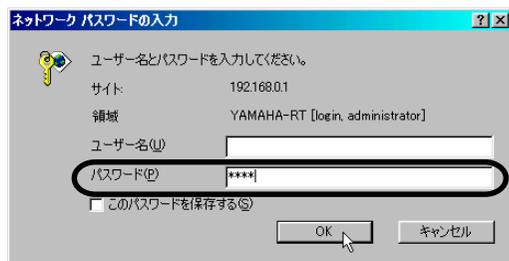
- ・プロバイダ接続の制限設定は、手動でプロバイダ接続したときにも適用されます。

### プロバイダ接続制限を設定する

自動接続制限の設定は、「かんたん設定ページ」で行います。

#### ■ 設定のしかた

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[ OK ] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [プロバイダ接続] を押します。  
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第3章を参照して設定してください。

5 プロバイダ名の右の [ 登録の修正 ] ボタンを押します。

6 [オプション設定]ボタンを押します。

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。(同じプロバイダを複数登録しないで下さい)  
DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。  
意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの接続/切断が行なわれる事を確認してください。  
発信制限やユーザーID/パスワード違いにより自動的に接続を禁止する場合がありますので、接続ができなくなった場合はそれぞれの項目を確認してください。

プロバイダ名	provider1	半角32文字以内
接続形式	ダイヤルアップ接続	
プロバイダの電話番号 1	XXXXXXXXXX	半角入力3桁以内
2		<省略可能>
3		<省略可能>
ユーザーID	username	半角入力32文字以内
パスワード	*	半角入力32文字以内
DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	210.162.2.12	指定の場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	210.162.2.30	<省略可能>

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

7 累積料金や時間、回数で制限する場合は、発信制限のボックスをチェックし、数値を入力します。

発信制限 [ 料金設定 ]

料金情報/課金情報はNTTの交換機から通知される情報です。各種割引サービスを使用されますと内容が異なります。

- 累積料金が10000 円以上になったら接続を行なわない
- 累積接続時間が60 時間以上になったら接続を行なわない
- 累積発信回数が1000 回以上になったら接続を行なわない

MP関連

プロバイダがMPに対応している場合のみ設定して下さい。  
限られた時間のみ使用する場合は時間帯を指定してください。  
MP設定を変更した場合は、設定後MPの動作を確認してください。

MPを使用する

時間帯を指定 00 : 00 ~ 00 : 00

通信の負荷に応じてチャネル数を増減させる

NTPサーバ関連

毎月1回時刻を修正します。

時刻をインターネット上のサーバに定期的にお問い合わせ

NTPサーバIPアドレス

静的IPマスカレード関連

指定ポートへの外部からのアクセスを許可します。

プロトコル	ポート	使用ホストIPアドレス
<input type="checkbox"/> TCP		

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

7 ルータの活用例

## 8 連続通信時間で制限する場合は、時間と再発信するときの禁止時間を入力します。

[端末型プロバイダ接続設定]—[プロバイダ1:Provider1]—[オプション設定]

### 回線切断タイム関連

ISDN回線を切断するタイム方式を選択します。  
昼と夜のタイム動作を区別する場合は深夜時間帯の設定も行なってください。

課金される単位時間毎に通信の有無を監視して自動切断をする



接続開始→ 監視 課金単位 監視 課金単位 監視 課金単位 監視 → 時間経過  
切断：監視時間帯にデータ無し

▷▷ 課金単位時間 180 秒  
▷▷ 深夜時間帯での課金単位時間 240 秒  
▷▷ 監視時間 6 秒  
▷▷ 深夜時間帯での監視時間 6 秒

タイムで通信の有無を監視して自動切断をする



接続開始→ 監視 課金単位 監視 課金単位 監視 課金単位 監視 → 時間経過  
切断：無通信時間が設定秒数を超過

▷▷ 設定秒数 60 秒  
▷▷ 深夜時間帯での設定秒数 60 秒

深夜時間帯 23 : 00 ~ 08 : 00

タイムによる自動切断を禁止する時間帯を指定する  
時間帯 00 : 00 ~ 00 : 00  
本設定では自動切断を禁止するため、長時間の接続により異常課金となる場合がありますので注意  
※ 本設定では自動切断を禁止するため、長時間の接続により異常課金となる場合がありますので注意

タイムに関係なく連続通信時間640分で強制的に切断する  
(再発信禁止15秒)

ページが表示されました インターネット

## 9 画面下にある [登録] ボタンを押します。 メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## プロバイダ接続制限を解除する

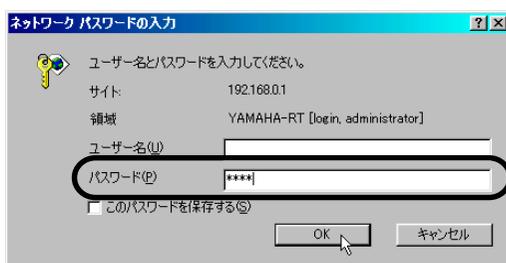
プロバイダ接続の制限機能が働いて接続ができなくなったときは、プロバイダの累積料金をクリアすることにより解除されます。

### MEMO

- ・通常の使用で頻繁に制限が働いてしまうときは、設定値を見直してください。
- ・異常に早く制限機能が働いたときは、意図しない接続がある可能性があります。通信記録を確認して、問題がないか確認してください。( P.216 )

## ■ 設定のしかた

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[ OK ] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [システム管理] を押します。
- 5 [料金設定] を押します。

## 6 プロバイダ名の右の [クリア] ボタンを押します。

[システム管理] > [料金設定]  
[LAN側設定]  
[内部情報]  
[フィルタ設定]

回線の使用料金を表示します。  
各種割引サービスを使用されますと内容が異なります。

通信種別	最後の通信料金	累積料金	累積接続時間	累積発信回数	累積着信回数	手動クリア	自動クリアの実行日時
プロバイダ1(PP01) Provider1 選択中	10円	40円	00:09:41	4回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
LAN間接続(PP02) RemoteUser	0円	0円	00:00:00	0回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
アナログポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
ISDN-DCP	0円	0円	00:00:00	0回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
合計	50円	00:10:22	5回	0回			

アナログポート (機器間アナログ通話をしている機器の各アナログポートの料金情報)

TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
TEL2ポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回	クリア	使わない [v] 01 : 00
合計	0円	00:00:00	0回	0回			

自動クリアの実行日時を一括して設定する [毎月1日 [v] 01 : 00]

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

### MEMO

- ・各ポート毎に定期的に自動リセットすることができます。定期的にリセットしたいときは、各ポート毎にリセットする日付と時刻を設定します。
- ・また、[自動クリアの実行日時を一括して設定する] をチェックし、日付と時刻を入力すると、すべての項目を一度にまとめて設定することができます。

## 7 画面下にある [登録] ボタンを押します。

メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

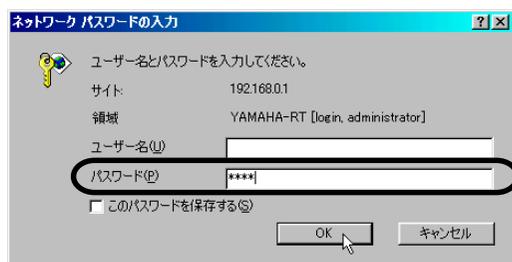
## 7-2 自動切断を制限する

本機の自動接続機能では、自動切断をしない時間範囲を設定することができます。テレホーダイを契約している場合は、テレホーダイタイムを切断禁止に設定すると、接続したままの状態で使用することができます。

- MEMO
- ・自動切断の禁止を設定しても、プロバイダや回線の都合で切れてしまうことがあります。
  - ・本機の電源をオフにすると、設定時間内であっても接続が切れます。

### ■ 設定のしかた

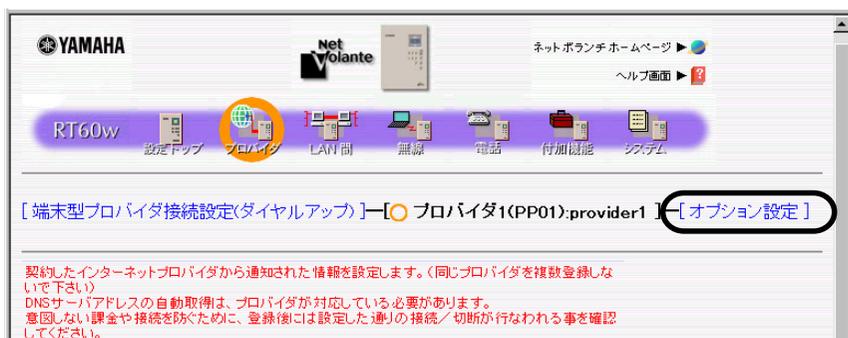
- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[ OK ] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [プロバイダ接続] を押します。  
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第3章を参照して設定してください。
- 5 プロバイダ名の右の [登録の修正] ボタンを押します。

## 6 [オプション設定] を押します。



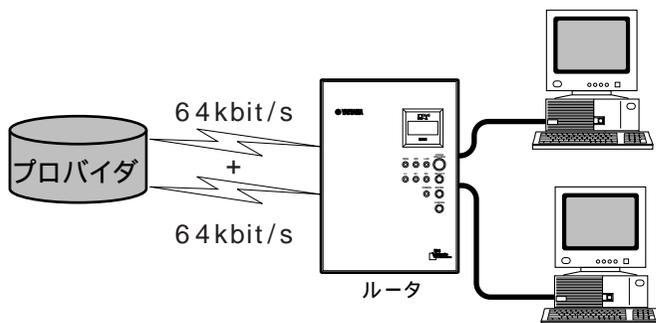
## 7 [ タイマによる自動切断を禁止する時間帯を指定する ] のボックスをチェックし、開始時間と終了時間を設定します。



## 8 画面下にある [ 登録 ] ボタンを押します。 メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## 7-3 128kbit/s で接続する

本機では、64kbit/sの回線を2つ同時に使って128kbit/sの通信速度で接続することができます。これを「MP ( Multilink PPP ) 接続」といいます。この機能を利用するには、128kbit/s 接続 ( MP 接続 ) に対応したプロバイダと契約する必要があります。設定を行う前にプロバイダの契約内容をご確認ください。



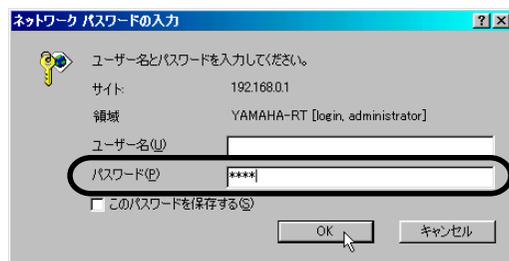
- 注意**
- ・MP接続に対応していないプロバイダおよびMP接続用以外の電話番号に対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2回線目が発信とエラーを繰り返し、意図しない多額の料金を請求される場合があります。

**MEMO**

- ・この機能は回線を2つ同時に使いますので、電話料金は2回線分かかります。

### ■ 設定のしかた

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



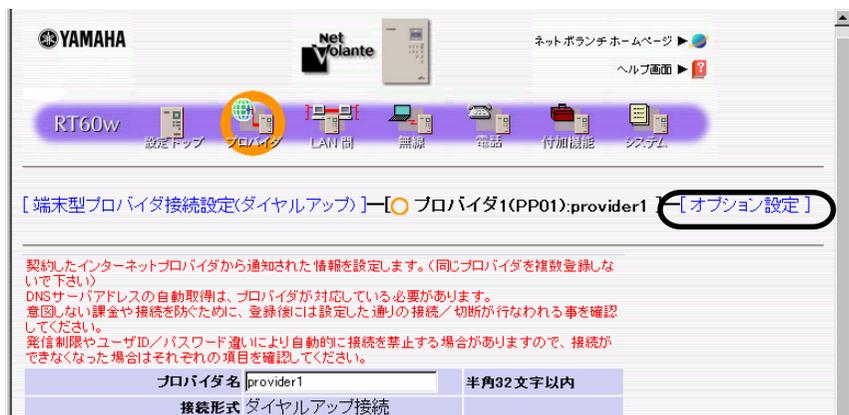
本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。

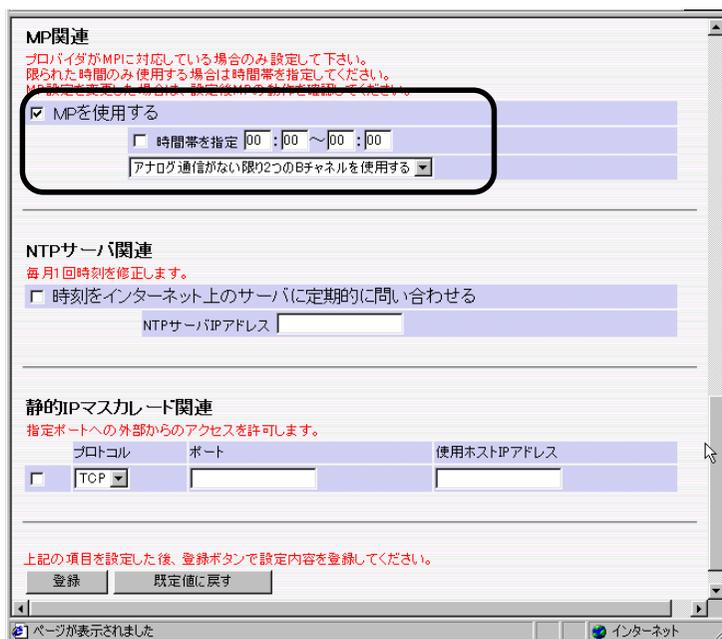
4 [プロバイダ接続] を押します。  
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合には  
スタートマニュアル第3章を参照して設定してください。

5 プロバイダ名の右の [登録の修正] ボタンを押します。

6 [オプション設定] を押します。



7 [MPを使用する] のボックスをチェックします。



8 時間帯を指定する場合は、[時間帯を指定] のチェックボックスをチェックし、開始時間と終了時間を設定します。

## 9 通信条件を設定します。

MP関連

プロバイダがMPに対応している場合のみ設定して下さい。  
限られた時間のみ使用する場合は時間帯を指定して下さい。  
MP設定を変更した場合は、設定後MPの動作を確認して下さい。

MPを使用する

時間帯を指定 [23 : 00 ~ 08 : 00]

アナログ通信がない限り2つのBチャンネルを使用する

アナログ通信がない限り2つのBチャンネルを使用する:  
通信の負荷に応じてチャンネル数を増減させる

NTPサーバ関連

毎月1回時刻を修正します。

時刻をインターネット上のサーバに定期的に問い合わせる

NTPサーバIPアドレス

静的IPマスカレード関連

指定ポートへの外部からのアクセスを許可します。

プロトコル	ポート	使用ホストIPアドレス
<input type="checkbox"/> TCP		

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

ページが表示されました

インターネット

とにかく速くしたい場合

[ アナログ通信がない限り2つのBチャンネルを使用する ] を選んでください。

なるべく回線を空けておきたい場合

[ 通信の負荷に応じてチャンネル数を増減する ] を選んでください。



注意

・[ 通信の負荷に応じてチャンネル数を増減する ] を選択した場合、使用状況によっては2回線目の接続、切断が頻繁に起こることがありますので、電話料金やインターネット接続料金に十分にご注意ください。

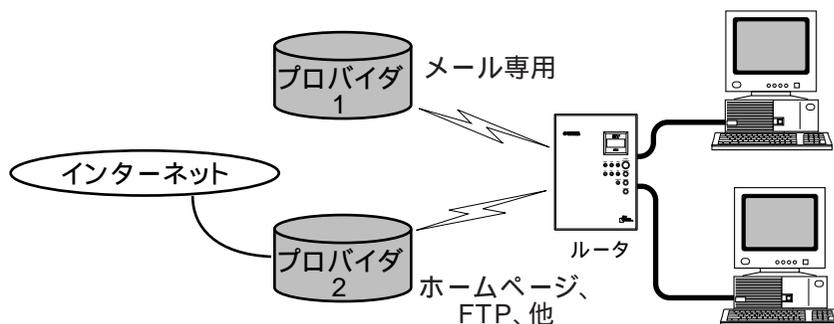
## 10 画面下にある [ 登録 ] ボタンを押します。

メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

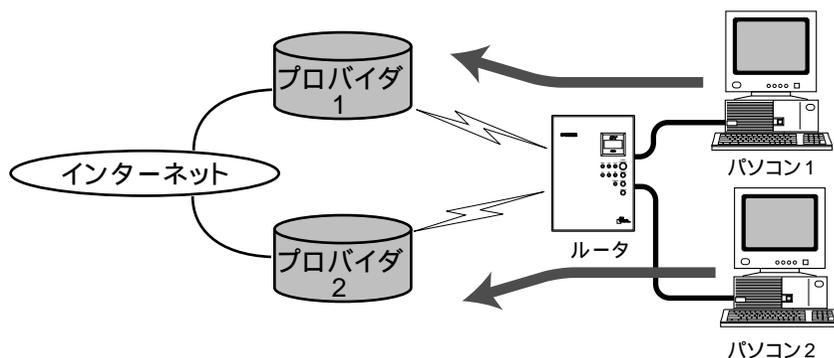
## 7-4 複数の接続先を使い分ける

本機では、複数のプロバイダを登録し、メール専用アクセス番号やパソコン毎のプロバイダなど目的に応じて接続先を使い分けることができます。複数プロバイダの設定を行った場合、2回線同時に別のプロバイダへ接続することもできます。この機能は、端末型ダイヤルアップ接続時のみ利用可能です。

メール専用の接続先を使い分ける場合



パソコン毎に接続先を使い分ける



MEMO

- ・2回線同時に別のプロバイダへ接続しているときは、話し中になり、TELポートから発信したり、着信を受けることはできません。

## メール専用の接続先を使い分ける

契約しているプロバイダがメール専用の電話番号を設定している場合やメール着信確認機能でプロバイダに直接接続したい場合など、メールとその他のインターネット接続で接続先を使い分けたいときは、次のように設定します。

### ■ 設定のしかた

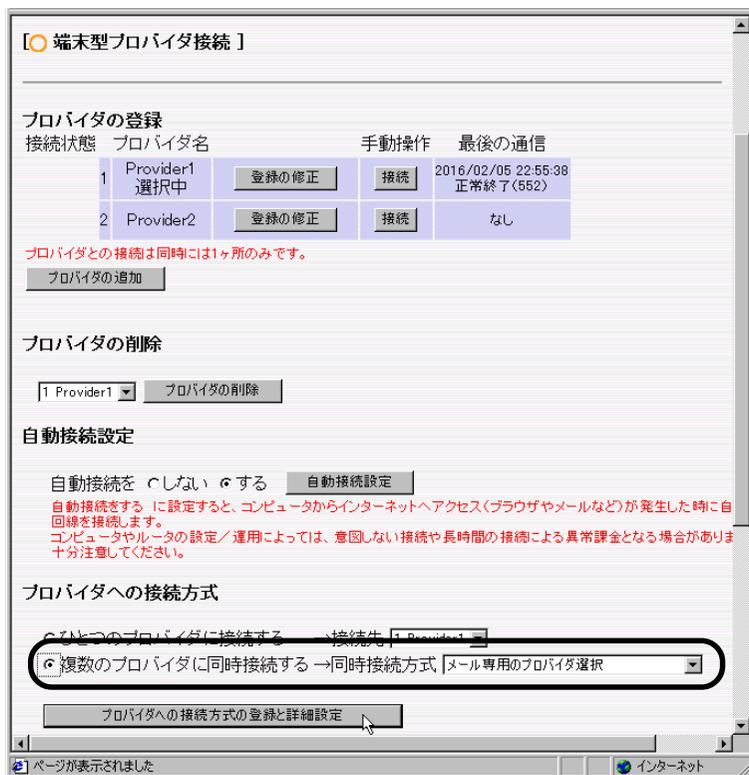
- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



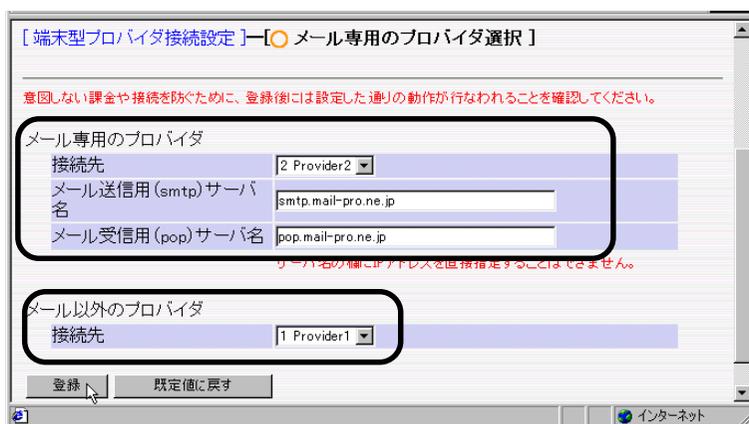
本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [プロバイダ接続] を押します。  
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第3章を参照して設定してください。

- 5 [ 複数のプロバイダに同時接続する ] を選び、[ メール専用のプロバイダ選択 ] を選んで [ プロバイダへの接続方法の登録と詳細設定 ] ボタンを押します。



- 6 [ メール専用のプロバイダ ] の接続先で登録したプロバイダを選び、メールサーバ名を設定します。



- 7 [ メール以外のプロバイダ ] の接続先で登録したプロバイダを選びます。

- 8 画面下にある [ 登録 ] ボタンを押します。  
メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

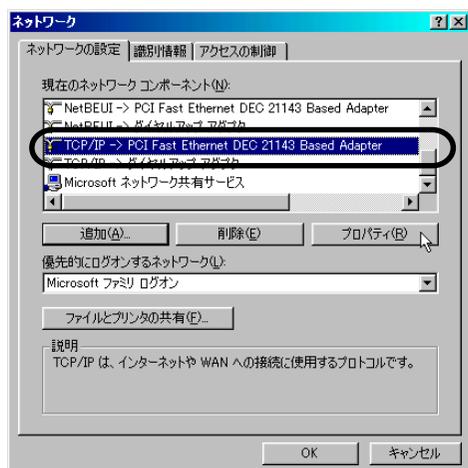
## パソコン毎に接続先を使い分ける

パソコンの使用者毎に接続するプロバイダを使い分けたいときは、まず、LAN上のすべてのパソコンのIPアドレスを固定で設定し、その後、本機の複数プロバイダ選択に関する設定を行います。

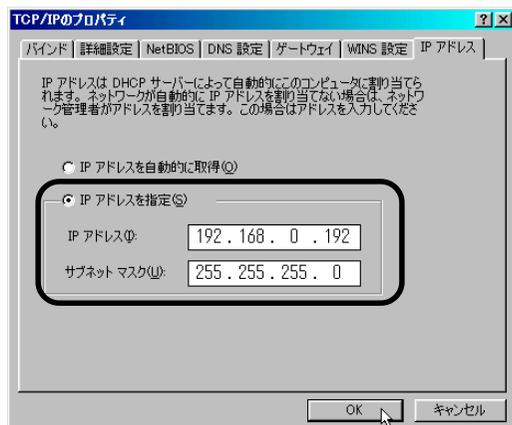
### ■ 各パソコンのIP アドレス設定

Windows 95/98 の場合

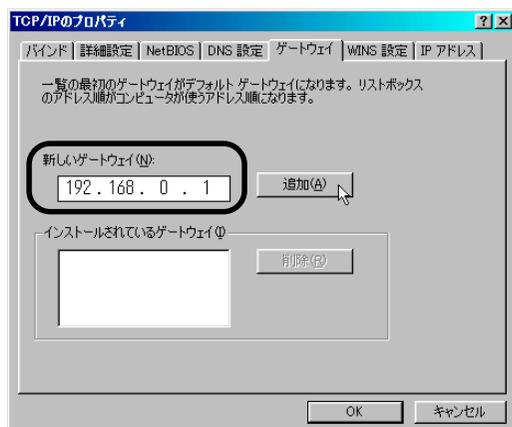
- 1 [マイコンピュータ]の[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストの中の"TCP/IP->(ネットワークカードの名称)"を選択して[プロパティ]ボタンを押します。



- 2 [IPアドレス]タブを押し、[IPアドレスを指定]を選択します。IPアドレスとネットマスク欄にWindowsパソコンに割り当てるIPアドレスとネットマスクを入力します。本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、WindowsパソコンのIPアドレスは192.168.0.192から192.168.0.254の範囲で設定します。



- 3** [ゲートウェイ] タブを押して、[新しいゲートウェイ] に本機の IP アドレス (工場出荷状態では 192.168.0.1) を入力し、[追加] ボタンを押します。



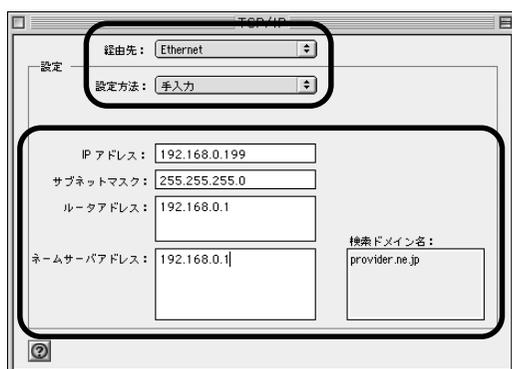
- 4** [DNS 設定] タブを押し、[DNS を使う] を選択します。[ホスト名] に Windows パソコンの名前を、[ドメイン] に接続するプロバイダのドメイン名を、[DNS サーバーの検索順] には本機の IP アドレス (工場出荷設定では 192.168.0.1) を入力し、[追加] ボタンを押します。



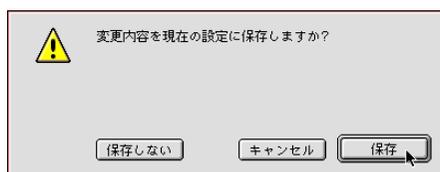
- 5** [OK] ボタンを押します。メッセージに従って再起動します。
- 6** LAN 上のすべての Windows パソコンに対して上記 1 から 5 の手順を繰り返し、すべての Windows パソコンが異なる IP アドレスとなるように設定します。

## Macintoshの場合

- 1 アップルメニューの [コントロールパネル] の [TCP/IP] を開きます。
- 2 [設定方法] を [手入力] にし、[IP アドレス] にはMacintoshパソコンに割り当てるIPアドレス、[サブネットマスク] にはネットマスク、[ルータアドレス] と [ネームサーバアドレス] には本機のIPアドレス (工場出荷設定では 192.168.0.1) [検索ドメイン名] には接続するプロバイダのドメイン名を入力し、ウィンドウを閉じます。  
本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、IPアドレスは 192.168.0.192 から 192.168.0.254 の範囲で設定します。



- 3 確認のダイアログが現れたら [保存] ボタンを押します。



- 4 LAN 上のすべての Macintosh パソコンに対して上記 1 から 3 の手順を繰り返し、すべての Macintosh パソコンが異なる IP アドレスとなるように設定します。

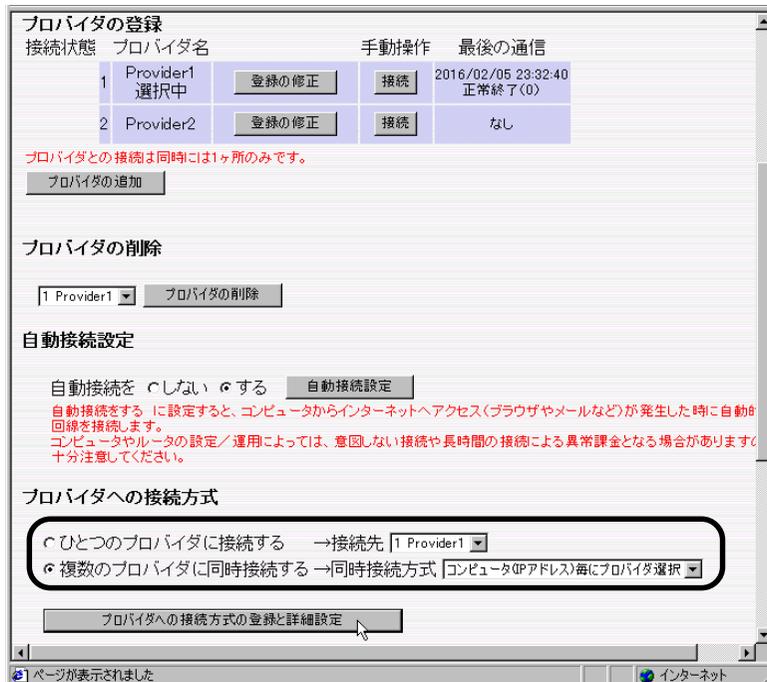
## ■ 本機の設定

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 ルータの管理パスワードを入力して [ OK ] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [ かんたん設定 ] を押します。
- 4 [ プロバイダ接続 ] を押します。  
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第3章を参照して設定してください。
- 5 [ 自動接続設定 ] で [ する ] [ 複数のプロバイダに同時接続する ] を選び、[ コンピュータ ( IP アドレス ) 毎にプロバイダ選択 ] を選んで、[ プロバイダへの接続方式の登録と詳細設定 ] ボタンを押します。



- 6 コンピュータのIPアドレスを入力し、インターネットアクセスする場合の接続先プロバイダを選択します。

コンピュータのIPアドレス	接続先プロバイダ
1   192.168.0.192	2 Provider2
2   192.168.0.193	2 Provider2
3   192.168.0.194	なし
4   192.168.0.197	2 Provider2
5   192.168.0.199	2 Provider2
6   192.168.0.200	なし
7	なし
8	なし

上記コンピュータ以外の接続先 | 1 Provider1

ルータによるメール着信確認先 | 2 Provider2

登録 | 既定値に戻す

- 7 [ 上記コンピュータ以外の接続先 ] には LAN 上のその他すべてのコンピュータの接続先プロバイダを設定します。

- 8 メール着信確認機能を使用する場合には、[ ルータによるメール着信確認先 ] にメールサーバのあるプロバイダを選択します。  
メールサーバの登録は、[ システム管理 ] ページの [ メールサーバの登録 ] 画面で設定してください。

- 9 [ 登録 ] ボタンを押して、設定を保存します。  
メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## 7-5 ルータのIPアドレスを変更する

すでに使用しているLANでプライベートIPアドレスが指定されている場合は、本機のIPアドレスを変更する必要があります。IPアドレスを変更するときは、LANの管理者に本機に割り当てるIPアドレスとネットマスクをお問い合わせください。



**注意**

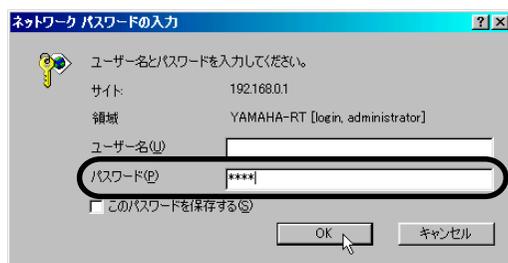
- ・専用線接続の場合でLANのIPアドレスにグローバルIPアドレスが設定されている場合は、必ずプロバイダの接続情報を確認してから作業してください。不安なときは、プロバイダまたは電話事業者の技術者に相談してください。万一間違ったIPアドレスを設定した場合、LAN外のホストやネットワークにトラブルが起きることがあります。

**MEMO**

- ・管理者がいないときは、LAN上のすべての機器のプライベートIPアドレス設定を調べて、ネットマスクの設定値と、重複しないIPアドレスを決めてください。

### ■ 設定のしかた

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [システム管理] を押します。
- 5 [LAN側設定] を押します。

- 6 [ルータのIPアドレス]で本機のIPアドレスとネットマスク、DHCPサーバのIPアドレス割り当て範囲とネットマスクを設定します。

[システム管理] [料金設定]  
[LAN側設定]  
[内部情報]  
[フィルタ設定]

ルータのIPアドレス

ルータのIPアドレス	ネットマスクビット数
<input type="radio"/> 192.168.22.1	24
<input type="radio"/> DHCPクライアント	

ルータのセカンダリIPアドレス

ルータのセカンダリIPアドレス	ネットマスクビット数	セカンダリのクリア
<input type="radio"/>	24	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/> DHCPクライアント		

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能を使用する

DHCPスコープ

識別番号	IPアドレスの割り当て範囲	ネットマスクビット数	
1	192.168.0.2~192.168.0.254	24	スコープの削除
1	192.168.22.2~192.168.0.127	24	登録と更新

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

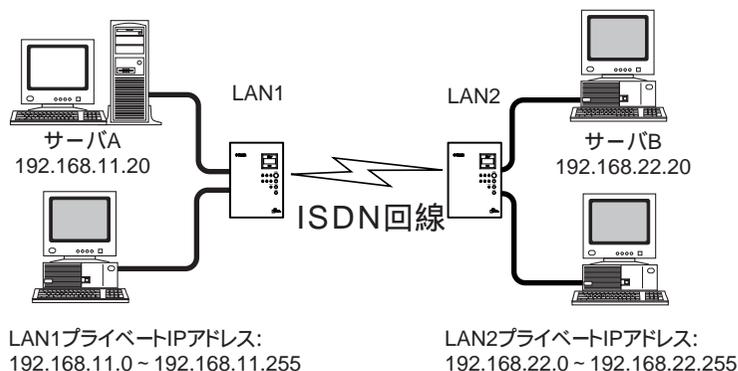
インターネット

- 7 画面下にある[登録]ボタンを押します。  
メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

MEMO  
・ルータのIPアドレスを変更した場合、LAN上の各パソコンのIPアドレスをリセットする必要があります。( P.226 )

## 7-6 LAN と LAN を接続する

お互いのLANにダイヤルアップルータが接続されている場合は、ISDN回線経由で離れた場所のLAN どうしを接続することができます。これを「LAN 間接続」といいます。ダイヤルアップでLAN どうしを接続すると、相手側のパソコンを自分のLAN上にあるパソコンと同様にアクセスすることができます。ダイヤルアップルータを使うと必要なときだけ接続することができるので、専用線を使った場合より、大幅に低コストでLAN間接続を実現できます。本機のLAN間接続機能は、TCP/IP プロトコルのサーバソフトウェアに対応しています。



**注意**

・LAN 間接続を行うときは、データ保全のために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定を行わないと双方のLANに接続されたコンピュータが、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭う可能性があります。

**MEMO**

・本機のLAN 間接続は、Windows のNetBEUI プロトコルおよびMacOS のAppleTalk プロトコルには対応していません。  
・Windows でファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IP プロトコルの設定が、WindowsNT サーバが必要です。  
・MacOS 8.0 以降のMacintosh でファイル共有する場合はAppleShare IP サーバが必要です。  
・MacOS9 の場合は、[ コントロールパネル ] の [ ファイル共有 ] で [ TCP/IP 接続でファイル共有を可能にする ] を設定します。

### ■ 必要な設定

LAN と LAN を接続するときは、お互いのルータやパソコンに次のような設定が必要です。

ルータに必要な設定

- ・プライベートIPアドレスの設定（発信側/受信側）
- ・接続相手の登録（発信側/受信側）

サーバまたはパソコンに必要な設定

- ・固定プライベートIPアドレスの設定
- ・ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録

ここでは、次の条件で設定する場合を例に説明します。

#### 自分側 LAN1

回線の電話番号：	06-1111-0001
プライベート IP アドレス：	192.168.11.0 ~ 192.168.11.255
ネットマスク：	24 ( 255.255.255.0 )
ルータ IP アドレス：	192.168.11.1

#### 相手側 LAN2

回線の電話番号：	03-2222-0002
プライベート IP アドレス：	192.168.22.0 ~ 192.168.22.255
ネットマスク：	24 ( 255.255.255.0 )
ルータ IP アドレス：	192.168.22.1

## TCP/IP プロトコルのファイル共有設定例

### ■ プライベート IP アドレスの設定

LANどうしを接続する場合、お互いのプライベート IP アドレスが重なっていると、アクセスすることができません。重複しないプライベート IP アドレスを設定する必要があります。お互いの担当者が相談し、プライベート IP アドレスを決めて、ルータの IP アドレス設定を変更してください。設定方法については、「7-5 ルータの IP アドレスを変更する」( P.162 )をご覧ください。

MEMO ■ ・お互いにルータを工場出荷値のまま使っている場合は、必ず一方または双方の IP アドレス設定を変更してください。

### ■ パソコンの IP アドレスの設定

お互いの LAN 上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベート IP アドレスを設定します。設定方法については、「7-4 複数の接続先を使い分ける」( P.157 )をご覧ください。

### ■ ファイルサーバソフトの設定

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトをインストールし、公開するフォルダやユーザ ID & パスワードを設定します。設定の方法については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

## ■ 接続相手の登録

発信側と着信側の両方のルータには、自分の ISDN 回線番号と接続相手の電話番号、ネットワークアドレスを設定します。接続相手の登録は、「かんたん設定ページ」の[ LAN間接続 ]および[ システム管理 ]で行います。ここでは、ISDN 回線経由の場合を例に説明します。

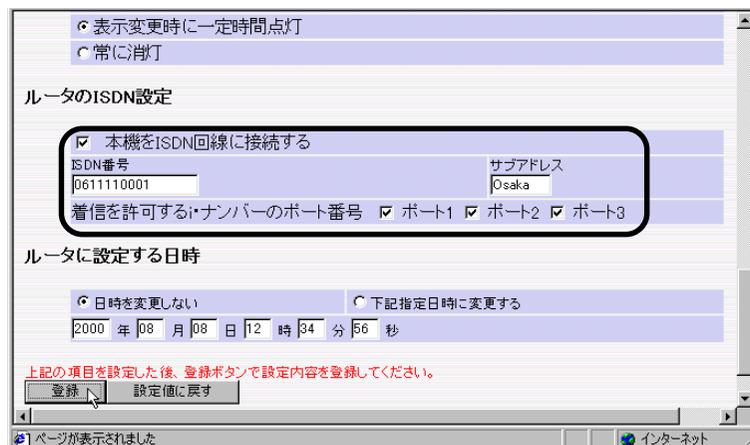
MEMO ・ LAN 間接続は、ISDN の設定と専用線の設定を併用することはできません。切り替えるときは、いずれの場合も LAN 間接続設定をすべて削除してから行ってください。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[ OK ] ボタンを押します。



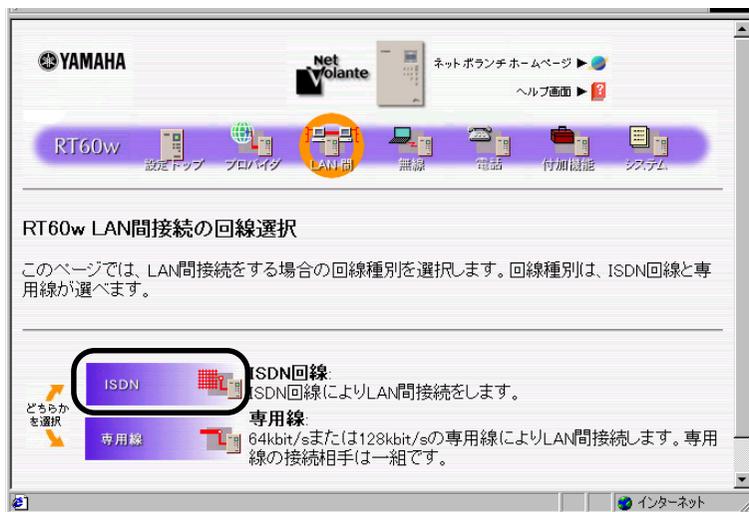
本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [システム管理] を押します。
- 5 本機の ISDN 回線番号およびサブアドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。  
LAN 間接続の場合は、ルータの着信に長いサブアドレスを設定すると、特定外からのアクセスを排除できます。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご確認ください。



- 6 [ LAN 間接続 ] を押します。  
エラーメッセージが表示されたときは、プロバイダ接続の設定をすべて削除してから、やり直してください。

- 7 [ ISDN ] を押します。  
専用線経由で接続する場合は、[ 専用線 ] を押してください。



- 8 [ 接続相手の追加 ] ボタンを押します。



- 9 接続相手側の電話番号およびサブアドレス、ネットワークアドレスを入力し、[登録]ボタンを押します。

[ISDN回線によるLAN間接続] - [接続相手の登録(新規)]

接続相手の詳細を設定。なお

接続相手の名前 PP[02]	LAN2	半角32文字以内
自動接続	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
発信と着信	発信と着信を許可する	

RTA52i側の情報

電話番号	0611110001	ISDN回線番号の設定
サブアドレス	Osaka	
パスワード認証	パスワードを使わない	
ユーザID		半角入力32文字以内
パスワード		半角入力32文字以内

接続先の情報

電話番号	0322220002	半角入力32桁以内
サブアドレス	Tokyo	半角入力16桁以内
パスワード認証	パスワードを使わない	
ユーザID		半角入力32文字以内
パスワード		半角入力32文字以内

経路を登録する設定

デフォルト経路を設定する場合には、「default」もしくは「0.0.0.0」と設定してください。

ネットワークアドレス (経路情報)	192.168.22.0	IPアドレス、半角入力
ネットマスク	24	マスクビット数

接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定

PIAFS 端末や端末型接続設定された ISDN モーテルータなどが接続可能になります。  
端末(接続相手)には、接続中に有効な IP アドレスがひとつ付与されます。

IPアドレスの割り当て方法	IPアドレスを指定する	
IPアドレス		IPアドレス、半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

接続相手が登録され、「ISDN 回線による LAN 接続」ページに戻ります。

### 電話番号 / サブアドレス

LAN 間接続の場合は、発信者番号をチェックして接続するので、両方のルータに自分の ISDN 回線番号と接続相手の電話番号を設定してください。また、長いサブアドレスを設定しておく、他の機器と着信が区別でき、不特定の相手からのアクセスに対するセキュリティとしても有効です。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご確認ください。

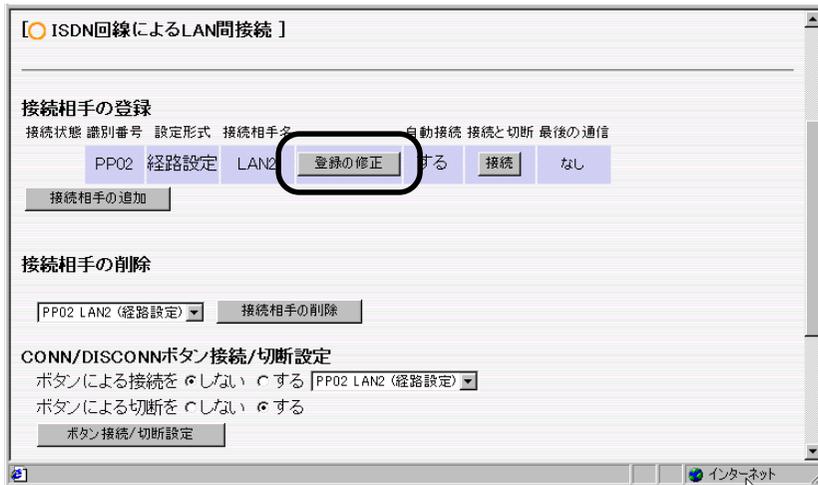
### パスワード認証 / ユーザ ID / パスワード

ユーザ ID とパスワードを設定することもできます。設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせてください。LAN 間接続の場合は、特定の発信者番号しか着信できないので、パスワードは設定しなくてもかまいません。

### ネットワークアドレス / ネットマスク

接続相手のネットワークアドレスとネットマスクを設定してください。双方でネットワークアドレスが重複している場合は、どちらかのネットワークアドレスを変更してください。

## 10 登録した接続相手の [ 登録の修正 ] ボタンを押します。



## 11 [ オプション設定 ] を押します。



## 12 接続制限の条件を設定します。

自動接続や自動切断、発信制限、MP 接続、コールバックの設定が行えます。必要に応じて設定してください。

### MEMO

- ・ 接続相手の新規登録を行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。
- ・ 制限に達して接続できなくなったときは、「料金設定」ページで接続相手の累積料金をリセットしてください。接続できるようになります。頻繁に接続できなくなる場合は、発信制限の数値を見直してください。

## 13 画面下にある [登録] ボタンを押します。

メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## 専用線の LAN 間接続例

専用線の場合は、回線の種類と本機のネットワークアドレス、接続相手のネットワークアドレスを設定します。

「システム管理」の「LAN 側設定」ページ

[システム管理] [料金設定]  
[LAN側設定]  
[内部情報]  
[フィルタ設定]

ルータのIPアドレス

ルータのIPアドレス	ネットマスクビット数
<input checked="" type="radio"/> 192.168.11.1	24
<input type="radio"/> DHCPクライアント	

ルータのセカンダリIPアドレス

セカンダリのIPアドレス	ネットマスクビット数	セカンダリのクリア
<input checked="" type="radio"/>	24	
<input type="radio"/> DHCPクライアント		

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能を使用する

DHCPスコープ

識別番号	IPアドレスの割り当て範囲	ネットマスクビット数	
1	192.168.0.2~192.168.0.254	24	スコープの削除
1	192.168.11.2 ~ 192.168.11.127	24	登録と更新

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

「LAN 間接続」の「専用線による LAN 間接続」ページ

専用線によるLAN間接続

接続相手の情報を設定します。

回線の種類

<input checked="" type="radio"/> 64 [kbit/s] (HSD64, DA64など)
<input type="radio"/> 128 [kbit/s] (HSD128, DA128など)

IPアドレス

ルータのIPアドレス	ネットマスクビット数	LAN側の設定
192.168.11.1	24	

経路情報の追加

デフォルト経路を設定する場合には、「default」もしくは「0.0.0.0」と設定してください。

ネットワークアドレス (経路情報)	IPアドレス、半角入力
192.168.22.0	

ネットマスク	マスクビット数
24	

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

MEMO

- ・ 接続相手側の DHCP サーバを利用することもできます。その場合は、「システム管理」の「LAN 側設定」ページで、[ DHCP サーバ機能を使用する ] のチェックを外してください。

## ■ 接続のしかた

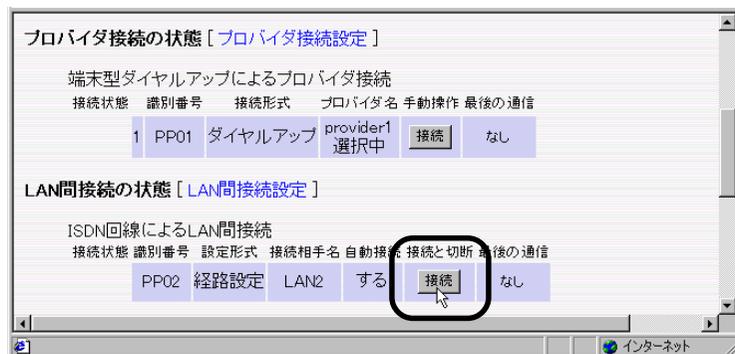
着信側の LANへ接続するときは、「かんたん設定ページ」の「手動接続 / 切断」ページで手動接続します。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 「手動接続 / 切断」を押します。
- 4 接続相手名の[接続]ボタンを押します。  
LANとLANが接続され、相手のLAN上のパソコンにアクセスできるようになります。



- 5 切るときは、[切断] ボタンを押します。

### MEMO

- ・ 接続相手の新規登録を行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。( P.144 )
- ・ 制限に達して接続できなくなったときは、「料金設定」ページで接続相手の累積料金をリセットしてください。接続できるようになります。( P.147 )

## Windows 95/98 におけるファイル共有設定例

Windowsの標準ネットワークプロトコルはNetBEUIであり、そのままではTCP/IPプロトコルでファイルを共有することはできませんが、TCP/IPプロトコルの設定に加えて NetBIOS over TCP/IP の設定を行うことにより、TCP/IP プロトコル経由のファイル共有ができるようになります。

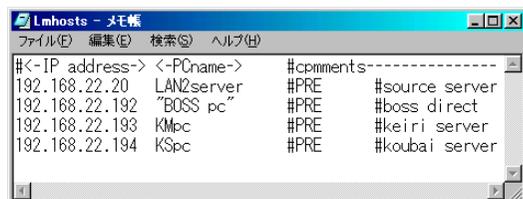
### ■ 必要な設定

- ・ Lmhosts ファイルの作成
- ・ ネットワークのファイル共有設定
- ・ 各フォルダ・ドライブの共有設定
- ・ ルータのフィルタ設定変更

### ■ Lmhosts ファイルの作成

Lmhost ファイルは、接続先 LAN 内のパソコン名とプライベート IP アドレスを関連付けるためのファイルです。このファイルを起動ドライブの「Windows」フォルダ内に保存しておく、このファイルの対応を自動的に参照するので、相手の LAN にアクセスできるようになります。

- 1 [メモ帳]などのテキスト編集ソフトで下記のように接続先 LAN 内でアクセスしたいパソコンのプライベート IP アドレスとパソコン名称を入力します。  
パソコンの名称に空白が含まれている場合は、” ” で囲んで入力します。



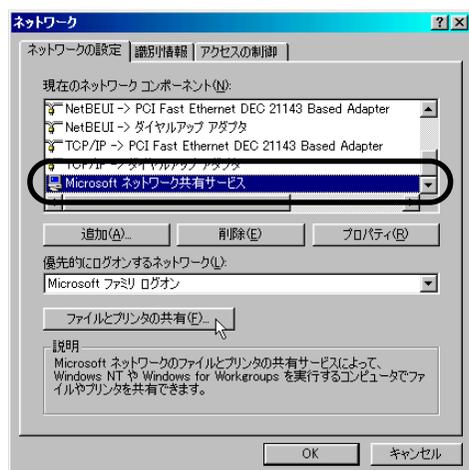
MEMO ・パソコン名称は、相手先パソコンの[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、[識別情報](Windows95の場合は[ユーザ情報])で確認してください。

- 2 起動ドライブの「Windows」フォルダ内へ「Lmhosts」というファイル名で保存します。保存したファイルに拡張子がついている場合は、ファイル名を「Lmhosts」(拡張子は付けない)に修正してください。
- 3 パソコンを再起動します。
- 4 同様にして、双方の LAN 上のパソコンにそれぞれ相手のパソコン名を入力した「Lmhosts」ファイルを起動ドライブの「Windows」フォルダ内へ保存し、パソコンを再起動します。

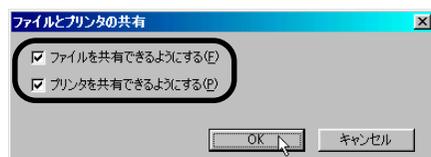
## ■ ネットワークのファイル共有設定

Windowsでファイルを共有するときは、[コントロールパネル]の[ネットワーク]に[Microsoft ファイル共有サービス]を追加し、[ファイルとプリンタの共有]を設定します。

- 1 [マイコンピュータ]の[コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストの中の[Microsoft ファイル共有サービス]があるか確認します。  
無い場合は、[追加]ボタンを押して、[サービス]の[Microsoft ファイル共有サービス]を追加してください。



- 2 [ファイルとプリンタの共有]ボタンを押して、[ファイル]および[プリンタ]をチェックし、[OK]ボタンを押します。



- 3 [識別情報](Windows95の場合は[ユーザ情報])を開き、パソコン名称が相手側のLmhostsに登録されている名称と合っていることを確認します。

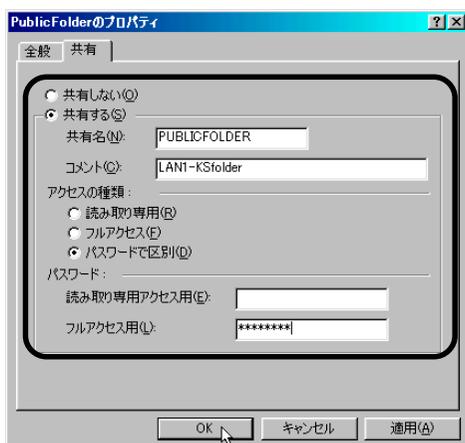
## ■ 各フォルダ・ドライブの共有設定

Windowsの場合は、公開するフォルダまたはドライブの共有設定を変更します。ここでは、「マイドキュメント」フォルダ内の「PublicFolder」フォルダを公開する場合を例に説明します。

- 1 共有したいフォルダを選択し、ファイルメニューの[共有]を選択します。



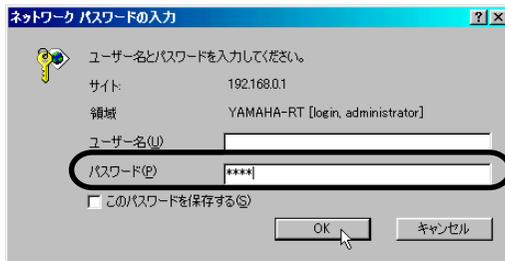
- 2 [共有する]を選択し、アクセスの種類やパスワードを入力して[OK]ボタンを押します。フォルダアイコンに手のマークが付いた状態が、アクセスが許可されているフォルダです。同様の操作でドライブ毎共有を設定することもできます。



## ■ ルータのフィルタ設定変更

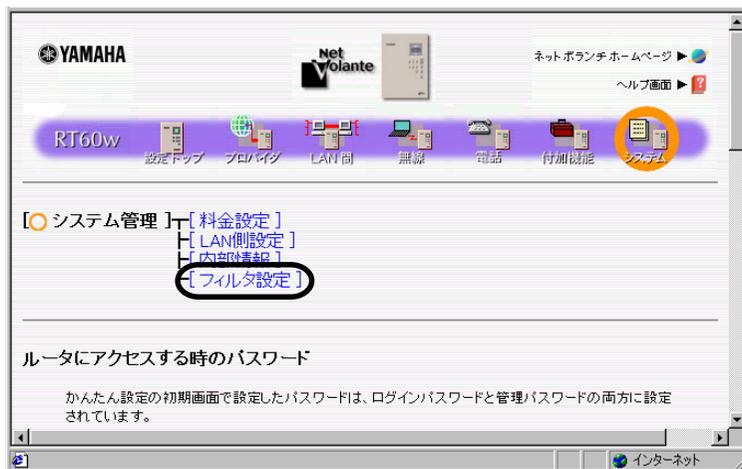
LAN間接続では意図しない接続や課金を防ぐために、自動的にNetBIOSに対するフィルタが設定されています。Windowsでのファイル共有を行う場合は、フィルタ番号1と2を次の手順で変更してください。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [システム管理] を押します。
- 5 [フィルタ設定] を押します。



## 6 「フィルタ定義の追加」で下記の値を1つずつ入力し、[追加]ボタンを押します。

フィルタ定義の追加

各項目を設定した後、「追加」ボタンで設定内容を追加してください。

番号	フィルタ	始点IPアドレス	終点IPアドレス
1	reject-log	*	*
	プロトコル	始点ポート	終点ポート
	tcp,udp	137-138	*

追加

---

フィルタ定義の削除

フィルタ番号を選択して「削除」ボタンをクリックすると、指定された番号のフィルタが削除されます。

番号

1

削除

---

フィルタリングのセット

フィルタを機能させる設定を行ないます。  
LAN(PP)/INはLAN(PP)側から入ってくるパケット、LAN(PP)/OUTはLAN(PP)側に出ていくパケットのフィルタリングです。  
設定は各項目のチェックの有無で行なえます。

番号	LAN		Provider1 pp1		pp2	
	IN	OUT	IN	OUT	IN	OUT
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

### 入力例

番号	フィルタ	始点 IP アドレス	終点 IP アドレス
1	reject-log	*	*
	プロトコル	始点ポート	終点ポート
	tcp,udp	137-138	*

番号	フィルタ	始点 IP アドレス	終点 IP アドレス
2	reject-log	*	*
	プロトコル	始点ポート	終点ポート
	tcp,udp	*	137-138



### 注意

- ・フィルタ変更後は、意図しない接続や課金がないか、「料金 / 通信記録」ページなどでときどきチェックしてください。

## ■ アクセスのしかた

相手の Windows パソコンにアクセスするときは、ルータの LAN 間接続で相手の LAN に接続した後、[スタート]ボタンの[検索]でパソコンを指定します。

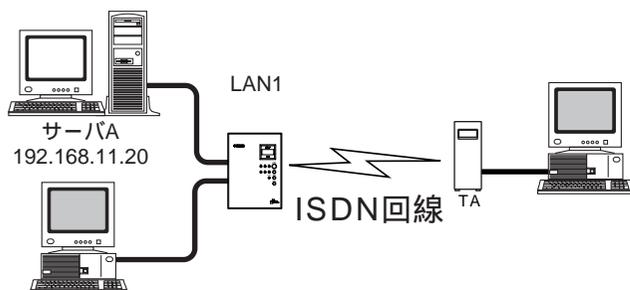
1 [スタート]ボタンの[検索]-[ほかのコンピュータ]を開きます。

2 Lmhosts に登録したパソコン名称を入力し、[検索開始]ボタンを押します。  
指定したパソコンがリストに表示されます。

3 リストに表示されたパソコン名称を開きます。  
相手がファイル共有を設定しているフォルダまたはドライブが表示され、アクセスできます。

## 7-7 外出先からリモートアクセスする

本機はPIAFS通信に対応しており、外出先から PHS や TA を使って LAN 上のパソコンへアクセスすることができます。対応プロトコルは TCP/IP のみです。リモートアクセスをするときは、本機にリモートアクセスユーザのユーザ ID やパスワードを登録し、リモートのパソコンにはダイヤルアップ接続の設定を行います。



LAN1プライベートIPアドレス:  
192.168.11.0 ~ 192.168.11.255



### 注意

- ・ リモートアクセスを設定するときは、データ保全のために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定を行わないと、LAN に接続されたコンピュータが、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭う可能性があります。

### MEMO

- ・ 本機のPIAFS通信機能は、PIAFS ver1.0/2.0/2.1に対応しており、PHS各社のデータ通信に対応したPHSモデムカードで、32kbit/sもしくは64kbit/sで本機にアクセスできます。
- ・ 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- ・ Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルの設定が、WindowsNTサーバが必要です。
- ・ MacOS 8.0以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。
- ・ MacOS 9の場合は、[コントロールパネル]の[ファイル共有]で[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]を設定します。

## ■ 必要な設定

リモートアクセスするときは、ルータやパソコンに次のような設定が必要です。

### ルータの設定

- ・ 接続相手登録

### LAN内サーバまたはパソコンに必要な設定

- ・ 固定プライベートIPアドレスの設定
- ・ ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録

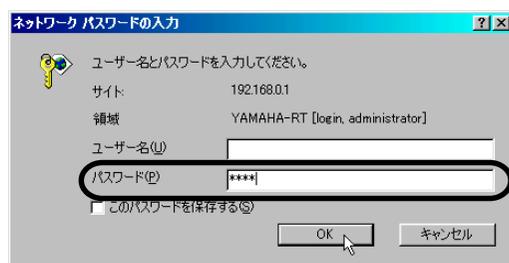
### リモートアクセスするパソコンの設定

- ・ ダイヤルアップ接続設定

## ■ 接続相手を登録する

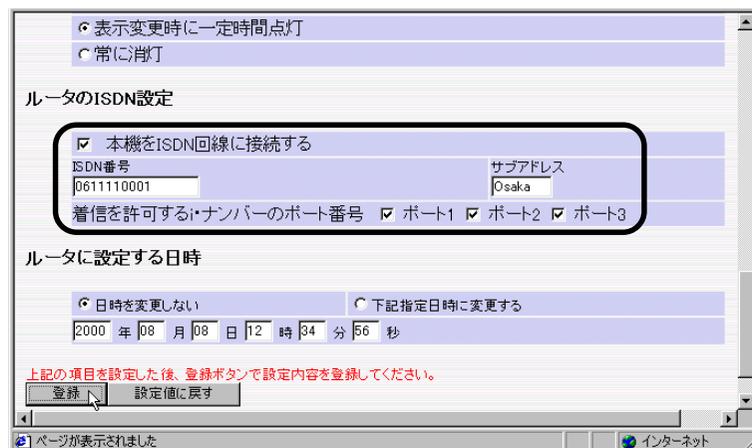
リモートアクセス設定は、「かんたん設定ページ」の[システム管理]で行います。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK]ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定]を押します。
- 4 [システム管理]を押します。
- 5 本機のISDN回線番号およびサブアドレスを入力し、[登録]ボタンを押します。  
LAN間接続の場合は、ルータの着信に長いサブアドレスを設定すると、特定外からのアクセスを排除できます。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご確認ください。



- 6 [LAN間接続]を押します。  
エラーメッセージが表示されたときは、プロバイダ接続の設定をすべて削除してから、やり直してください。

## 7 [ ISDN ] を押します。



## 8 [ 接続相手の追加 ] ボタンを押します。



- 9 自動接続で「しない」を選択し、接続相手側の電話番号およびサブアドレス、ユーザID、パスワードを入力し、[ 登録 ] ボタンを押します。  
 接続相手が登録され、「ISDN回線によるLAN接続」ページに戻ります。

### 電話番号 / サブアドレス

PHSやTAの場合は発信者番号をチェックして接続するので、接続相手の電話番号を設定してください。また、長いサブアドレスを設定しておく、他の機器と着信が区別でき、不特定の相手からのアクセスに対するセキュリティとしても有効です。ただし、相手の機器によっては、サブアドレスは数字のみの場合がありますので、ご確認ください。

### パスワード認証 / ユーザID / パスワード

ユーザIDとパスワードを設定することもできます。設定した場合は、両方でパスワード認証形式を合わせてください。

### 接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定

接続相手がリモートアクセスの場合は、[ 接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定 ] をチェックし、接続相手に割り当てる方法を設定します。

通常は [ DHCPサーバから割り当てる ] を選択します。割り当てるIPアドレスを固定したいときは、[ IPアドレスを指定する ] を選択し、IPアドレスを入力してください。

## 10 登録した接続相手の [ 登録の修正 ] ボタンを押します。

【 ISDN回線によるLAN間接続 】

接続相手の登録

接続状態 識別番号 設定形式 接続相手名 自動接続 接続と切断 最後の通信

PP02 端末設定 RemoteUser **登録の修正**  しない  接続 なし

接続相手の追加

接続相手の削除

PP02 RemoteUser (端末設定) 接続相手の削除

CONN/DISCONNボタン接続/切断設定

ボタンによる接続を  しない  する PP02 RemoteUser (端末設定)

ボタンによる切断を  しない  する

ボタン接続/切断設定

ページが表示されました インターネット

## 11 [ オプション設定 ] を押します。

【 ISDN回線によるLAN間接続 】 - 【 接続相手(PP#2)の登録 】 - 【 オプション設定 】

接続相手の情報を設定します。

接続相手の名前 PP[02]	RemoteUser1	半角32文字以内
自動接続	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
発信と着信	<input type="radio"/> 発信と着信を許可する	

RTA52i側の情報

電話番号	0611110001	ISDN回線番号の設定
サブアドレス	Osaka	
パスワード認証	<input type="radio"/> パスワードを使わない	
ユーザID		半角入力32文字以内
パスワード		半角入力32文字以内

接続先の情報

電話番号	07001234567	半角入力32桁以内
サブアドレス		半角入力16桁以内
パスワード認証	<input type="radio"/> CHAPまたはPAPで認証する	
ユーザID	remoteuser	半角入力32文字以内
パスワード	*	半角入力32文字以内

接続相手の端末にIPアドレスを付与する設定

PIAFS 端末や端末型接続設定されたISDNルータなどが接続可能になります。  
端末(接続相手)には、接続中に有効なIPアドレスがひとつ付与されます。

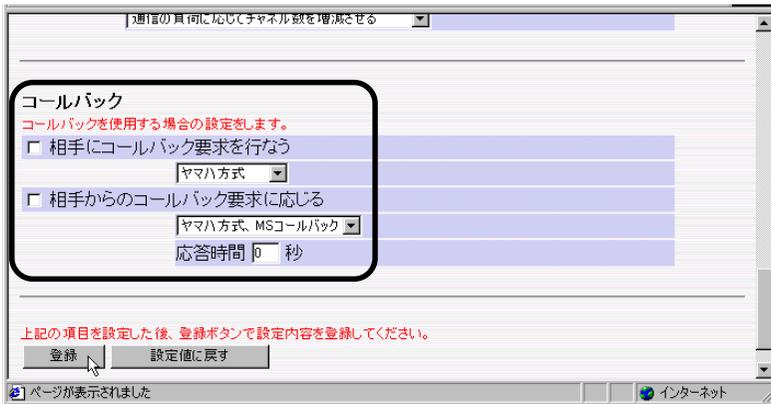
IPアドレスの割り当て方法	<input type="radio"/> DHCPサーバから割り当てる	
IPアドレス		IPアドレス、半角入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 設定値に戻す

ページが表示されました インターネット

- 12** 接続制限の条件を設定します。  
コールバックの設定が行えます。必要に応じて設定してください。



- 13** 画面下にある [ 登録 ] ボタンを押します。  
メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## LAN 内のサーバやパソコンを設定する

リモートアクセスするには、LAN内のサーバやパソコンにTCP/IPプロトコルでアクセスするための設定が必要です。

- MEMO
- ・本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
  - ・Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルの設定が、WindowsNTサーバが必要です。
  - ・MacOS 8.0以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。
  - ・MacOS 9の場合は、[コントロールパネル]の[ファイル共有]で[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]を設定します。

### サーバやパソコンのIPアドレスの設定

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法については、「7-4 複数の接続先を使い分ける」(P.157)をご覧ください。

### ファイルサーバソフトの設定

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトやネットワーク共有を設定して、公開するフォルダやユーザID & パスワードを設定します。TCP/IPおよびNetBIOS over TCP/IPの設定例については、「7-6 LANとLANを接続する」(P.165,174)をご覧ください。

## ■ リモートアクセスするパソコンを設定する

Windows 95/98 の場合

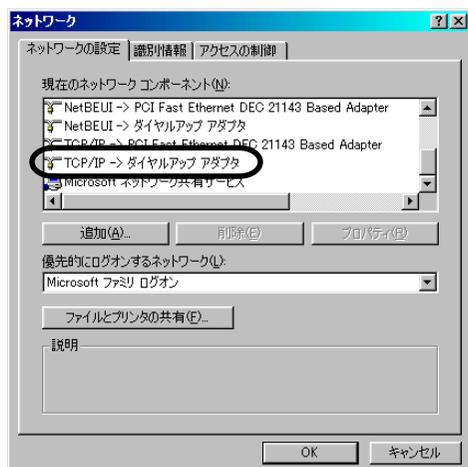
Windows 95/98 の場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

- 1 [マイコンピュータ]を開き、[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあるかを確認します。



[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがない場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windows ファイル]タブの[通信]-[ダイヤルアップネットワーク]をチェックして、Windows のインストールCD-ROM から追加インストールしてください。

- 2 [コントロールパネル]の[ネットワーク]を開き、リストに "TCP/IP -> ダイヤルアップアダプタ" があるかを確認します。



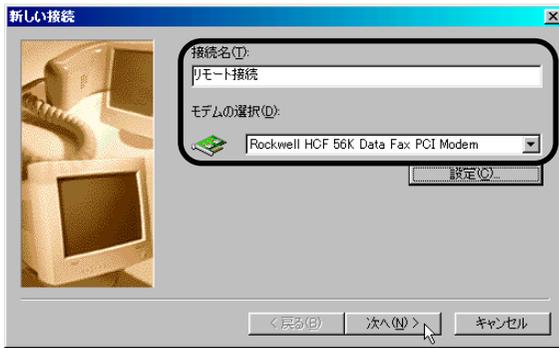
ない場合は [追加] ボタンを押して、[プロトコル] の追加で [Microsoft] の [TCP/IP] を追加します。リストに TCP/IP が表示されたら、「ネットワーク」ウィンドウを閉じます。

**3** [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、[新しい接続]アイコンを開きます。

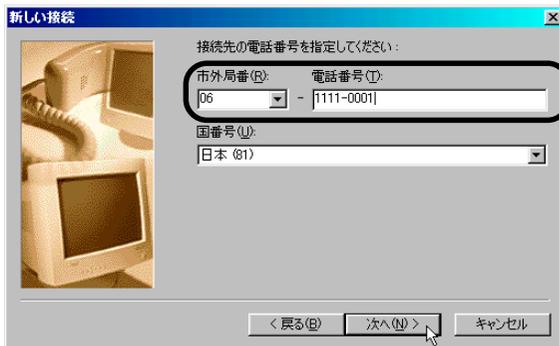
[新しい接続]アイコンがない場合には、「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が現れますので、[次へ]ボタンを押します。



**4** 接続名とモデム名を入力し、[次へ]ボタンを押します。

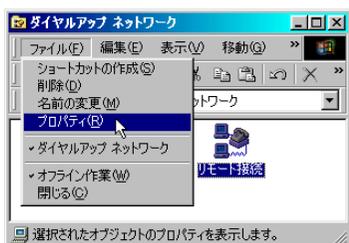


**5** 本機の電話番号とサブアドレスを入力して [次へ] ボタンを押し、[完了] ボタンを押します。



「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

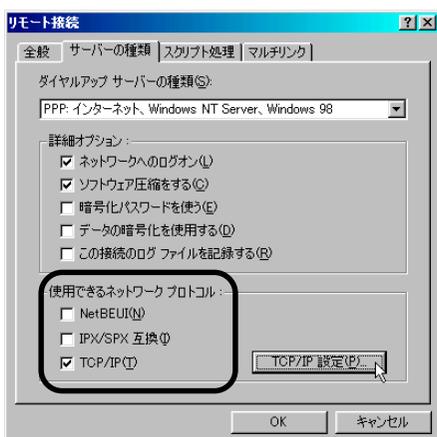
6 本機のアイコンを選択し、ファイルメニューの[プロパティ]を選択します。



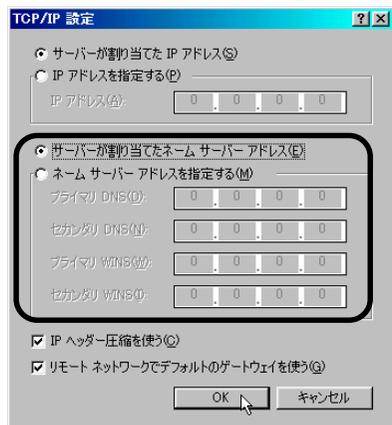
7 [サーバーの種類] タブを押します。



8 [使用できるネットワーク プロトコル]の[ TCP/IP ]にチェックを付けて[ NetBEUI ] と [ IPX/SPX 互換 ] のチェックを外し、[ TCP/IP 設定 ] ボタンを押します。



- 9 [サーバが割り当てたネームサーバーアドレス]を選択し、各ウィンドウの[OK]ボタンを押してウィンドウを閉じます。  
LAN内のDNSサーバIPアドレスが指定されている場合は、[ネームサーバーアドレスを指定する]を選択し、指定されたIPアドレスを入力してください。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

## Macintosh の場合

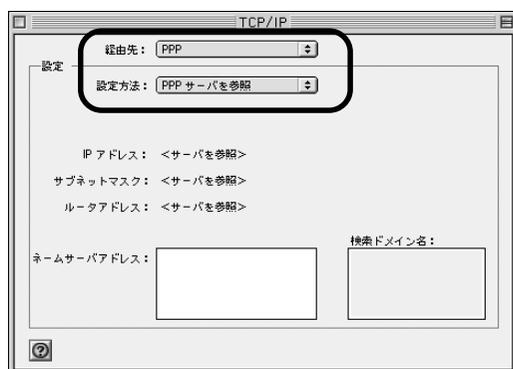
Macintosh では、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス (PPP) の設定を行います。ここでは MacOS 8.6 の画面を例に説明しています。

**MEMO** ・ MacOS 8.1 以前でアップルリモートアクセスをインストールしていない場合は、コントロールパネルの「PPP」を開いてください。設定操作は「リモートアクセス」と同じです。

**1** コントロールパネルの [ TCP/IP ] を開き、[ 経由先 ] を "PPP"、[ 設定方法 ] を "PPP サーバを参照" に設定します。

LAN 内の DNS サーバが指定されている場合は、[ ネームサーバアドレス ] 欄に指定された IP アドレスを入力してください。

設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じます。



**2** コントロールパネルの [ リモートアクセス ] を開き、本機に設定したユーザIDとパスワード、本機の電話番号とサブアドレスを設定します。

設定が終わったら、「リモートアクセス」ウィンドウを閉じます。



**MEMO** ・ [ パスワードを保存 ] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

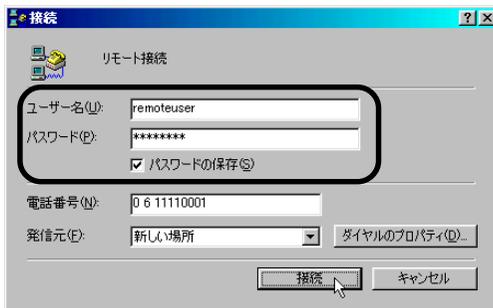
## ■ 本機へアクセスする

Windows95/98の場合

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、本機のアイコンを開きます。



- 2 [接続] ボタンを押します。  
パスワードを保存していない場合は、パスワードを入力します。



本機へダイヤルし始めます。接続すると、「ダイヤルアップネットワーク(プロバイダ名)」ウィンドウが表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

**MEMO** ・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定してアクセスします。

- 4 接続を解除するときは、[切断] ボタンを押します。



本機との接続が切れます。

## Macintosh の場合

- 1 コントロールパネルの [ リモートアクセス ] を開きます。  
「リモートアクセス」ウィンドウが表示されます。

- 2 [ 接続 ] ボタンを押します。  
パスワードを保存していないときは、パスワードを入力します。



本機へダイヤルし始めます。接続すると、接続時間や転送状況を示すバーが表示されます。

**MEMO** ・[パスワードを保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定してアクセスします。

- 4 接続を切るときは、「リモートアクセス」ウィンドウの[ 接続を切る ]ボタンを押します。



プロバイダとの接続が切れます。

## 7-8 外部にサーバを公開する

専用線接続でインターネットへサーバを公開したい場合は、サーバに固定プライベート IP アドレスを設定し、サーバの IP アドレスとグローバル IP アドレスの関連付けを設定します。さらに LAN 外からのアクセスを許可するフィルタをルータに設定することにより、インターネットからアクセスすることができるようになります。



### 注意

- ・ LAN の外部にサーバを公開するときは、データ保全のために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定を行わないとサーバが、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊に遭う可能性があります。

### ■ 必要な設定

サーバを公開するためには、次の設定が必要です。

ルータの設定

- ・ 静的 NAT の設定
- ・ アクセスを許可するフィルタ設定

サーバの設定

- ・ 固定プライベート IP アドレスの設定
- ・ サーバソフトの設定

### ■ パソコンの IP アドレスの設定

お互いの LAN 上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベート IP アドレスを設定します。設定方法については、「7-4 複数の接続先を使い分ける」( P.157 ) をご覧ください。

### ■ 静的 NAT の設定

サーバに設定した固定プライベート IP アドレスとサーバに割り当てたグローバル IP アドレスの関連づけを設定します。これにより、インターネット側からサーバのアドレスを指定することができるようになります。

ここでは、LAN 内のサーバ ( 192.168.11.20 ) にグローバル IP アドレス ( 10.40.33.114 ) を割り当てる例を説明します。静的 NAT の設定は、「かんたん設定ページ」の [ ネットワーク型プロバイダ接続 ] で行います。

### 1

ブラウザを開き、本機へアクセスします。

「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

## 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

ネットワーク パスワードの入力

ユーザー名とパスワードを入力してください。

サイト: 192.168.0.1

領域: YAMAHA-RT [login, administrator]

ユーザー名(U):

パスワード(P): \*\*\*\*

このパスワードを保存する(S)

OK キャンセル

本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

## 3 [かんたん設定] を押します。

## 4 [プロバイダ接続] を押します。

## 5 [オプション設定] を押します。

ネットワーク型プロバイダ接続設定 [オプション設定]

契約したインターネットプロバイダから通知された情報を設定します。(同じプロバイダを複数登録しないで下さい)  
DNSサーバアドレスの自動取得は、プロバイダが対応している必要があります。  
意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した回線の接続/切断が行なわれる事を確認してください。  
発信制限やユーザID/パスワード違いにより自動的に接続を禁止する場合がありますので、接続ができなくなった場合はそれぞれの項目を確認してください。

IPアドレス

ルータのIPアドレス	10.40.33.113	IPアドレス半角入力
ネットマスク	28	マスクビット数

回線の種類

ISDN

接続形式	<input type="radio"/> ダイヤルアップ接続	
	<input checked="" type="radio"/> 常時接続(フレッツ・ISDN,IP接続サービス)	
プロバイダの電話番号 1		半角入力32桁以内
2		(省略可能)
3		(省略可能)
ユーザID		半角入力32文字以内
パスワード		半角入力32文字以内

64 [kbit/s] (HSD64、DA64など)

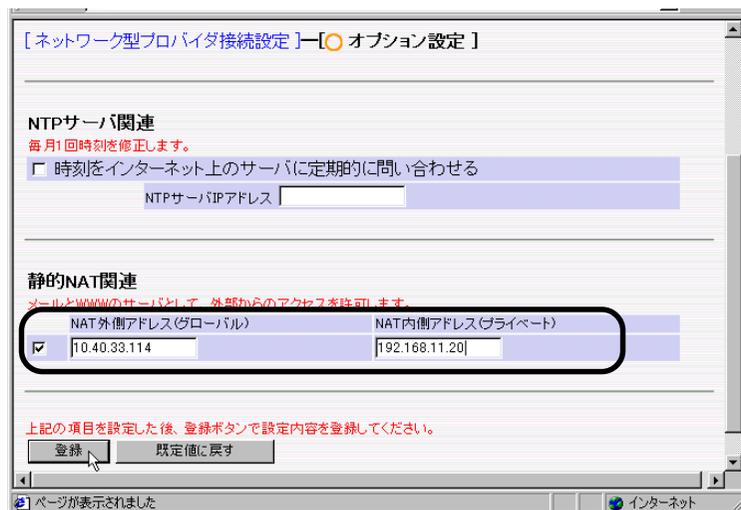
128 [kbit/s] (OCNエコノミー、HSD128、DA128など)

DNS関連

DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する
------------	-------------

インターネット

- 6 [ 静的 NAT 関連 ] をチェックし、入力欄にグローバルIPアドレスと公開するサーバのプライベートIPアドレスを入力します。



- 7 画面下にある[登録]ボタンを押します。  
メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## ■ アクセスを許可する設定

着信側の LAN では、アクセスを許可するサーバのプライベートIPアドレスやプロトコルを設定します。その他のパソコンは、外部からアクセスすることはできないことになります。ここでは、LAN 内のサーバ( 192.168.11.20 )へのアクセスを許可する場合を例に説明します。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ユーザ名とパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[ OK ] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [ かんたん設定 ] を押します。

4 [システム管理] を押します。

5 [フィルタ設定] を押します。



6 [フィルタ定義の追加] で下記の値を入力し、[追加] ボタンを押します。

フィルタ定義の追加  
各項目を記入した後、「追加」ボタンで設定内容を追加してください。

番号	フィルタ	始点IPアドレス	終点IPアドレス
80	pass-nolog	*	192.168.11.20
	プロトコル	始点ポート	終点ポート
	*	*	80

フィルタ定義の削除  
フィルタ番号を選択して「削除」ボタンをクリックすると、指定された番号のフィルタが削除されます。

番号

フィルタリングのセット  
フィルタを機能させる設定を行ないます。  
LAN(PP)/INはLAN(PP)側から入ってくるパケット、LAN(PP)/OUTはLAN(PP)側へ出ていくパケットのフィルタリングです。  
設定は各項目のチェックの有無で行なえます。

番号	LAN		専用線leased	
	IN	OUT	IN	OUT
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

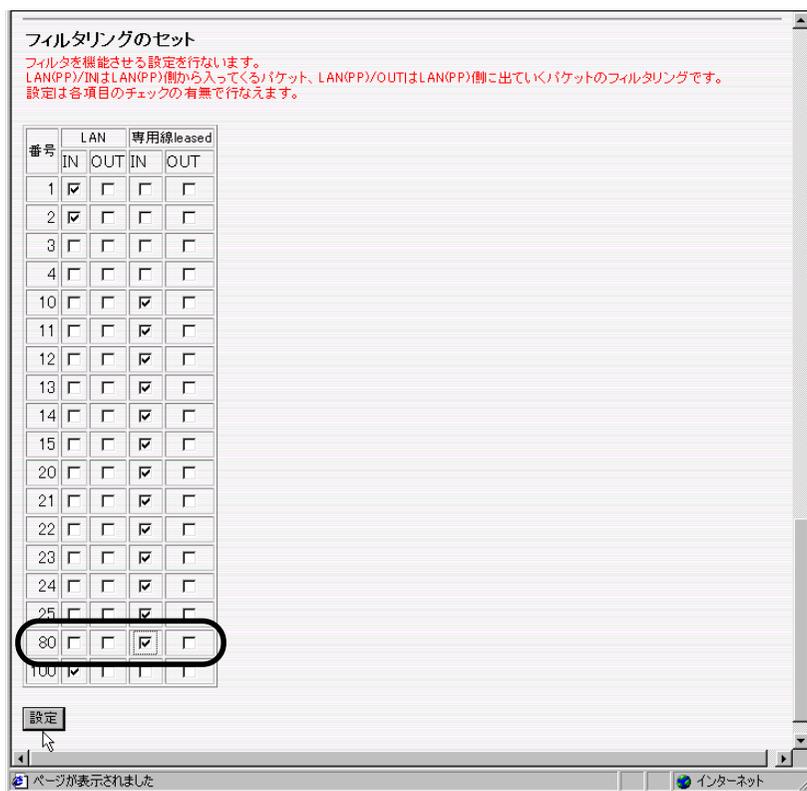
WWW サーバを公開する場合の入力例

番号	フィルタ	始点IPアドレス	終点IPアドレス
80	pass-nolog	*	192.168.11.20
	プロトコル	始点ポート	終点ポート
	*	*	80

MEMO

- ・ 公開する相手を限定する場合は、始点IPアドレスに相手のIPアドレスを指定します。
- ・ ポート番号はアプリケーションソフトに従って変更してください。
- ・ 使用できるフィルタ番号は80～99の20個です。フィルタやプロトコルなどについては、付属のCD-ROMに収録されている「コマンドリファレンス」をご覧ください。

- 7 [フィルタリングのセット] でフィルタ 80 番の IN をチェックし、[設定] ボタンを押します。



## ■ ファイルサーバソフトの設定

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトをインストールし、公開するフォルダやユーザ ID & パスワードを設定します。設定の方法については、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

## 7-9 ネットワークゲーム用に設定する

ネットワークゲームやICQソフトなど、グローバルIPアドレスを使ったサービスは、ルータでは正しく動作しない場合があります。その場合、ルータにグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスの関連付けの設定を行うことにより、動作する場合があります。これを「静的IPマスカレード」といいます。

MEMO ■ 以下の設定を行っても正しく動作しない場合は、LAN-TA機能で接続してください。( P.198 )

### ■ 必要な設定

静的IPマスカレードを設定するためには、次の設定が必要です。

- ・ ルータの静的IPマスカレードの設定
- ・ パソコンの固定プライベートIPアドレス設定

### ■ パソコンのIPアドレス設定

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。設定方法については、「7-4 複数の接続先を使い分ける」( P.157 )をご覧ください。

### ■ 静的IPマスカレードの設定

一台のパソコンの静的マスカレードを設定する場合は、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続設定」ページで行います。

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

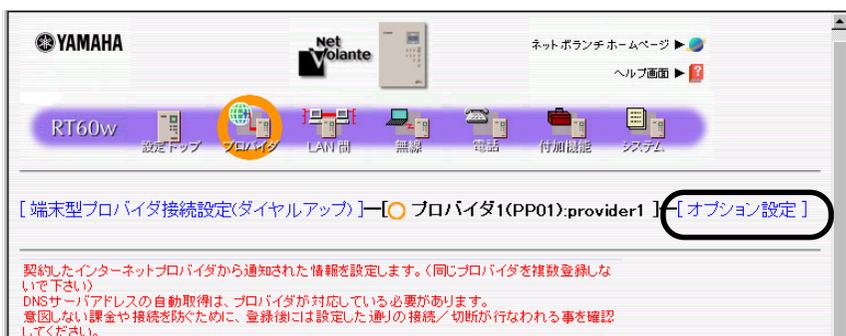
3 [かんたん設定] を押します。

4 [プロバイダ接続] を押します。

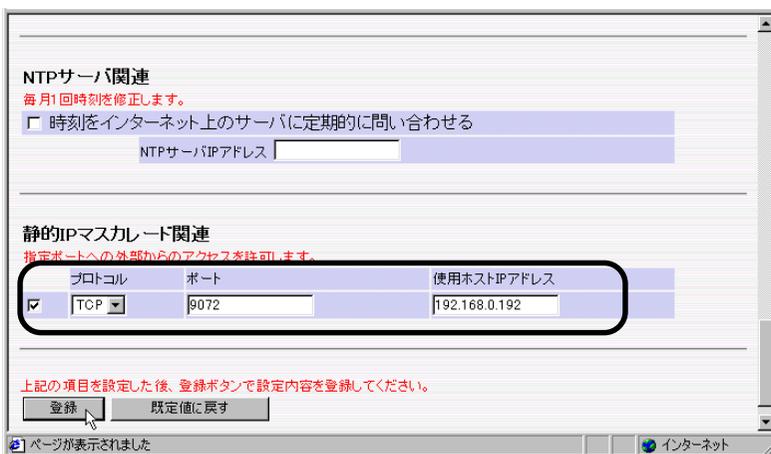
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第3章を参照して設定してください。

5 プロバイダ名の右の[登録の修正]ボタンを押します。

6 [オプション設定]を押します。



7 [静的IPマスカレード関連]のボックスをチェックし、プロトコルを選択してポート番号とパソコンのIPアドレスを入力します。



MEMO ・プロトコルやポート番号については、利用するアプリケーションの説明書をご確認ください。

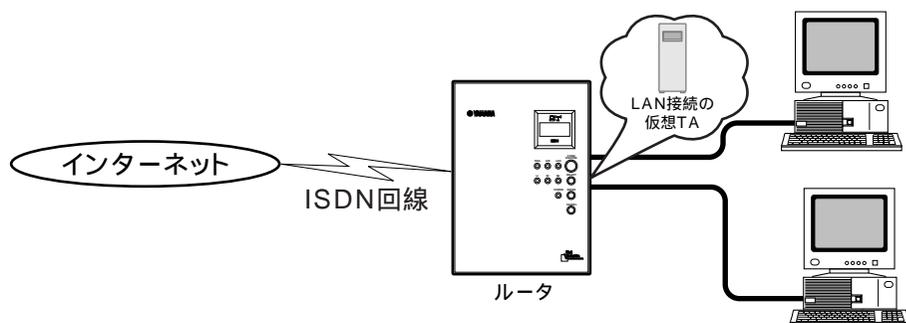
8 画面下にある [登録] ボタンを押します。

メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

## 7-10 LAN-TA を使って接続する

Windows98/2000の「仮想プライベートネットワーク」機能を利用することで、本機を仮想TAとしてLAN上のパソコンから発信することができます。これを「LAN-TA」と呼んでいます。ネットワークゲームやICQソフトなどのグローバルIPアドレスを使ったサービスで、ルータでは正しく動作しない場合でも、接続が可能になります。

LAN-TA機能は、PPTP（Point to Point Tunneling Protocol）に対応した機能でWindows98/2000のみで利用可能です。Macintoshでは利用できません。またLAN-TA機能で着信することはできません。



### MEMO

- Windows95の場合は、「Microsoft Windows95 ダイアルアップネットワーク 1.3 アップグレード」でアップデートする必要があります。アップデートについては、Microsoft社のホームページ（["http://www.microsoft.com/japan/windows/"](http://www.microsoft.com/japan/windows/)）をご覧ください。
- この機能を使用中は、ISDNの1回線分を占有します。すでに他のプロバイダ自動接続、TELポート、LAN-TA機能で2回線分使用している場合は、接続できません。
- 2台のPCがLAN-TA機能により同時に接続した場合は、2回線分を使用することになります。プロバイダによっては同一ユーザ名で複数同時接続を許可していない場合がありますのでご注意ください。

### ■ 必要な設定

LAN-TA機能で接続するときは、ルータやパソコンに次の設定が必要です。

ルータに必要な設定

- LAN-TA機能の設定

パソコンに必要な設定

- 仮想プライベートネットワークのインストール
- ダイアルアップ接続の設定

## ■ ルータの設定

- 1 ブラウザを開き、本機へアクセスします。  
「ネットワークパスワードの入力」ウィンドウが表示されます。
- 2 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「RT60w へようこそ」が表示されます。

- 3 [かんたん設定] を押します。
- 4 [システム管理] を押します。
- 5 [付加機能] を押します。
- 6 [LAN-TA 機能] を押します。



## 7 [ LAN-TA機能の利用を許可するホスト ]を選択し、接続制限や自動切断を設定します。

[ 付加機能 ]

- [ メール機能 ]
- [ LAN版RVS-COM ]
- [ LAN-TA機能 ]

LAN-TA機能の利用を許可するホスト

LAN-TA機能の利用を許可するホスト [ 同一ネットワーク内であれば許可する ]

IPアドレス指定

LAN-TA機能のISDN番号

ISDN番号 0611110001

サブアドレス

LAN-TA機能の切断タイマ

タイマで通信の有無を監視して自動切断をする

監視秒数 60 秒

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

登録 既定値に戻す

- LAN-TA 機能の利用を許可するホスト  
LAN-TA 機能の利用を許可する範囲を選択します。
- LAN-TA 機能のISDN 番号接続制限  
LAN-TA 機能を使用する自局番号を入力します。
- LAN-TA 機能の切断タイマ  
通信を行っていないときに自動切断するまでの時間を設定します。

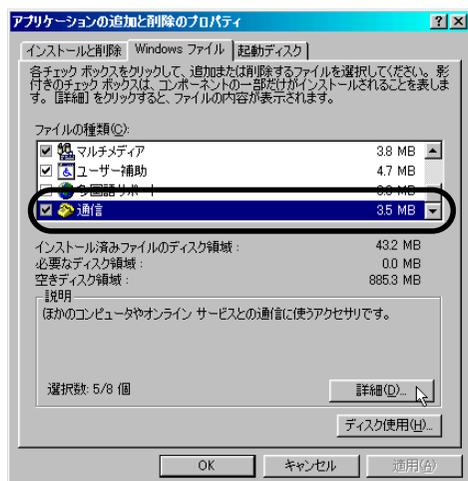
## 8 画面下にある [ 登録 ] ボタンを押します。 メッセージにしたがってボタンを押すと、設定が変更されます。

### ■ 仮想プライベートネットワークのインストール

本機のLAN-TA機能を使用するには、Windowsの仮想プライベートネットワークが必要です。Windows95の場合は、「Microsoft Windows95 ダイアルアップネットワーク1.3アップグレード」を入手して、インストールしてください。手順については、アップデートに添付のマニュアルをご覧ください。Windows98でインストールされていない場合は、次の手順でWindows98 CD-ROM (OSインストールCD-ROM) からインストールします。作業を始める前にシステムCD-ROMをご用意ください。

## 1 [ コントロールパネル ] の [ アプリケーションの追加と削除 ] を開き、[ Windows ファイル ] シートを選択します。 インストール済みのファイルがリストに表示されます。

## 2 [通信] を選択し、[詳細] ボタンを押します。



## 3 [仮想プライベートネットワーク] [ダイヤルアップネットワーク] [ケーブル接続] にチェックを入れて、[OK] ボタンを押します。 通常、[ダイヤルアップネットワーク] [ケーブル接続] は既にチェックされています。 また、3つ以外にチェックが入っていてもかまいません。



## 4 [Windows ファイル] シートの [OK] ボタンを押します。 追加機能がインストールされます。CD-ROM を要求するメッセージが表示された場合は、Windows98 CD-ROM をドライブにセットしてください。

## 5 インストールが終わったら、パソコンを再起動します。 再起動後に、仮想プライベートネットワーク機能が使えるようになります。

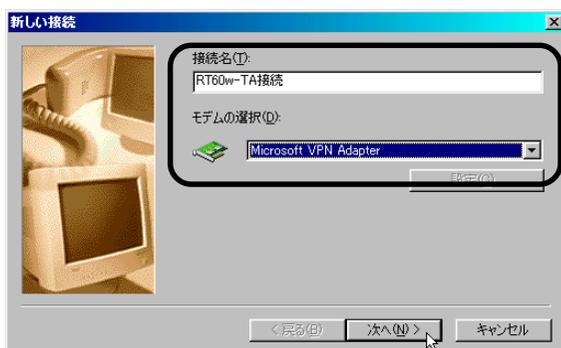
## ■ パソコンのダイヤルアップネットワーク設定

LAN-TA機能を利用する各パソコンには、ダイヤルアップネットワークにLAN-TAにアクセスするためのアイコンを作成します。

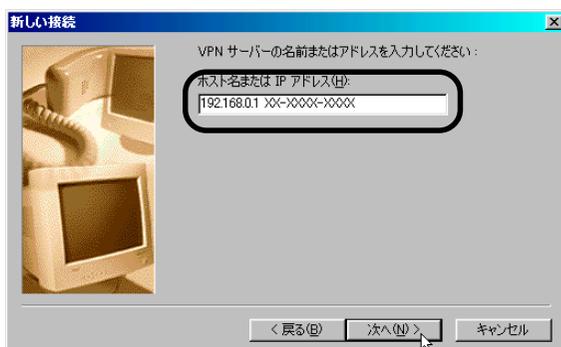
- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、[新しい接続]アイコンを開きます。  
[新しい接続]アイコンがない場合には、「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が現れますので、[次へ]ボタンを押します。



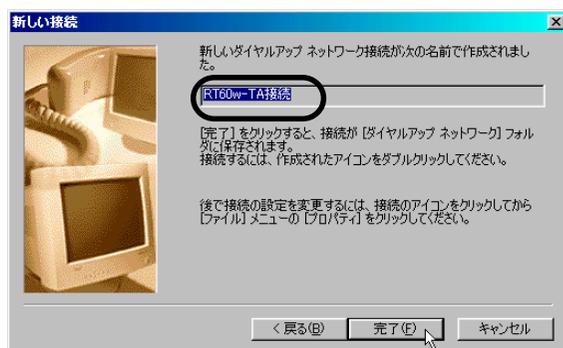
- 2 接続名を入力して[モデムの選択]で[Microsoft VPN Adapter]を選択し、[次へ]ボタンを押します。



- 3 本機のIPアドレスと接続先の電話番号を半角スペース1つ空けて入力し、[次へ]ボタンを押します。



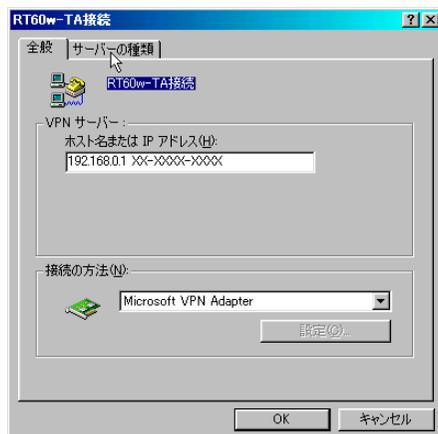
- 4 接続名を確認し、[完了]ボタンを押します。  
「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録した仮想TA接続のアイコンが表示されます。



- 5 LAN-TA 接続のアイコンを選択し、ファイルメニューの[プロパティ]を選択します。



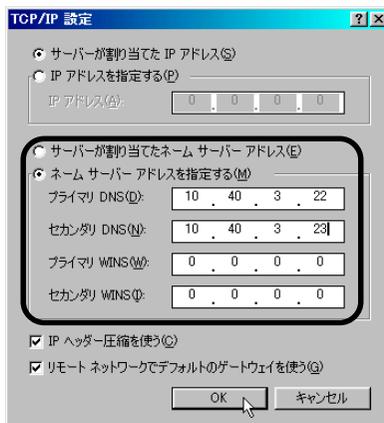
- 6 [サーバーの種類] タブを押します。



- 7 [使用できるネットワーク プロトコル]の[TCP/IP]にチェックを付けて[NetBEUI]と[IPX/SPX 互換]のチェックを外し、[TCP/IP 設定] ボタンを押します。



- 8 [名前サーバーアドレスを指定する]を選択してプロバイダから指定されたIPアドレスを入力し、各ウィンドウの[OK]ボタンを押してウィンドウを閉じます。名前サーバのIPアドレスが指定されていない場合は、[サーバが割り当てた名前サーバアドレス]を選択してください。



これで、LAN-TA 接続の設定が完了しました。

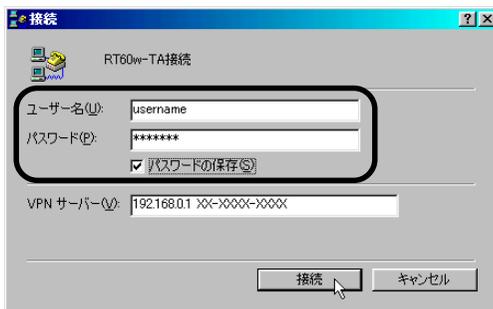
## ■ 接続のしかた

LAN-TAで接続するときは、ダイヤルアップネットワークアイコンで接続します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、LAN-TA 接続のアイコンを開きます。



- 2 [接続] ボタンを押します。



本機へ接続すると、接続名のウィンドウが表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

**MEMO** ・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 目的に応じたソフトウェアを使って、インターネットへアクセスします。

- 4 接続を解除するときは、[切断] ボタンを押します。  
プロバイダとの接続が切れます。





# 第 8 章

## 困ったときは

この章では、うまく動かないときやトラブルが起きたときの対処方法についてを紹介しています。サポート電話をかける前に、一度読んでやってみてください。「つながらない」や「使えない」といった基本的なトラブルについては、一番速い解決方法になるはずです。また、より専門的なトラブルや質問については、NetVolante シリーズのホームページ “ <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/> ” をご覧ください。

8-1	電話がつながらないときは .....	208
8-2	インターネットに接続できないときは .....	211
8-3	通信料金に異常があるときは .....	216
	通信記録の見かた .....	217
	原因になりやすい設定項目 .....	219
8-4	本機の設定を工場出荷設定にもどすには .....	225
8-5	パソコンの IP アドレスをリセットするには .....	226
	Windows 95/98 の場合 .....	226
	Macintosh の場合 .....	227
8-6	最新情報を入手するには .....	228
8-7	最新機能を使うには .....	229
8-8	製品のサポートとサービスについて .....	231
	本機の保証サービスについて .....	231
	ご質問・お問い合わせについて .....	231

## 8-1 電話が繋がらないときは

本機に接続した電話機が使えないときは、次の順序で症状を確認して該当する項目の対処を行ってください。

### ■ ランプがひとつも点灯していない、またはPOWERランプが点滅している

1. 電源スイッチがオンになっていますか？  
オフの場合は、電源スイッチの | 側を押してください。( スタートマニュアル 2-5)
2. 電源コードはコンセントに接続されていますか？  
コンセントから外れているときは、正しく差し込み直してください。
3. 主ブレーカーや配線別ブレーカーがオンになっていますか？  
ブレーカーがオフになっている場合は、オンにしてください。  
ブレーカーがオンになっている場合は、一度オフにしてオンにし直してください。
4. 停電していませんか？  
バックアップ用の乾電池を入れてください。入っている場合は、新品の乾電池と交換してください。  
停電中は、復旧するまでお待ちください。
5. コンセントに電気が来ていますか(他の電気製品をつないで使えますか)？  
他の製品が動かないときは、コンセントや電気配線の修理を依頼してください。  
他の製品が動くときは、本機の修理を依頼してください。

### ■ POWERランプは点灯するが、ISDN L1ランプが点灯しない

1. ISDN 回線に接続していますか？  
本機をアナログ回線のモジュラージャックに接続しても使えません。  
ISDN回線工事は完了しているか確認してください。またはISDN回線のモジュラージャックに本機を接続してください。
2. ISDN 回線の契約内容と接続方法は合っていますか？  
ISDN Uポートに接続している場合は、本機の電源をオフにし、DSUスイッチをON側、極性反転スイッチを逆側にしてから電源スイッチをオンにしてください。( スタートマニュアル 2-2)  
ISDN S/Tポートに接続している場合は、本機の電源をオフにし、DSUスイッチをOFF側、ターミネータスイッチをON側にしてから電源をオンにしてください。( スタートマニュアル 2-2)  
DSUや内蔵DSUを使用しているISDN機器の電源が入っているかを確認してください。( スタートマニュアル 2-2)
3. ISDN 回線の工事は終わっていますか？  
工事が終わっていない場合は使えません。NTTのISDN切り替え工事が終わった後に、本機を接続してください。それまでは、電話機を接続しておいてください。  
電話局側の回線が開通しているか確認してください。

4. 本機の設定を出荷状態にもどしてください  
「8-4 本機の設定を出荷状態にもどすには」( P.225 )を行ったあと、ルータの設定をはじめからやり直してください。  
それでも、L1ランプが点灯しない場合は、本機の修理を依頼してください。

## ■ 電話がかけられない

1. アナログ機器の電源は入っていますか？  
電源が入っていない場合は、アナログ機器の電源コードや電源スイッチを確認してください。
2. アナログ機器は、正しく接続されていますか？  
モジュラーケーブルを一旦外して、カチッと音がするまでしっかりと差し込み直してください。( スタートマニュアル 2-3 )  
他のモジュラーケーブルと取り替えてみてください。
3. アナログポートに実際に接続した機器と設定ページのアナログポート設定内容が合っていますか？  
TELポート毎に設定したとおりに、アナログ機器を接続し直してください。( スタートマニュアル 2-3 )  
「かんたん設定ページ」を開き、電話設定の内容を確認してください。  
( P.37 )
4. B1 ランプと B2 ランプの両方が点灯していますか？  
2チャンネル共使用中なので、電話をかけることはできません。アナログ機器は3つ接続できますが、同時に使えるのは、ルータの接続も含めて2台までです。( スタートマニュアル 4-3 )
5. アナログ親機の電源はオンになっていますか？  
アナログ親機の電源をオンにしてください。機器間アナログ通話機能を使用している場合、アナログ親機の電源がオフだと、アナログ子機で通話することはできません。( P.136 )
6. 受話器を上げると、「プップップッ」という音が聞こえますか？  
擬似着信転送中または通話中転送で2回線分を使っています。強制切断したいときは、フッキングしてください。( P.67 )
7. LCR や superLCR を利用していますか？  
ダイヤルの桁間隔時間を9秒以上に設定してください。( P.27 )

## ■ 電話が着信しない

1. アナログ機器の電源は入っていますか？  
電源が入っていない場合は、アナログ機器の電源コードや電源スイッチを確認してください。( スタートマニュアル 2-4 )
2. アナログ機器は、正しく接続されていますか？  
モジュラーケーブルを一旦外して、カチッと音がするまでしっかりと差し込み直してください。( スタートマニュアル 2-3 )  
他のモジュラーケーブルと取り替えてみてください。

3. 何も接続していないTELポートがありますか？  
アナログ機器を接続していないTELポートは、電話機能設定の「アナログポート使用制限の設定（機能番号14）」を「使用しない」に設定してください。（ P.27）  
「かんたん設定ページ」を開き、着信設定の内容を確認してください。
4. ディスプレイの“L”は消灯していますか？  
ディスプレイの“L”が点灯している場合は、着信転送が設定されているため、着信が転送されています。着信転送を解除してください。（ P.77）
5. B1ランプとB2ランプの両方が点灯していますか？  
2チャンネル共使用中なので、着信できません。アナログ機器は3つ接続できますが、同時に使えるのは、ルータやTA機能での接続も含めて2台までです。（ スタートマニュアル 4-3）
6. 同じ回線に他のISDN機器が接続されていますか？  
他のISDN機器が応答していないか確認してください。
7. お使いの電話機はナンバー・ディスプレイ対応ですか？  
電話機がナンバー・ディスプレイ対応でない場合は、「かんたん設定ページ」の[ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続]を「使用しない」に設定してください。（ P.40）  
電話機がナンバー・ディスプレイ対応である場合は、「かんたん設定ページ」の[ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続]を「使用する」に設定し、電話機のナンバー・ディスプレイ機能を有効に設定してください。  
電話機がキャッチホン・ディスプレイ対応である場合は、「かんたん設定ページ」の[ナンバー・ディスプレイ対応機器の接続]を「キャッチホン・ディスプレイを併用する」に設定し、電話機のキャッチホン・ディスプレイ機能を有効に設定してください。

## ■ FAX やモデムが使えない

1. 通話音量が適切になっていますか？  
通話音量が大きすぎたり、小さすぎたりすると、電話がつながりにくいことがあります。「かんたん設定ページ」や電話機から音量レベル(PAD調整)値を変更してください。（ P.25, 37）
2. アースコードは接続していますか？  
アースコードが正しく接続されていないと、通信にノイズが入り、つながりにくくなる場合があります。必ず、アースコードで本機のアース端子とコンセントのアース（接地）端子を接続してください。（ スタートマニュアル 2-4）

## 8-2 インターネットに接続できないときは

ダイヤルアップルータ機能でインターネットへ接続できないときは、先に電話機が使えることを確認してから、次の順序で症状を確認して該当する項目の対処を行ってください。

### ■ LAN ランプが点灯しない

1. HUB やパソコンの電源がオンになっていますか？  
オフの場合は、オンにしてください。LANポートに機器を正しく接続しても、オフのときは、LANランプが点灯しません。
2. LAN1 ポートに接続していますか？  
パソコンのLANポートまたはHUBのUPLINKポートと接続している場合は、HUBスイッチを×側にしてください。( スタートマニュアル 2-7)  
HUBの通常ポートと接続している場合は、HUBスイッチを=側にしてください。( スタートマニュアル 2-7)
3. 正しく接続されていますか？  
本機側、パソコンおよびHUB側共にコネクタを一旦外し、もう一度カチッとロックするまで差し込んでください。( スタートマニュアル 2-7)
4. お使いのケーブルは、LAN用のケーブルですか？  
ISDNケーブルのときは取り替えてください。コネクタ形状が全く同じなので注意が必要です。  
わからないときは、他のLANケーブルと取り替えてみてください。

### ■ 無線LANがつながらない

1. 無線LANカード/ボードは正常ですか？  
無線LANカード/ボードのマニュアルを読んで、正常に動作していることを確認してください。
2. ESS-ID、WEP機能の設定はルータとパソコンとで合っていますか？  
ルータのESS-ID、WEP機能の設定値を確認してください。( スタートマニュアル 3-6)  
各パソコンのESS-ID、WEP機能の設定値を確認してください。( スタートマニュアル 3-6)  
ルータをリセットして、設定を最初からやり直してください。  
( スタートマニュアル 2-5)
3. チャンネルの設定はルータとパソコンとで合っていますか？  
無線LANカード/ボードによっては、14チャンネルすべてが使えないものがあるので、無線LANカード/ボードで使用できるチャンネルに合わせて本機のチャンネル設定値を変更してください。( スタートマニュアル 3-6)
4. MACアドレス制限機能が設定されていますか？  
ルータに接続したいパソコンのMACアドレスを登録してください。  
( ユーザーズマニュアル 6-3)  
不要ならばルータのMACアドレス制限機能を解除してください。  
( ユーザーズマニュアル 6-3)

5. 近隣でRT60w を使っていませんか？  
使っている場合や不明な場合は、チャンネルを3つ以上離れたチャンネルに設定し直してください。( スタートマニュアル 3-6)
6. 接続確認が取れている無線 LAN カード / ボードを使っていますか？  
使用可能な無線 LAN カード / ボードについては、NetVolante シリーズホームページで確認してください。( P.228)
7. 本機とパソコンの間に遮蔽物はありませんか？  
本機やパソコンの位置や向きを変えて、電波状態の一番良い位置に設置してください。  
電子レンジなど、電磁波を発生する機器が影響しない位置に本機やパソコンを移動してください。
8. 本機の無線モードがオフになっていませんか？  
本機の無線モードをアクセスポイントまたはステーションに設定します。

## ■ かんたん設定ページが開けない

1. LAN 上の他のパソコンやネットワークプリンタは使用できますか？  
LAN ボードや LAN カードの設定をやり直して再起動してください。  
Windows の場合は、TCP/IP のアドレスをリセットしてください。( P.226)  
Macintosh の場合は、TCP/IP の経由先を Ethernet、アドレス取得先を DHCP サーバに設定してから、設定を保存してください。( スタートマニュアル 3-5)
2. ルータの IP アドレスを変更しましたか？  
本機に設定した IP アドレス “ http:// ( 本機の IP アドレス ) / ” にアクセスしてください。  
本機の IP アドレスを変更した場合は、本機と LAN に接続しているすべてのパソコンを再起動してください。再起動またはオフにできないときは、パソコンを1台だけ本機に接続し、それ以外の LAN ケーブルを取り外してから、本機とパソコンの電源をオンにしてください。  
( スタートマニュアル 3-3)  
本機の IP アドレスを変更した場合は、パソコンの設定が同じ IP アドレス範囲になっていることを確認してください。また、他の機器と IP アドレスが重なっていないか確認してください。
3. ルータの URL は合っていますか？  
本機を初めて使うときや工場出荷値にもどした後は、“ http://192.168.0.1/ ” にアクセスしてください。
4. ブラウザの接続経路設定は LAN 経由になっていますか？  
Internet Explorer の場合、[ インターネットオプション ] の [ 接続 ] シートでダイヤルアップ接続をする設定になっていると、「かんたん設定ページ」にアクセスできません。[ ダイヤルしない ] に変更してください。

## ■ かんたん設定ページのパスワードが通らない

1. 「かんたん設定ページ」を一度も開いていませんか？  
「8-4 本機の設定を出荷状態にもどすには」( P.225 )を行ったあと、もう一度、パスワードの設定からやり直してください。パスワードは大文字小文字も区別しますので、設定したパスワードを間違えないように入力してください。
2. すでにパスワードが設定されていますか？  
本機の設定を行ったルータ管理者にご相談ください。  
設定したパスワードを忘れてしまったときは、「8-4 本機の設定を出荷状態にもどすには」( P.225 )を行ったあと、ルータの設定をはじめからやり直してください。
3. パスワードエラーが表示されますか？  
パスワードは、全角/半角や大文字/小文字の違いも判定します。必ず半角の英数字で大文字/小文字も正確に入力してください。  
ブラウザ認証情報(ユーザ名、パスワード)が残っていると、それを自動的に送信するため、エラーになります。ユーザ名を削除し、パスワードを入力し直すか、ブラウザを一旦終了してから「かんたん設定ページ」を開き直してください。

## ■ 設定内容が元にもどってしまう

1. プロバイダの設定を行ったときに [登録] ボタンを押しましたか？  
「かんたん設定ページ」で設定を変更したときは、必ず [登録] ボタンを押して設定を保存してください。[登録] ボタンを押さないままページを閉じると、設定内容は保存されません。

## ■ プロバイダに電話をかけ始めない

1. お使いのパソコンから「かんたん設定ページ」を開けますか？  
パソコンを再起動してください。  
Windowsの場合は、TCP/IPのアドレスをリセットしてください。( P.226 )
2. 本機に自動接続先のプロバイダ情報を登録しましたか？  
「かんたん設定ページ」で接続するプロバイダの情報を設定してください。  
「かんたん設定ページ」で自動接続設定をオンにし、接続するプロバイダを選択して下さい。
3. L1 ランプは点灯していますか？  
ISDN 回線の接続状態を確認してください。
4. B1 ランプと B2 ランプの両方が点灯していますか？  
アナログ機器で2回線分を使っている場合は、インターネットへ接続できません。アナログ機器の回線使用状態を確認してください。

5. 累積料金はいくらになっていますか？

プロバイダ累積料金や累積接続時間、累積発信回数が接続制限値に達していると、プロバイダ接続ができなくなります。意図しない接続や異常課金がないことを確認してから、「かんたん設定ページ」またはボタン操作でプロバイダの累積料金をリセットしてください。接続できるようになります。( スタートマニュアル 44)

## ■ プロバイダに電話をかけているが、つながらない

1. 「かんたん設定ページ」の「端末型プロバイダ接続」ページで「最後の通信」欄に「接続できません。電話番号を確認してください。」が表示されていますか？

プロバイダの接続情報書類を確認し、[ 登録の修正 ] ボタンを押して正しいプロバイダの通信速度とISDN対応電話番号を入力し直してください。番号違いやアナログ専用アクセスポイントの電話番号の場合は接続できません。( スタートマニュアル 3-2)

2. 「かんたん設定ページ」の「端末型プロバイダ接続」ページで「最後の通信」欄に「IDまたはパスワードの認証に失敗しました。」が表示されていますか？

プロバイダの接続情報書類を確認し、[ 登録の修正 ] ボタンを押して正しいユーザIDとパスワードを入力し直してください。

Macintoshの場合は、TCP/IPの経路先が正しく設定されているか確認してください。

Windowsで専用線接続の場合は、ゲートウェイ情報にルータのアドレスが設定されているか確認してください。

3. 「かんたん設定ページ」の「端末型プロバイダ接続」ページで「最後の通信」欄に「相手が話中です」が表示されていますか？

プロバイダのアクセスポイントが混んでいるので、少し待ってからかけ直してください。

ISDN対応電話番号をもう一度確認してください。

他のアクセスポイントがある場合は、別の番号を設定してください。

## ■ プロバイダにはつながっているが、ホームページが表示されない

1. プロバイダ設定のネームサーバアドレスは合っていますか？

本機をルータとして使用している場合、本機のプロバイダ接続設定にネームサーバアドレスが設定されているか確認してください。

本機をルータとして使用している場合、各パソコンのネームサーバアドレス設定に本機のIPアドレスを入力し、パソコンを再起動してください。WWWサーバやネームサーバが運休しているかもしれませんので、しばらく時間をおいてからアクセスし直してください。

## ■ 128 kbit/s (MP 接続) で接続できない

### 1. プロバイダとMP接続の契約をしていますか？

MP接続するには、プロバイダが対応している必要があります。詳しくは、ご利用のプロバイダへお問い合わせください。

プロバイダにより、別途MP接続契約が必要な場合があります。詳しくは、ご利用のプロバイダへお問い合わせください。



#### 注意

・MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2回線目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

### 2. MP対応の電話番号になっていますか？

MP接続するには、MP接続対応の電話番号(アクセスポイント)にかけないと、つながりません。プロバイダの接続情報書類を確認し、MP接続対応の電話番号に設定し直してください。



#### 注意

・MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2回線目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

### 3. 端末型プロバイダ接続の設定でMPを使用する設定になっていますか？

MP接続するには、プロバイダの[登録の修正]ボタンを押し、「オプション設定」ページで「MPを使用する」に設定してください。( P.151 )

### 4. 「MP関連」の設定で「通信の負荷に応じてチャネル数を増減させる」を選択していますか？

「通信の負荷に応じてチャネル数を増減させる」を設定している場合、通常は1チャネルのみ接続される状態で正常です。データ通信量が多くなると、自動的に2チャネル接続となります。( P.151 )

### 5. B1とB2ランプが両方とも点灯していますか？

両方とも点灯している場合は、MP接続されています。インターネットの通信量やサーバの状態により、常に128kbit/sのデータ通信速度が保証されているわけではありませんので、あらかじめご了承ください。

## 8-3 通信料金に異常があるときは

自動接続機能でインターネットへ接続している場合で、料金情報や通信記録を見て使った覚えのない通話料金があった場合は、パソコンのソフトウェアや機器が自動的にインターネットへアクセスしている疑いがあります。ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコン使用中に自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があります。放置すると、多額の通話料金になる場合がありますので、こまめに料金や通話記録を確認してください。

次のような場合は、ご注意ください。

本機を使い始めた時

本機のプロバイダ接続設定を変更した時

LAN-TA機能利用時にパソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時

MP 接続を設定した時

Real Player をインストールした時

パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時

本機のファームウェアをリビジョンアップした時

無線 LAN の設定を変更した時

機器間アナログ通話機能の設定を変更した時

その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など

### 注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定( LAN-TA接続利用時 )の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・MP 接続に対応していないプロバイダに対して、MP 接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2 回線目が発信とエラーを繰り返し、多額の料金を請求される場合があります。

### MEMO

- ・ここで使用している画面や設定項目は、各ソフトウェアのバージョンにより内容が異なります。

# 通信記録の見かた

## ■ 料金 / 通信記録ページ

「料金 / 通信記録」ページでは、各ポート毎の累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数、通信毎の履歴を調べることができます。

料金情報 [料金設定]

通信種別	最後の通信 料金	累積 料金	累積 接続時間	累積 発信回数	累積 着信回数
プロバイダ1(PP01) Provider1 選択中	10円	40円	00:09:41	4回	0回
LAN間接続(PP02) RemoteUser	0円	0円	00:00:00	0回	0回
アナログポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
ISDN-DCP	0円	0円	00:00:00	0回	0回
LAN-TA機能	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計		50円	00:10:22	5回	0回

アナログポート (機器間アナログ通話をしている機器の各アナログポートの料金情報)

TEL1ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
TEL2ポート	0円	10円	00:00:41	1回	0回
TEL3ポート	0円	0円	00:00:00	0回	0回
合計		0円	00:00:00	0回	0回

着信転送履歴 [電話設定]

着信転送の履歴はありません

メール着信数 [メール設定]

メール着信確認は設定されていません

メール転送履歴 [メール設定]

メール転送は設定されていません

通信履歴

日付	時刻	通信種別	通信時間	料金	切断コード	通信相手
1	2000/08/08 20:38:16	PP01:発信	00:02:58	10円	552	XXXXXXXXXX
2	2000/08/08 20:24:13	PP01:発信	00:02:57	10円	552	XXXXXXXXXX
3	2000/08/08 20:23:09	TEL3:発信	00:00:41	10円	0	117

### 料金情報

プロバイダごとの累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数が表示されています。

### 通信履歴

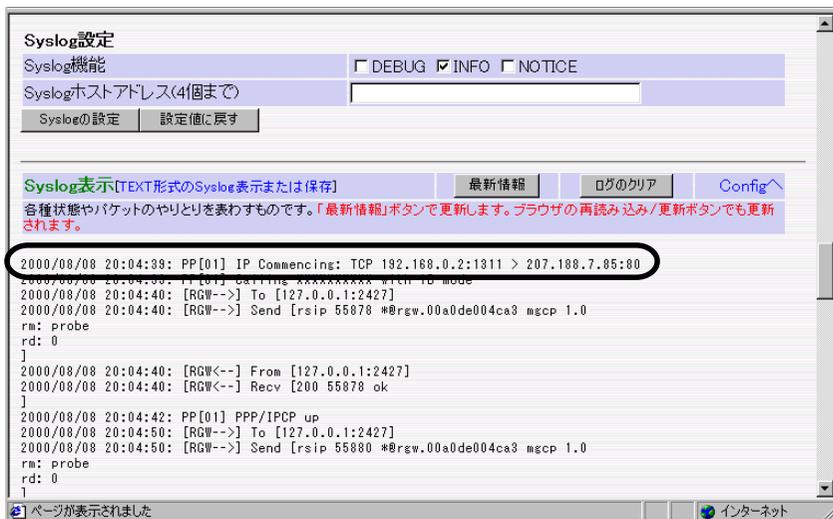
発着信日付、発着信時刻、通信種別、通話時間、通話料金、切断コード、相手先の番号が新しい順に100件まで記録されています。通信種別がPPxxとなっている通話が、プロバイダ(またはLAN間接続相手)へ接続した通話です。

## ■ ログ情報の見かた

「システム管理」の「内部情報」ページでは、自動接続のきっかけになったアクセスの情報を Syslog 表示で調べることができます。

意図しないアクセスが多いときは、Syslog 表示の中で一番下から順に "IP Commencing" の行を探していきます。IP Commencing 行のパソコン IP アドレス、アクセス先ホストの IP アドレスやアクセス時間(もしくは間隔)などを手がかりに、どのアプリケーションソフトもしくは機器がアクセス要求を出しているかを調べて原因を探してください。

### アクセス例 1



PP[01] IP Commencing : TCP 192.168.0.2 : 1311 > 207.188.7.85 : 80  
プロバイダ番号            パソコンの IP アドレス    アクセス先の IP アドレス

上記のアクセス例では、LAN 内のパソコン ( 192.168.0.2 ) からインターネットのホスト ( 207.188.7.85 ) へのアクセス要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

### アクセス例 2

PP[01] IP Commencing: UDP 192.168.0.2:1024 > DNS サーバ:53  
(DNS Query [windowsupdate.microsoft.com])

上記のアクセス例では、LAN 内のパソコン ( 192.168.0.2 ) から DNS サーバへインターネットのホスト ( windowsupdate.microsoft.com ) の IP アドレスを調べる問い合わせ要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

## 原因になりやすい設定項目

不審なインターネットアクセスの原因になる設定項目には、次のようなものがあります。OSを使い始めるときや、新しいソフトウェアをインストールしたときは、例を参考に設定を見直してください。

### ■ 頻繁に発信している場合

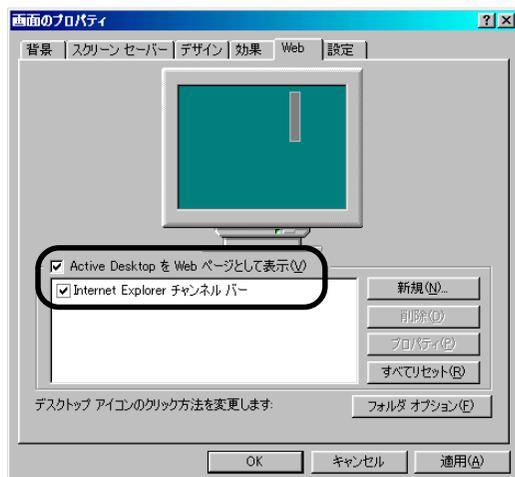
パソコンのネットワーク設定のDNS設定値を確認してください。インターネット上のDNSサーバのIPアドレスが指定されていると、頻繁にアクセスする場合があります。

### ■ パソコンを起動するたびに発信している場合

アクティブデスクトップを表示している場合、表示の設定内容により、起動する度にインターネットへアクセスしている場合があります。また、パソコン起動時に自動的に開くソフトウェアが有る場合は、[スタート]ボタンの[スタートアップ]項目を確認してください。スタートアップに登録されているソフトウェアの設定を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

#### コントロールパネルの [画面] 設定

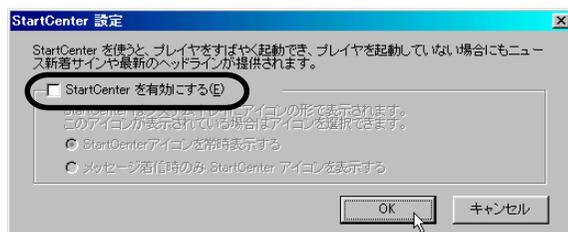
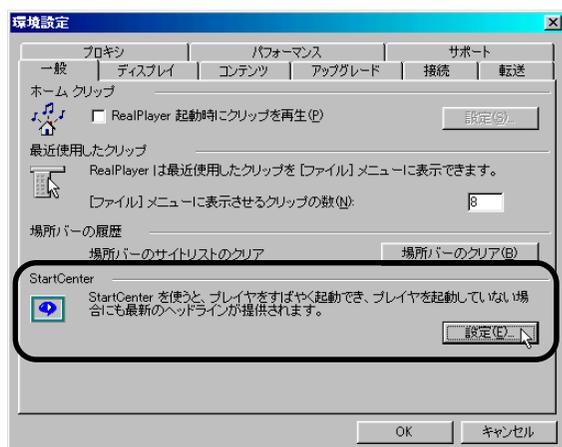
WindowsのデスクトップにWebページを設定していると、パソコンを起動するたびにインターネットへアクセスし、Webページ内容が更新されます。その度に料金がかかります。必要なければ、設定を解除してください。



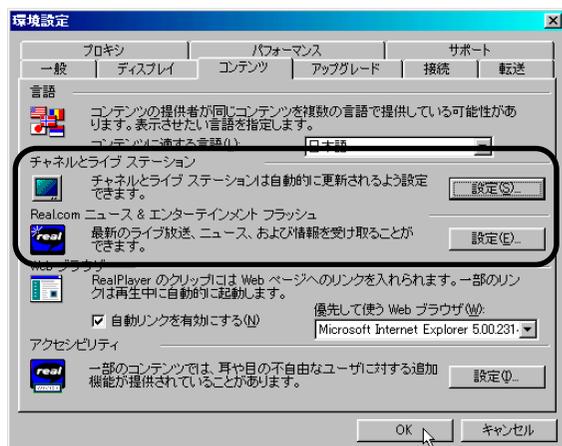
## RealPlayer の環境設定

[ 一般 ] シートの StartCenter を有効にしていると、パソコンを起動するたびにインターネットへアクセスし、[ コンテンツ ] シートで指定したチャンネルなどの最新情報が更新されます。このアクセスは、RealPlayer を使わなくても行われ、その度に料金がかかります。必要なければ設定を解除してください。

### [ 一般 ] シート



### [ コンテンツ ] シート



## ■ 定期的に発信している場合

1日に何回も発信している場合は、Internet Explorerのチャンネルを購読している場合やWindows updateを利用している場合、メールの自動送受信が設定されている場合などが考えられます。各パソコンの該当するソフトウェア設定を確認してください。

1日に数回以内の場合は、ハードウェアのメンテナンスプログラムやNTPサーバ（インターネット自動時刻サーバ）の設定を確認してください。

### ホームページのバナー広告

バナー広告が掲載されているホームページでは、何も操作しなくても定期的に自動更新する場合があります。そのページを開いたままブラウザを放置すると、定期的にインターネットへアクセスし続け、その度に料金がかかります。見終わったらブラウザを閉じることで、不要なアクセスを防ぐことができます。

### 購読チャンネルのプロパティ

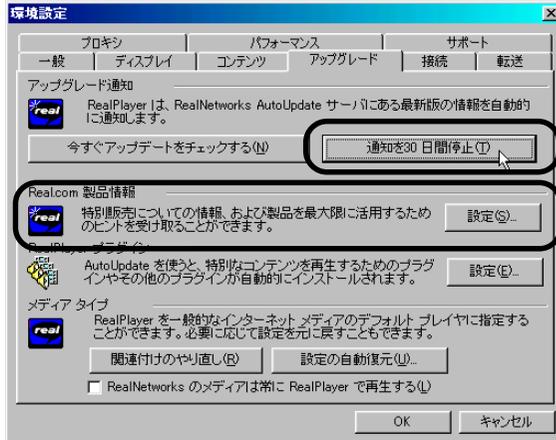
Internet Explorerのチャンネルを購読している場合は、プロパティで指定した間隔で、チャンネル内容の更新のためインターネットへアクセスします。その度に料金がかかります。購読する場合は更新間隔をよく確認してお使いください。不要な場合は、設定を解除してください。



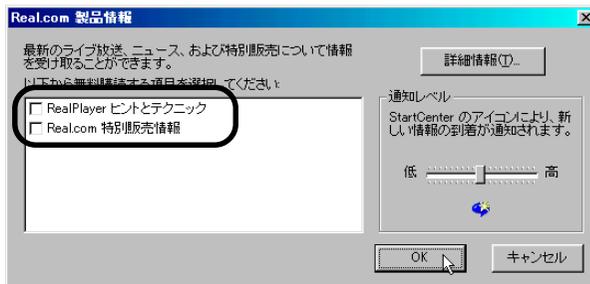


## RealPlayer の環境設定

RealPlayer をインストールすると、アップグレード情報を得るために RealPlayer を開く度にインターネットにアクセスします。その度に料金がかかります。必要な場合は、[アップグレード]シートの[通知を30日間停止]ボタンを押すと、30日間はアクセスしなくなります。アクセスしない日数がカウントダウンされますので、ときどきチェックして[通知を30日間停止]ボタンを押し直してください。(完全に解除することはできません。)



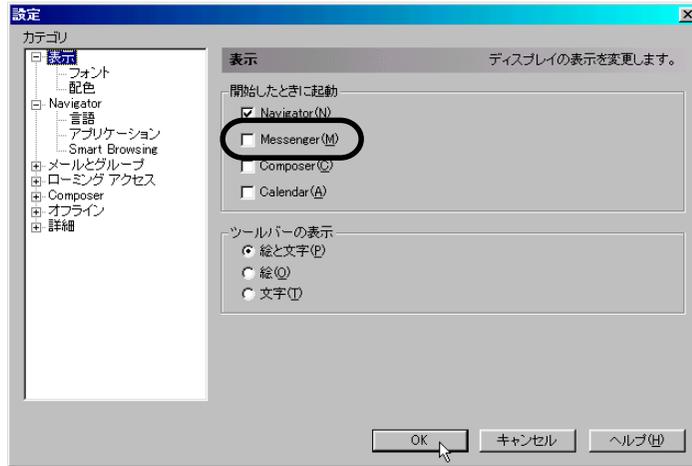
また、Real.com 製品情報がチェックされていると、製品情報を得るために RealPlayer を開く度にインターネットにアクセスします。その度に料金がかかります。必要な場合は設定を解除してください。



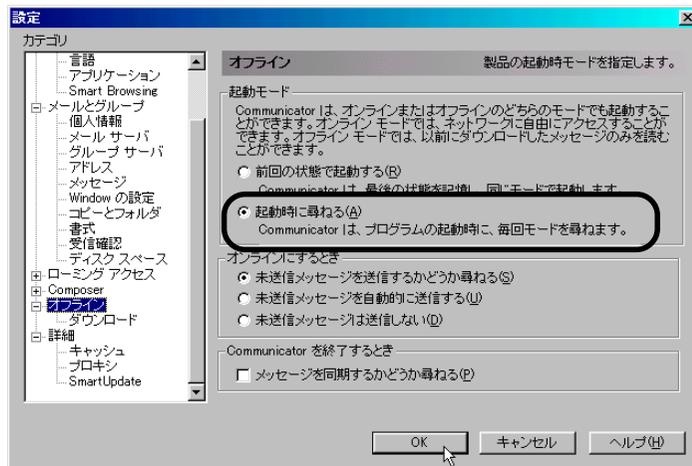
## Netscape Communicator の設定

Netscape Communicator をインストールすると、Messenger のウィンドウを開くときに必ず Netscape の広告ページを読み込むため、インターネットにアクセスします。その度に料金がかかります。

Netscape Messenger を使っていない場合は、最初に開くウィンドウの設定で Messenger のチェックを外します。



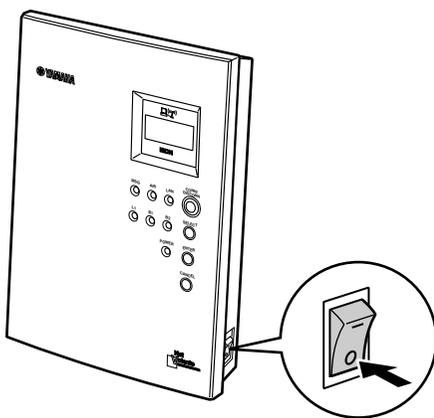
Netscape Messenger を使っている場合や意図しない接続を止めたい場合は、[ オフライン ] の [ 起動モード ] を [ 起動時に尋ねる ] に設定し、オフラインで起動してください。（自動的にオフラインで起動する設定はありません。）



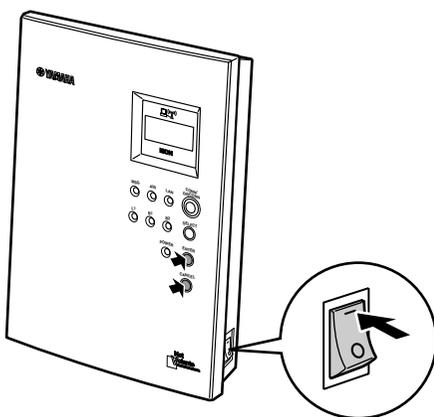
## 8-4 本機の設定を工場出荷設定にもどすには

本機の設定内容を工場出荷設定にもどしたいときは、次の操作を行ってください。

- 1 本機の電源スイッチをオフにします。



- 2 [ENTER] ボタンと [CANCEL] ボタンを押しながら、電源スイッチをオンにします。ディスプレイに「コウジョウシュッカ ジョウタイ ニ セッテイ」が表示されます。一旦「RT60w」とリビジョン番号が表示された場合は、2つのボタンがしっかり押されていません。電源をオフにしてやり直してください。



- 3 ディスプレイに「コウジョウシュッカ ジョウタイ ニ セッテイ」が表示されたら、[ENTER] ボタンと [CANCEL] ボタンを放します。出荷時の設定内容にもどります。設定はすべてクリアされますので、最初からやり直してください。

## 8-5 パソコンのIPアドレスをリセットするには

LAN やインターネットへのアクセスができないときは、DHCP サーバによる LAN 内 IP アドレス自動割り当てで、IP アドレスが重複している場合があります。そのときは、次のような操作を行ってください。

**MEMO** ・固定アドレスで重複している場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

### Windows 95/98 の場合

#### ■ 現在の IP アドレスを確認する

- 1 起動ディスクの Windows フォルダ内にある [ Winipcfg.exe ] アイコンを開き、使用中の LAN カード名を選びます。



現在パソコンに割り当てられている IP アドレスが表示されます。

#### ■ IP アドレスをリセットする

- 1 LAN カード名を選び、[ 解放 ] ボタンを押します。  
現在パソコンに割り当てられている IP アドレスが表示されます。



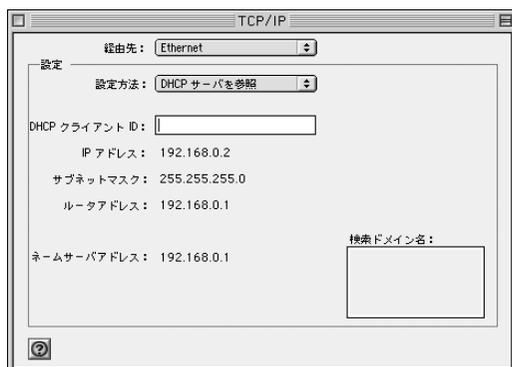
- 2 [ 書き換え ] ボタンを押します。  
他のパソコンと重複しないプライベート IP アドレスに更新されます。



## Macintosh の場合

### ■ 現在の IP アドレスを確認する

- 1 コントロールパネルの [ TCP/IP ] を開きます。  
現在パソコンに割り当てられている IP アドレスが表示されます。



### ■ IP アドレスをリセットする

- 1 Macintosh を再起動します。  
割り当てられていたプライベート IP アドレスがリセットされます。

**MEMO**

- ・コントロールパネルの [ TCP/IP ] を開いて経路先を [ Ethernet ] 以外に設定して保存し、もう一度コントロールパネルの [ TCP/IP ] を開いて経路先を [ Ethernet ] に設定し直すことで、DHCP サーバから割り当てられたプライベート IP アドレスをリセットすることもできます。

## 8-6 最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手することができます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

### ■ NetVolante シリーズのホームページ

本機や NetVolante シリーズに関する最新情報をご覧ください。

<http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

### ■ NetVolante シリーズの FAQ

本機や NetVolante シリーズに関する Q&A をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/FAQ/>

### ■ NetVolante シリーズのリビジョンアップ情報

本機や NetVolante シリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/RevUpper.html>

### ■ RT シリーズのホームページ

RT シリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

### ■ RT シリーズソフトウェアのダウンロードサーバ

RT シリーズのルータに関するソフトウェアの FTP サーバです。

<ftp.rtpro.yamaha.co.jp>

## 8-7 最新機能を使うには

本機に内蔵のファームウェアは、NetVolanteシリーズのホームページから最新のをダウンロードして、本機の機能を最新にすること(リビジョンアップ)ができます。

### ■ リビジョンアップのしかた

リビジョンアップは次の手順で行います。ここでは、Windows98を例に説明しています。



**注意**

- ・リビジョンアップを始めたら、完了して本機が再起動するまで絶対に何も操作をしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。
- ・RT-RevUpper(リビジョンアップ・プログラム)をダウンロードするためには、インターネットへの接続が必要です。それに伴った電話料金とプロバイダ接続料金がかかります。

**1** ブラウザを開き、アドレス入力欄に“<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/RevUpper.html>”を入力して、[ enter ] キーを押します。  
本機のリビジョンアップ情報のホームページが表示されます。

**2** リビジョンアップの内容をよく読み、お使いのOS用のRT-RevUpper(リビジョンアップ・プログラム)をダウンロードします。

**MEMO**

- ・WindowsおよびMacintosh以外のOSやRT-RevUpperが正しく動作しない場合は、tftp用バイナリファイルをダウンロードし、「かんたん設定ページ」の「システム管理」-「内部情報」ページのコマンド入力で“tftp host any”を実行してから、tftpソフトでリビジョンアップを行ってください。

**3** ダウンロードしたRT-RevUpper(リビジョンアップ・プログラム)のアイコンを開きます。

- 4 リビジョンアップするルータの IP アドレスを確認し、[ 開始 ] ボタンを押します。  
複数の RT60w を使用している場合は、IP アドレスを選択してください。



指定した IP アドレスを検索し、リビジョンアップ可能なルータの場合は、パスワード入力画面が表示されます。

- 注意** ・必ず RT60w の IP アドレスを選択してください。間違えて他機種の IP アドレスを選択すると、そのルータが使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

- 5 ルータのパスワードを入力し、[ 実行 ] ボタンを押します。  
リビジョンアップが始まります。リビジョンアップが完了すると、本機は自動的に再起動されます。



- 6 本機の再起動が終わったら、[ 終了 ] ボタンを押します。

- 7 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」にアクセスしてリビジョンを確認します。  
リビジョン番号は、「かんたん設定ページ」のタイトルバーや「システム管理」の [ 内部情報 ] ページで確認できます。

## 8-8 製品のサポートとサービスについて

### 本機の保証サービスについて

本機や本機の付属品に不良があった場合は、すぐにご購入の販売店へご連絡ください。また、通常のご使用で故障が発生した場合は、保証期間中は無償にて修理いたします。ご購入の販売店またはヤマハサービス窓口へご連絡ください。また保証期間後は、有料にて修理いたします。

なお、保証期間中の修理には、保証書が必要です。ご購入時に「お買い上げ年月日」と「販売店名」の記入をご確認の上、保証書をお受け取りください。保証書がない場合は、保証期間内であっても有料となります。

保証期間： ご購入から 1 年間

### ご質問・お問い合わせについて

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

ネットボランチコールセンター

RT60w 専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く 9時～12時、13時～17時

電子メールでのお問い合わせ

Web お問い合わせページ：<http://NetVolante.rthro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス：[support@volante.rthro.yamaha.co.jp](mailto:support@volante.rthro.yamaha.co.jp)



# 付録

付録では、CD-ROMに収録されているマニュアルを読むためのソフトウェアのインストール方法や本機の仕様、用語集を収録しています。

Acrobat Reader について.....	234
Acrobat Reader のインストール .....	234
Acrobat Reader の使いかた .....	235
仕様.....	236
切断コード一覧表.....	237
用語集 .....	244
索引.....	251

## Acrobat Reader について

付属の CD-ROM に収録されている PDF 形式の説明書を読むときは、"Acrobat Reader" が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、付属の CD-ROM から Acrobat Reader をインストールしてください。

### ■ Acrobat Reader のインストール

#### Windows 95/98 の場合

- 1 付属の CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブ内の [ Utility ] - [ Acrobat ] フォルダの [ ar405jpn.exe ] を開きます。  
インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Reader をインストールします。

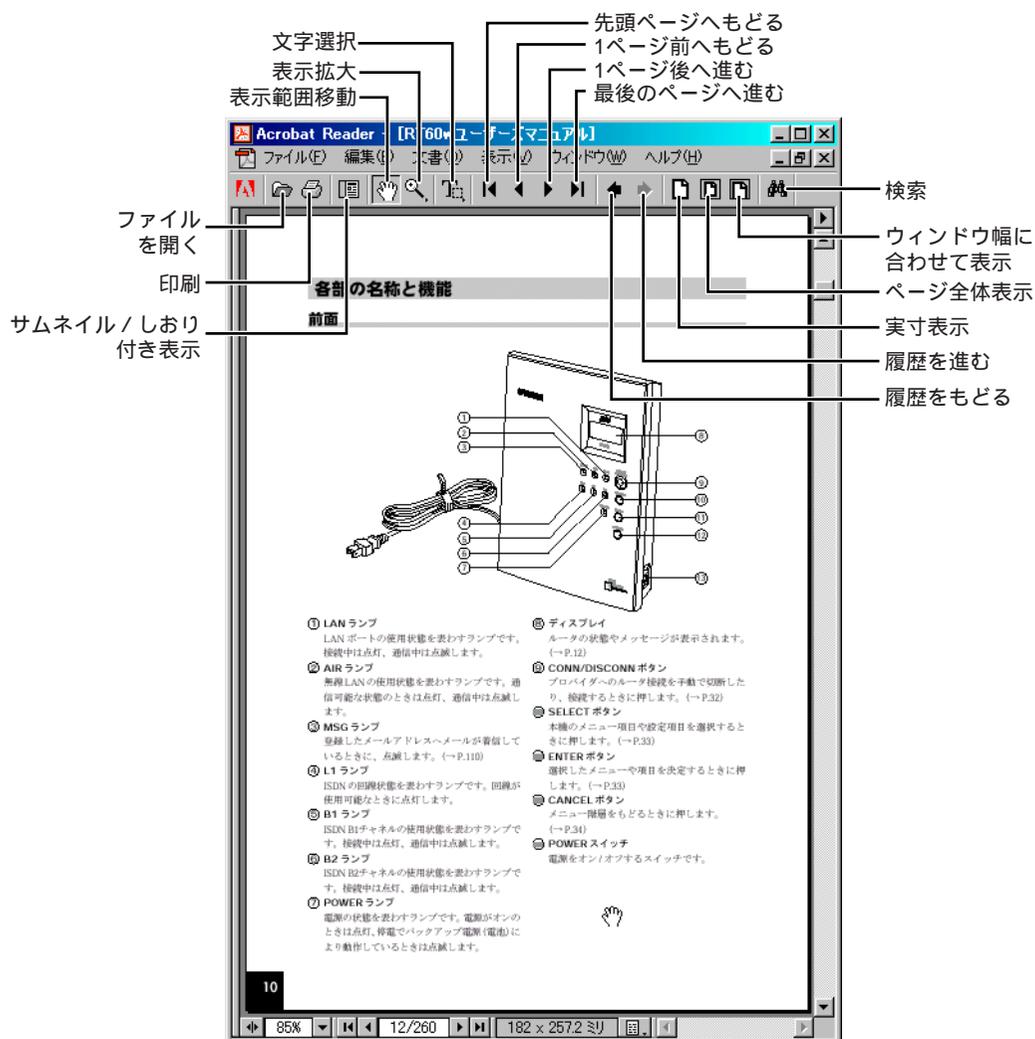
#### Macintosh の場合

- 1 付属の CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブ内の [ ユーティリティ ] - [ Adobe Acrobat Reader ] フォルダの [ Japanese Reader Installer ] アイコンを開きます。  
インストーラのウィンドウが開いたら画面のメッセージに従い、Acrobat Reader をインストールします。

## ■ Acrobat Reader の使いかた

本機の説明書は、Windows 95/98ではCD-ROMの[ Manual ]フォルダ、MacintoshではCD-ROMの[ マニュアル ]フォルダ内に収録されています。PDF形式の説明書のアイコンを開くと、「AcrobatReader」ウィンドウに説明書が表示されます。

Acrobat Readerには、次のような機能ボタンがあります。詳しい操作の説明については、Acrobat Readerのヘルプをご覧ください。



## 仕様

寸法 :	164(W) x 229mm(H) x 101mm(D) (突起物を除く)
質量 :	950g (乾電池を除く)
電源 :	AC100V (50/60Hz) 消費電力 最大 10W 単3型アルカリ乾電池 8本 (停電時 TEL 1ポート使用可)
動作環境条件 :	周囲温度 0 ~ 40 周囲湿度 15 ~ 85% (結露しないこと)
保管環境条件 :	周囲温度 -10 ~ 50 周囲湿度 10 ~ 90% (結露しないこと)
WAN インタフェース :	ISDN または デジタル専用線 (RJ-11, DSU機能内蔵) x 1
S/T インタフェース :	入出力切替可能 (RJ-45) x 1
アナログインタフェース :	2線式 (RJ-11) x 3 (供給電圧 -48V) PB, DP (10PPS, 20PPS) 自動認識
LAN インタフェース :	イーサネット 10BASE-T x 4 (UPLINKスイッチ付き)
無線インタフェース :	準拠規格 IEEE802.11b (11Mbit/s 無線 LAN) RCR STD-33, ARIB STD-T66 (小電力データ通信システム) 伝送方式 DS-SS 方式単信 (半二重) 伝送速度 1、2、5.5、11Mbit/s 周波数範囲 2400 ~ 2497MHz 伝送距離 屋内約 25m、屋外約 50m (11Mbit/s 時) * 伝送距離は遮蔽物や使用環境により短くなる場合があります。
表示機能 :	LED x7 (MSG, L1, B1, B2, LAN, AIR, POWER) ディスプレイ (14桁 x2行、バックライト付き)
操作ボタン :	4

## 切断コード一覧表

0	通信中または正常切断
1	欠番 存在しない番号に発信した。相手先番号に間違いがある。
2	指定中継網へのルートなし 相手先番号への中継網が存在しないかサービスを提供していない。相手先番号に間違いがある。
3	相手へのルートなし 網が相手先番号へ着信を受け付けない。相手先番号に間違いがある。
6	チャンネル利用不可 選択したBチャンネルが使用できない。すでに2つのBチャンネルが使用されている可能性がある。
16	正常切断
17	着ユーザビジー 発信した相手がすでに他の端末と通信中で通信できない。相手が話中。
18	着ユーザレスポンスなし 発信したが規定時間内に何の反応も返ってこなかった。相手の電源が切れているか、相手先番号が間違っている可能性がある。
19	着ユーザ呼出中 / 応答なし 発信した相手から呼出 (ALERT) による反応があったが、その後規定時間内に応答の反応がなかった。相手先番号が間違っている可能性がある。
20	加入者不在 移動局と無線交信行なえない。相手の携帯電話などの電源が入っていないか圏外にいる。
21	通信拒否 何らかの理由で相手端末が着信を拒否した。ISDN関係のパラメータの不整合がある。相手先番号が間違っている可能性がある。また、相手側が着信可能な設定になっているか確認する。
22	相手加入者番号変更 相手の番号が変更されている。相手先番号に間違いがある。

- 26 選択されなかったユーザの切断復旧  
着信に対して応答したが、他の端末の方が早く応答しており、自端末の応答は選択されなかった。
- 27 相手端末故障中  
相手端末の電源OFFや故障、回線抜けなどにより相手インタフェースの起動不可。通信中に電源をいきなり落した時など。
- 28 無効番号フォーマット（不完全番号）  
相手先番号に間違いがある。
- 30 状態問合せへの応答  
網からの状態問合せに対する応答を示す。
- 31 その他の正常クラス
- 34 利用可回線 / チャンネルなし  
利用可能な回線 / Bチャンネルがない。すでに2つのBチャンネルが使用されている可能性がある。
- 38 網故障  
網に比較的長時間続きそうな障害が発生した。しばらく使用を見合わせる必要がある。
- 41 一時的失敗  
網に比較的長時間続きそうもない障害が発生した。再発信で接続できる可能性がある。
- 42 交換機輻輳  
網に障害（交換機が高トラフィックで輻輳）が発生した。しばらく使用を見合わせる必要がある。
- 43 アクセス情報廃棄  
網が要求されたアクセス情報を相手に届けることができなかった。しばらく使用を見合わせる必要がある。
- 44 要求回線 / チャンネル利用不可  
要求した回線 / Bチャンネルが相手側のインタフェースで提供できない。すでに2つのBチャンネルが使用されている可能性がある。
- 47 その他のリソース使用不可クラス
- 49 QOS（サービス品質）利用不可  
要求されたQOSが提供されない。（RT/RTAでは通常表示されない）

- |    |  |
|----|--|
| 50 | 要求ファシリティ未契約<br>要求された付加サービスが提供されない。付加サービスに契約せずに、端末に付加サービスの設定がされている可能性がある。 |
| 57 | 伝達能力不許可<br>許可していない伝達能力が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)                          |
| 58 | 現在利用不可伝達能力<br>利用不可である伝達能力が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)                       |
| 63 | その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス   |
| 65 | 未提供伝達能力指定<br>サポートしていない伝達能力が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)                      |
| 66 | 未提供チャンネル種別指定<br>サポートしていないチャンネル種別が要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)                |
| 69 | 未提供ファシリティ要求<br>提供していない付加サービスが要求された。(RT/RTAでは通常表示されない)                    |
| 70 | 制限デジタル情報伝達能力のみ可能<br>非制限デジタルを要求されたが、制限デジタルのみサポートしている (RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 79 | その他のサービスまたはオプションの未提供クラス  |
| 81 | 無効呼番号使用<br>使用中のものとは異なる呼番号のメッセージを受信した。(RT/RTAでは通常表示されない)                  |
| 82 | 無効チャンネル番号使用<br>使用できないチャンネル番号を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)                     |
| 83 | 指定された中断呼識別番号未使用<br>中断された呼とは異なる呼番号で再開しようとした。(RT/RTAでは通常表示されない)            |
| 84 | 中断呼識別番号使用中<br>再開の可能性がある呼に対して中断を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)                   |

- |     |   |  |
|-----|---|--|
| 85  | 中断呼なし   | 再開の可能性のある呼以外の呼に対して再開を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 86  | 指定中断呼切断復旧済                                      | すでに切断した呼に対して再開を要求した。(RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 88  | 端末属性不一致   | 端末属性が一致しない端末に発信した。またはそのような端末からの着信を受け取った。<br>相手先番号が間違っている可能性がある。例えば、自側が同期PPPで相手側がアナログモデムの場合のように、双方での端末属性の設定に不一致がある。 |
| 91  | 無効中継網選択   | 誤ったフォーマットの中継網識別を受信した相手先番号が間違っている可能性がある。  |
| 95  | その他の無効メッセージクラス                                  |  |
| 96  | 必須情報要素不足  | 必要な情報要素が不足していた。不正な相手からの着信を受け取った。(RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 97  | メッセージ種別未定義または未提供                                | 認識できないメッセージを受信した。不正な相手からの着信を受け取った。(RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 98  | 呼状態とメッセージ不一致又は、メッセージ種別未定義又は未提供網との間で状態の不一致が発生した。 | ルータを再起動する必要がある。  |
| 99  | 情報要素未定義   | 未定義の情報要素を受信した。(RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 100 | 情報要素内容無効  | 情報要素の内容に誤りがある。(RT/RTAでは通常表示されない)   |
| 101 | 呼状態とメッセージ不一致                                    | 網との間で状態の不一致が発生した。ルータを再起動する必要がある。   |
| 102 | タイマ満了による回復                                      | レイヤ3でのタイムアウトが発生した。   |
| 111 | その他の手順誤りクラス                                     |  |

- 127 その他のインタワーキングクラス
- 
- 112 L2 リンクの設定に失敗した  
モジュラーケーブルの接続などを確認する必要がある。
- 
- 545 相手が呼出中のまま応答せずにタイムアウトした  
相手先番号が間違っている可能性がある。
- 
- 548 コールバック手順に成功して相手からコールバックされるのを待っていたがタイムアウトした  
相手先番号が間違っている可能性がある。
- 
- 549 コールバック手順の中でタイムアウトした  
相手先番号が間違っている可能性がある。
- 
- 552 切断タイマ ( isdn disconnect time ) による切断  
正常切断。
- 
- 553 出力切断タイマ ( isdn disconnect output time ) による切断  
正常切断。
- 
- 554 入力切断タイマ ( isdn disconnect input time ) による切断  
正常切断。
- 
- 556 Fast Data 切断タイマ ( isdn fast disconnect time ) による切断  
正常切断。
- 
- 557 強制切断タイマ ( isdn forced disconnect time ) による切断  
正常切断。
- 
- 769 コールバックの応答がなかった  
コールバック手順での問題。相手先番号が間違っている可能性がある。
- 
- 770 コールバックの応答に失敗した  
コールバック手順での問題。相手先番号が間違っている可能性がある。
- 
- 772 回線コネクタ抜けにより発信失敗
- 
- 774 再発信禁止条件により発信失敗  
しばらくしてから再発信すれば接続できる。
- 
- 780 累積課金による発信制限により発信失敗  
通信履歴などで「意図しない接続」が行なわれていないことを確認後  
累積課金情報をクリアする。

- 781 累積接続時間による発信制限により発信失敗  
通信履歴などで「意図しない接続」が行なわれていないことを確認後  
累積接続時間情報をクリアする。
- 782 累積発信回数による発信制限により発信失敗  
通信履歴などで「意図しない接続」が行なわれていないことを確認後  
累積発信回数情報をクリアする。
- 1025 PIAFS 接続でネゴシエーション失敗  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1026 PIAFS 接続でRTFが範囲を超えている  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1027 PIAFS 接続でT001 タイムアウト  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1028 PIAFS 接続でT002 タイムアウト  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1029 PIAFS 接続でT003 タイムアウト  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1030 PIAFS 接続でT101 タイムアウト  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1031 PIAFS 接続でリンク解放受付 K 回送出済  
相手がPIAFSに対応していないか、または無線区間を含む回線状態が  
良くない可能性がある。
- 1281 PPP 手順においてLCP タイムアウト  
設定誤りの可能性がある。
- 1282 PPP 手順においてIPCP タイムアウト  
設定誤りの可能性がある。
- 1296 コールバックによる接続が拒否された  
設定誤りの可能性がある。

- 1297 相手による認証が拒否された  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1298 自分が認証を拒否した  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1299 相手の認証に失敗した  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1300 相手に認証させるのに失敗した  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1301 相手に認証させるのに失敗した回数が多すぎるため発信できない  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1302 相手の認証でタイムアウトした  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1303 相手に認証させるのにタイムアウトした  
設定誤りの可能性がある。
- 
- 1304 MP に失敗した回数が多すぎるため発信できない  
設定誤りの可能性がある。
-

## 用語集

### 10BASE-T

イーサネットの規格の一つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度のものを表します。本機のLANポートは10BASE-T対応です。

### 100BASE-TX

イーサネットの規格の一つで、ツイストペアケーブルを用いた、100Mbit/sの速度のものを表します。本機のLANポートは100BASE-TXには対応していませんが、ほとんどの100BASE-TX対応機器は接続相手が10BASE-Tか100BASE-TXかを自動判別するので、そのような機器には本機を接続できます。

### AT コマンド

米国 Hayes 社が開発したモデムの制御コマンドです。コマンドがすべて「AT」で始まるのが特徴です。

### Acrobat

アドビ・システムズ社が開発した、コンピュータ上で文書を電子的に取り扱うことのできるツールです。Acrobat が取り扱う文書はPDF ファイルと呼ばれ、文書閲覧用ソフトである Acrobat Reader で自由に閲覧することができます。

### BIOS

パソコンのハードウェアの設定を行うことができる、もっとも基本的なソフトです。

### BOD

必要に応じて通信速度を変更する機能です。MP 接続を利用する場合、通信量の増減やアナログ電話の使用の有無に応じてBチャンネルの数を増減させることができます。

### B チャンネル

ISDN でデータ通信のために用いられるチャンネルです。NTT の INS ネット 64 では2Bチャンネルが、INS ネット 1500 では23Bもしくは24Bチャンネルが利用できます。

### CHAP

PPP でのユーザ認証の方式の一つです。CHAP ではパスワードを回線上に流さないの、たとえ回線を盗聴されてもパスワードがばれないという特徴があります。

### DCE

コンピュータとモデムやTAを使った通信システムの中で、モデムやTAのことを総称してDCEと呼びます。

### DHCP

コンピュータが起動するためのさまざまな情報をコンピュータ自体には持たず、サーバからネットワーク経由で受け取るためのプロトコルです。

### DIN

DINとはドイツ工業規格(日本のJISに相当)するものですが、DINで規定されているコネクタのことをDINコネクタと呼ぶことがあります。Macintoshのモデム/プリンタポートにはDIN9pinコネクタが使われています。

### DNS

インターネットで用いられる名前空間をドメインという階層で分散管理するためのシステムのことです。インターネットで用いられる名前には、ホスト名、メールサーバ名、ネームサーバ名、IPアドレスなどの種類があります。DNSを使うことでホスト名をIPアドレスに効率的に変換することができます。

### DP

電話で発信する時に、電話機から電話局に送信する信号の一種です。

### DSU

ISDNで、電話局から家庭/事務所までの電話線の、家庭/事務所側に設置する装置のことです。DSUは1本の電話線に必ず1つだけ必要です。

### DTE

コンピュータとモデムやTAを使った通信システムの中で、コンピュータのことを総称してDTEと呼びます。

### D-sub

シリアル通信用コネクタの俗称で、台形(英文字のDに似た形)をしています。本機ではピンが9本あるD-sub9Pinタイプを使っています。Windowsパソコンでは、本機と同じD-sub9Pinタイプと、ピンが25本あるD-sub25Pinタイプのどちらかが使われます。

## D チャンネル

ISDN で発着信の制御などのために用いられるチャンネルのことです。

## ESS-ID

各無線 LAN のネットワークを識別するためのグループ名です。

## FreePPP

Macintosh で、古い MacOS を利用する場合に、PPP 通信を可能にするフリーソフトです。「MacTCP 機能拡張書類」とあわせて利用します。

## FTP

ファイルをさまざまなコンピュータ間で転送するためのプロトコルです。FTP サービスを提供する側を FTP サーバ、FTP サービスを利用する側を FTP クライアントと呼びます。

## HTML

ドキュメント記述言語であり、通常の文章の中にタグを埋め込んでいく方式をとります。他のドキュメントへのリンクを持つことができるのが最大の特長で、それゆえに「ハイパーテキスト」と呼ばれることがあります。WWW ページを記述する言語として広く利用されています。

## HTTP

HTML を転送するためのプロトコルです。WWW ブラウザで URL を入力したり、リンクをクリックしたりすると、HTTP を使って WWW サーバからパソコンの WWW ブラウザへ HTML 文書が転送されます。転送された HTML 文書は WWW ブラウザによって解釈して画面に表示されます。

## HUB

10BASE-T や 100BASE-TX のポートを多数持ち、その間で通信を可能にする装置のことです。

## ICQ

ネットワーク上のパソコン間で簡単にメッセージをやりとりできるインスタントメッセージングソフトのことです。インターネットでも簡単に利用できます。ICQ の名前の由来は「I seek you」と読めるから、ということだそうです。

## Internet Explorer

Windows や MacOS に標準でついてくるブラウザソフトのことです。

## IP

インターネットで使用されるプロトコルです。IP を中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルが、下位には通信回線寄りのプロトコルが積み重なることで全体としてインターネットを構築しています。

## IPX/SPX

ノベル社のネットワーク OS、NetWare のために開発されたプロトコルです。

## IP アドレス

インターネットでそれぞれのコンピュータを識別するためにつけられるアドレスです。

## IP マスカレード

NAT の中でも特に TCP や UDP のポート番号を変換することにより、1 つの IP アドレスで複数のホストを動作させる技術のことです。

## ISDN

電話、FAX、データ通信など複数ある通信ネットワークを統合する、次世代の基本通信ネットワークです。日本では NTT などにより INS ネット 64 などのサービスが行われています。

## L1 ランプ

ISDN 回線が電氣的に接続されている状態を示すランプです。

## LAN

屋内に限定するなど、比較的狭い範囲でコンピュータを接続するネットワークのことです。

## LAN 型ダイヤルアップ

2 つ以上の孤立した LAN を、ISDN などのダイヤルアップ回線で接続することです。

## MAC アドレス

ネットワーク上の識別番号です。各ネットワーク機器に固有の番号が設定されています。

## MAC アドレスフィルタ

無線 LAN に接続を許可する機器を MAC アドレスで制限する機能です。

## MP

PPP で、複数のリンクを束ねてより高速の通信回線を擬似的に得るためのプロトコルのこと。ISDN では、MP によって 2 つの B チャンネルを束ねて 128kbit/s 相当の通信ができるようになります。

## NAT

IPパケットのIPアドレスなどを途中のルータで書き換える技術のことです。グローバルIPアドレスの世界であるインターネットとプライベートIPアドレス空間との間で通信できるようにすることができます。

## NetBEUI

Windowsで使われるネットワークプロトコルです。

## NTP

ネットワーク上でコンピュータの時計をあわせるためのプロトコルです。多くのプロバイダはNTPサーバを動作させているので、そこに時間合わせをさせるようにすると、コンピュータの時計を正確な時刻に保てます。

## OpenTransport/PPP

Macintoshで、MacOS 7.5.3以降に標準添付されている、ダイヤルアップ機能ソフトです。TA接続の場合はこれを使ってインターネットへ接続します。

## OutlookExpress

WindowsやMacOSに標準でついてくるメールソフトです。

## PAP

PPPでのユーザ認証の方式の一つです。PAPではパスワードがそのままの形で回線上に流れます。

## PB

電話機が電話をかける時に、ダイヤルボタンに応じて発する音のことです。いわゆる「ピポパ」です。

## PDF

Acrobat

## POP3

メールサーバからメールを受信するためのプロトコルです。

## PPP

ISDNなどの通信回線上で、IP通信を行うための下回りを担当するプロトコルです。データの圧縮を行ったり、接続の時には相手を確認するユーザ認証を行うことで、知らない相手からの接続を拒否するような機能を持っています。

## PPTP

LAN上の特定の機器間でPPPパケットを通すためのプロトコルです。本機にこの機能に対応しており、LAN上のWindowsパソコンから本機をTAとして使用することができます。

## RVS-COM

ドイツRVS社が開発した、Windows 95/98/NT4.0用FAXソフトです。日本では、メガソフト株式会社が販売しています。RVS-COM2000を利用すると、FAXモデムを使わなくても本機経由でFAXの送受信が行えます。

## S/Tポート

4線式のISDN回線ポートです。本機に内蔵のDSUを利用する場合、このポートに他のISDN機器を接続して使うことができます。本機のDSUを利用しない場合には、このポートに外づけのDSUを接続します。

## TA

ISDNに対応していない装置をISDNに接続するための装置のことです。一般に、単にTAと言った場合には、RS-232Cのデータ用シリアルポート経由でパソコンをISDNに接続するための装置のことを言います。TAにはその他に、電話機やモデムなどのアナログ回線用端末を接続するためのアナログTAがあります。

## TCP

IPの上で、データが確実に相手に届くことを保証するためにあるプロトコルのことです。多くのアプリケーションはTCP上に構築されています。

## TCP/IP

インターネットで使用されるプロトコル全体の総称です。

## TELNET

他のコンピュータを遠隔操作するためのプロトコルです。本機もTELNETにより遠隔操作することができます。

## TFTP

ファイル転送プロトコルの一種で、FTPに比べて簡単な仕組みで実現されています。本機のファームウェアのリビジョンアップにはTFTPを利用しています。

## UDP

IPに、アプリケーションを識別するためにポート番号を指定する機能を付け加えるプロトコルです。

## UPLINK

HUBを、より上位のHUBに接続するためのポートのことです。



## サーバ

ネットワーク上でいろいろなサービスを提供するコンピュータのことです。WWWサーバ、DHCPサーバ、FTPサーバ、ネームサーバ、メールサーバなどがあります。

## サブアドレス

ISDNでは、1本の回線に複数のISDN端末を接続することができます。そのため、電話番号の他に相手を特定するためのサブアドレスを指定することができます。サブアドレスは、ISDNの他にPHSでも利用できます。

## 識別着信

電話番号を登録し、その電話番号から電話がかかってきた時に着信するかどうかを指定できる機能です。登録した番号からの着信は受け取らなかつたり、反対に登録した番号からの着信だけができるようにしたりすることができます。

## 終端抵抗

ISDNのS/Tポートに複数の機器を接続した時に、一番端の機器に接続するものです。これが適切に接続されていないと、ISDNが誤動作を起こすことがあります。

## ステーション（無線）

RT60wをどうしを無線で接続する場合のクライアント側のRT60wのことです。

## 静的IPマスカレード

IPマスカレードを利用する時には、外部からのアクセスができなくなりますが、静的IPマスカレードを利用すると外部からのアクセスをできるように設定できます。

## 切断タイマ

データ通信が一定時間行われなかった時に、ISDN回線を切断するためのタイマです。

## 専用線

特定の相手と、常に通信できるようになっている回線のことです。利用するためにはNTTなどの通信事業者に申し込みます。

## ダイヤルアップ

プロバイダのアクセスポイントに電話をかけて、インターネットに接続することです。

## ダイヤルイン

1本のISDN回線に複数の電話番号を割り当てることです。ダイヤルインを利用するには、NTTなどの通信事業者に申し込みます。

## ダイヤルトーン

電話で、受話器を上げた時にツーと聞こえる音です。電話機のダイヤルはダイヤルトーンが聞こえてから回し始めます。

## ターミネータ

終端抵抗

## 端末型ダイヤルアップ

パソコン1台だけをダイヤルアップによりインターネット接続することです。LAN型ダイヤルアップとは異なり、端末型では事前にパソコンにIP関係の設定は必要ありません。

## 通信中着信通知

ISDNのサービスの一つで、2Bとも通信中で空きチャンネルがない状態でも着信があったらそれを通知する機能のことです。ISDN端末側では、通信中着信通知を受けてそれを着信させる場合には、現在使用中の通信を切断して、そちらの着信を行います。

## ドメイン名

インターネット上の組織名をあらわす名前のことです。例えば、「yamaha.co.jp」はドメイン名です。DNSで利用されます。

## トーン回線

アナログの電話回線で、PBにより発信できる回線のことです。

## ナンバー・ディスプレイ

着信した時に、どこから着信したかを通知してくれる機能のことです。INSネット64では、アナログの電話回線からの着信を通知させるには、INSナンバー・ディスプレイの契約がNTTとの間で必要です。アナログの電話回線以外（ISDN、携帯電話、PHSなど）からの着信では契約はいりません。

## 認証

接続相手を確認することです。パスワードを確認するのがもっとも一般的な方法で、PPPではPAPやCHAPを使ってパスワードを確認します。

## 認証番号

ISDN回線に接続する装置として届け出て、確認を受けたことを証明する番号で、装置の種類毎に存在します。ISDN回線の契約書に記入しなければいけないことがあります。

## ネットマスク

IPアドレスと論理積をとるとネットワークアドレスが得られるようなビット列のことをいいます。ネットマスクは最上位ビットから連続して1が続き、あるところから最下位ビットまで0が続く形なので、最上位ビットから1が続いている長さでネットマスクを表すことができます。これをネットマスク長といいます。本機の設定では、ネットマスクはすべてネットマスク長で設定します。ネットマスクの設定を間違えるとまったく通信できなくなってしまうことがあるので注意が必要です。

## ネットワークアドレス

ネットワークを識別するためのIPアドレスです。あるネットワークに所属するホストのIPアドレスはすべて、上位部分はネットワークアドレスと一緒になくてはなりません。

## ネットワークゲーム

ネットワークを用いて不特定の相手や遠隔地の相手と対戦することのできるゲームのことです。インターネットの普及とともにネットワークゲームが愛好されるようになってきています。

## ネームサーバ

DNSで、名前とIPアドレスなどの変換を行うためのサーバです。ネームサーバだけは名前で指定できないので、必ずIPアドレスで指定しなくてはなりません。

## パケット

IPで取り扱うデータの1単位のことです。IPではすべてのデータはパケットという単位で扱われます。パケットはデータグラムと呼ばれることもあります。

## 発信者番号通知

電話をかける時に、自分の電話番号を相手に知らせる機能のことです。

## パルス回線

アナログの電話回線で、DPの回数で発信する電話番号を指定する回線のことです。

## ビジートーン

電話で、相手が話中などの時に聞こえる音「ツー、ツー」です。

## ファームウェア

本機に内蔵されていて、本機の動作を制御するソフトのことです。ファームウェアをヤマハのWWWサイトからダウンロードし本機をリビジョンアップすることで、購入後でも最新の機能を利用することができます。

## フィルタ

ルータはパケットを転送する時に、パケットの内容によっては転送せずに捨ててしまう機能のことです。フィルタを適切に設定することで外部からの侵入を阻止したり、必要のない発信を止めたりすることができます。

## フッキング

電話機のフックスイッチ(受話器を置くところにあるスイッチ)をポンと押してすぐ話す操作のことです。最近の電話機ではフックスイッチとは別にフッキングするためのボタンが用意されていることもあります。フッキングはフレックスホンの操作を行う時に使います。

## ブラウザ

WWWサーバからHTML文書を手し、表示する機能を持ったソフトのことです。代表的なものには、Internet ExplorerやNetscape Communicatorがあります。

## ブリッジ

パケットのIPアドレスをチェックせず、他のネットワークにすべて転送する装置です。本機は無線LANと有線LANのブリッジ機能は持っています。

## フレックスホン

NTTの提供するサービスで、INSキャッチホン、三者通話、通話中転送、着信転送の4つの総称です。

## フロー制御

データ通信で、相手の状態にあわせてデータの送信を止めたり再開したりする機能です。シリアル通信であるRS-232Cでは、RS/CSフロー制御(ハードフロー制御)とXON/XOFFフロー制御(ソフトフロー制御)の2種類があります。

## ブロードキャスト

ネットワーク全体のホストへパケットを送信することです。そのようなことができるアドレスをブロードキャストアドレスと呼びます。

## プロトコル

通信を行う時の規約のことです。

## プロバイダ

インターネットサービスプロバイダの略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことです。接続に必要なアクセスポイントの整備や、インターネットで必要なIPアドレスの取得代行サービスなどを行います。

## ホスト

IPでは、ホストはIP的に接続されているすべてのコンピュータのことを指します。

## ポート番号

TCP や UDP でアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWはTCPの80番、メールはTCPの25番です。サービスを提供するサーバ側のポート番号はアプリケーションによって決まっていますが、そこに接続に行くクライアント側のポート番号はその時々によって変わります。

## ホームページ

WWWサイトの一番入口のページを指します。

## メールサーバ

メールを送信したり、受信したメールを蓄えておくサーバのことです。

## モデム

パソコンのシリアルポートやモデムポートに接続して、アナログ回線経由で通信を行うための装置です。

## 優先着信

同じ電話番号で複数のTELポートに着信する場合、指定したTELポートを先に鳴らす機能です。

## ユーザ間情報通知

ISDNの発着信の時に、同時に情報を相手に伝えることができるサービスです。

## ユーティリティソフト

本機を使用することを手助けするソフトです。パソコンにインストールして利用します。本機では、パソコンのネットワークの設定を簡単に行える「RT60w パソコンセットアップユーティリティ」などが付属しています。

## リビジョン

本機に内蔵されるファームウェアの版のことです。バージョンともいいます。新しいリビジョンのファームウェアを本機に送り込むことをリビジョンアップといいます。

## リモートセットアップ

ルータから、ISDN回線経由で別のルータの設定を行う機能のことです。ヤマハのRTシリーズ同士であれば利用できます。

## ルータ

パケットのIPアドレスに基づいて適切な方向へパケットを転送する機能を持つ装置のことです。ゲートウェイともいいます。

## レイヤ 1 起動種別

ISDN回線に端末を接続した時に、ISDN回線に常に信号を流しておくか、実際に通信している時だけ信号を流しておくかの種類の違いです。それぞれ常時起動、呼毎起動といい、ISDN回線の契約時に指定することができます。

## ログ

装置の状態や動作の記録を時間順に記録したものです。

## ログアウト

装置へのアクセスを終わることです。

## ログイン

TELNETなどで装置へのアクセスを始めることです。

## ログインパスワード

本機にログインするためのパスワードです。設定を行うことはできませんが、接続状態やログを見ることができます。

# 索引

## 英数字

128kbit/s 接続	151
Acrobat Reader	234
の使いかた	235
AIR ランプ	10
B1 チャンネル表示	12
B1 ランプ	10
B2 チャンネル表示	12
B2 ランプ	10
[ CANCEL ] ボタン	10, 33
[ CONN/DISCONN ] ボタン	10, 32
DHCP サービス	132
DNS	14
DSU スイッチ	11
[ ENTER ] ボタン	10, 33
ESS-ID	120, 130
FAX 機器	96
FAX モデム	97
FTP サーバ	228
ICQ ソフト	196, 198
Internet Explorer	222
IP アドレス	14, 16, 131
IP アドレスのルール	17
IP マスカレード機能	15
ISDN S/T ポート	11
ISDN U ポート	11
ISDN 付加サービス	20
L1 ランプ	10
LAN 間接続	164
LAN-TA	198
LAN1 ポート表示	12
LAN2 ポート表示	12
LAN3 ポート表示	12
LAN4 ポート表示	12
LAN 型ダイヤルアップ接続	15
LAN 間接続	18
LAN スイッチ	11
LAN ポート	11
LAN ランプ	10
MAC アドレス	11
MP 接続	151

MSG ランプ	10, 110
NAT 機能	15, 17
Netscape Communicator	224
Outlook Express	222
PDF 形式	235
POWER スイッチ	10
POWER ランプ	10
RealPlayer	220, 223
[ SELECT ] ボタン	10, 33
TA 機能	19
TA 接続のインターネット接続操作	
Windows	189
TCP/IP	14
TEL1 ポート表示	12
TEL2 ポート表示	12
TEL3 ポート表示	12
TEL ポート	11
TERM スイッチ	11
WEP	120

## ア行

アース端子	11
インターネット	14
インターネット接続のトラブル	211

## カ行

各部の名称	10
仮想プライベートネットワーク	200
かんたん設定ページのトラブル	212
機器間アナログ通話	122, 136
擬似キャッチホン	59
擬似三者通話	68
擬似着信転送	73
擬似通信中転送	64
キャッチホン	59
極性反転スイッチ	11
グローバル IP アドレス	16
工場出荷設定	225
コンソールコマンド	46

## サ行

サーバの公開設定	191
最新情報	228
サブネットマスク	16
サポート	231
三者通話	68
識別着信機能	85
自動アップデート	219
自動接続の設定	34
自動接続表示	12
手動接続	32
仕様	236
手動切断	32
ステーション	132
静的IPマスカレード	191, 196
製品サポート	228, 231
設定方法の種類	24
切断コード	237
専用線接続	15
ソフトウェアのダウンロード	228

## タ行

ターミネータスイッチ	11
ダイヤル回線	96
端末型ダイヤルアップ接続	15
着信拒否	85
着信転送	73
着信転送の解除	77
着信転送表示	12
着信ベル音	81
チャンネル	221
通信記録	41, 217, 218
通話中着信	59
通信中転送	64
通信料金	42
のトラブル	216
使えない	207
つながらない	207
電源コード	11
電池ボックス	11
電話	
のトラブル	208
を受ける	54

電話機からの設定操作	25
電話機による設定機能一覧表	29
電話機による設定例	27
電話番号登録	79
トーン回線	96
トラブル	207

## ナ行

内線	
へ転送する	56
をかける	55
ナンバーディスプレイ	83
認証番号	11
ネームサーバ	14
ネットワークアドレス	17
ネットワークゲーム	196

## ハ行

パソコン毎の接続先設定	157
パソコンのIPアドレスリセット	226
パルス回線	96
ファームウェア	229
フィルタ定義	177
複数プロバイダの自動接続	154
不審な自動接続	216
フッキング	56
プッシュ回線	96
プライベートIPアドレス	16
のリセット	226
プライベートIPアドレスの設定	
Macintosh	159
Windows	157
ブラウザ設定項目一覧表	43
ブラウザによる設定操作	37
フレックスホン	20
ブロードキャストアドレス	17
プロバイダ接続制限の解除	147
プロバイダ接続制限の設定	144
ホームページ	228
保証サービス	231
ボタン設定機能一覧表	36
ボタンによる設定操作	32

## マ行

無線 LAN .....	123
無線モード .....	129
メールアドレス登録 .....	107
メール専用の接続先設定 .....	155
メール着信 .....	110, 113
メール着信確認機能 .....	106
メール着信転送 .....	113
メール着信転送停止 .....	116
メール着信表示 .....	12
メール転送表示 .....	12
メッセージ表示 .....	12

## ラ行

リセット .....	225
リモートアクセス .....	178
リモートアクセスユーザの登録 .....	166
リモートセットアップ .....	48
ルータ .....	14
の IP アドレス設定 .....	162
ルータ機能 .....	19
累積課金 .....	33







## 製品サポートのご案内

### ■ 最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手することができます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

NetVolante シリーズのホームページ

本機や NetVolante シリーズに関する最新情報をご覧ください。

<http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

NetVolante シリーズの FAQ

本機や NetVolante シリーズに関する Q&A をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/FAQ/>

NetVolante シリーズのリビジョンアップ情報

本機や NetVolante シリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT60w/RevUpper.html>

RT シリーズのホームページ

RT シリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

RT シリーズソフトウェアのダウンロードサーバ

RT シリーズのルータに関するソフトウェアの FTP サーバです。

<ftp.rtpro.yamaha.co.jp>

### ■ ご質問・お問い合わせについて

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

ネットボランチコールセンター

RT60w 専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く 9時～12時、13時～17時

電子メールでのお問い合わせ

Web お問い合わせページ: <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス: [support@volante.rtpro.yamaha.co.jp](mailto:support@volante.rtpro.yamaha.co.jp)

# ヤマハ株式会社

ネットボランチコールセンター  
RT60w専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く9時～12時、13時～17時

電子メールでのお問い合わせ

Webお問い合わせページ: <http://NetVolante.rtrpro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス: [support@volante.rtrpro.yamaha.co.jp](mailto:support@volante.rtrpro.yamaha.co.jp)